

第9期柏市高齢者いきいきプラン 21
策定のための在宅介護実態調査
集計結果報告書

令和5年3月

< 柏市 >

目次

I	在宅介護実態調査の概要	1
1	アンケート調査の目的	1
2	アンケート調査の実施概要	1
(1)	調査の対象者(数)と期間	1
(2)	調査の方法・手順	1
3	集計・分析における留意点	2
(1)	サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義	2
(2)	サービス利用のカテゴリー化に係る注意点	3
(3)	施設等検討の状況に係る用語の定義	3
(4)	その他	3
	単純集計報告	5
1	基本調査項目(A票)	5
(1)	世帯類型	5
(2)	家族等による介護の頻度	5
(3)	主な介護者の本人との関係	6
(4)	主な介護者の性別	6
(5)	主な介護者の年齢	7
(6)	主な介護者が行っている介護	8
(7)	介護のための離職の有無	9
(8)	保険外の支援・サービスの利用状況	10
(9)	在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	11
(10)	施設等検討の状況	11
(11)	本人が抱えている傷病	12
(12)	訪問診療の利用の有無	13
(13)	介護保険サービスの利用の有無	13
(14)	介護保険サービス未利用の理由	14
(15)	本人の幸福度	15
(16)	本人の生活への満足度	15
2	主な介護者様用の調査項目(B票)	16
(1)	主な介護者の勤務形態	16
(2)	主な介護者の方の働き方の調整の状況	17
(3)	就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	18
(4)	主な介護者の就労継続の可否に係る意識	19
(5)	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	19
(6)	多重介護の経験	20
(7)	多重介護の対象者	20
(8)	主な介護者の幸福度	21

(9) 主な介護者の生活への満足度	21
3 要介護認定データ	22
(1) 年齢	22
(2) 性別	22
(3) 二次判定結果（要介護度）	23
(4) サービス利用の組み合わせ	23
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	24
(6) 通所系サービスの合計利用回数	24
(7) 短期系サービスの合計利用回数	25
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	25
介護保険事業計画の策定に向けた検討	29
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	29
1.1 集計・分析の狙い	29
1.2 集計結果と着目すべきポイント	29
(1) 基礎集計	29
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	31
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	34
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	39
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	43
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	46
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	50
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	57
2.1 集計・分析の狙い	57
2.2 集計結果と着目すべきポイント	58
(1) 基本集計	58
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	62
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	66
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	70
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	72
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	76
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	81
3.1 集計・分析の狙い	81
3.2 集計結果と着目すべきポイント	82
(1) 基礎集計	82
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	84
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	87
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	92
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	97
4.1 集計・分析の狙い	97

4.2	集計結果と着目すべきポイント	97
(1)	基礎集計	97
(2)	「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	99
(3)	「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	102
(4)	「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	106
5	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	111
5.1	集計・分析の狙い	111
5.2	集計結果と着目すべきポイント	111
(1)	基礎集計	111
(2)	訪問診療の利用割合	114
(4)	訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	118
6	サービス未利用の理由など	120
6.1	集計・分析の狙い	120
6.2	集計結果（参考）	121
(1)	要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	121
(2)	認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	125
(3)	認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	129
(4)	本人の年齢別・主な介護者の年齢	133
(5)	要介護度別の抱えている傷病	134
(6)	訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	135
	調査結果の概要	136
1	検討テーマと集計・分析の狙い	136
2	まとめ	137
(1)	在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	137
(2)	仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	137
(3)	保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	138
(4)	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	138
(5)	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	138
(6)	サービス未利用の理由など	139
	調査票	140

I 在宅介護実態調査の概要

1 アンケート調査の目的

本アンケート調査（以下、本調査）は、第9期柏市高齢者いきいきプラン21の策定に向けて、「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労の継続」に有効な介護サービスの在り方を検討するため、実施するものです。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の対象者（数）と期間

本調査の対象は、在宅で生活している要支援・要介護者のうち無作為に抽出した1,271人の方です。

調査対象期間、および回収状況は、以下の通りです。

< 調査対象期間と調査対象者数 >

対象期間	対象数	回収数	回収率
令和4年11月30日～ 令和4年12月23日	1,271人	733人	57.7%

(2) 調査の方法・手順

調査の方法：郵送配布，郵送回収

調査の手順：アンケート調査の結果と認定調査の結果を「被保険者番号」で関連付けて，
両データを合わせた詳細な分析を行いました。

3 集計・分析における留意点

(1) サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

<サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語		定義
未利用		・「住宅改修」「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・訪問介護,(介護予防)訪問入浴介護,(介護予防)訪問看護,(介護予防)訪問リハビリテーション,(介護予防)居宅療養管理指導,夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・通所介護,(介護予防)通所リハビリテーション,(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・(介護予防)短期入所生活介護,(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

<サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系(もしくは定期巡回)+通所系」,「訪問系(もしくは定期巡回)+短期系」,「訪問系(もしくは定期巡回)+通所系+短期系」,「小規模多機能」,「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」,「短期系」,「通所系+短期系」の利用を集計しています。

(2) サービス利用のカテゴリー化に係る注意点

(1)の通り、報告書では、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。

(3) 施設等検討の状況に係る用語の定義

本集計では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」「入所・入居を検討している（検討中）」「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。

(4) その他

図表タイトルの「 」は、オプション調査項目であることを示しています。

(単純集計報告)

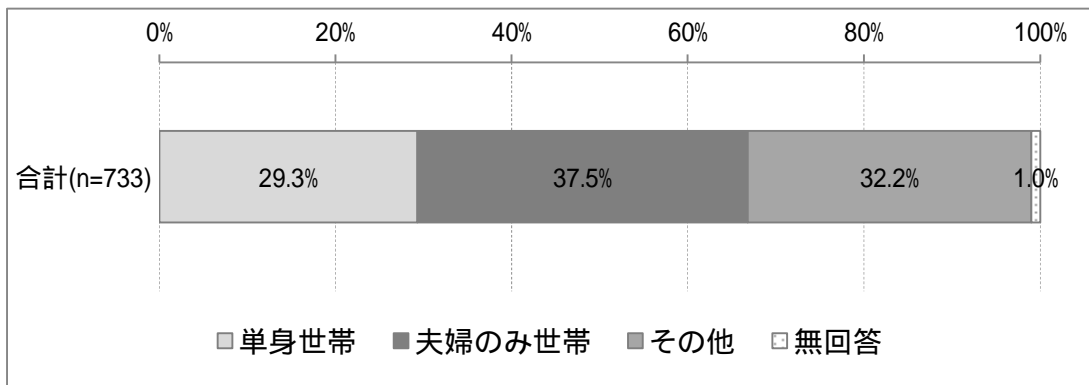
単純集計報告

1 基本調査項目 (A票)

(1) 世帯類型

「単身世帯」が29.3%、「夫婦のみ世帯」37.5%、「その他」32.2%となっている。

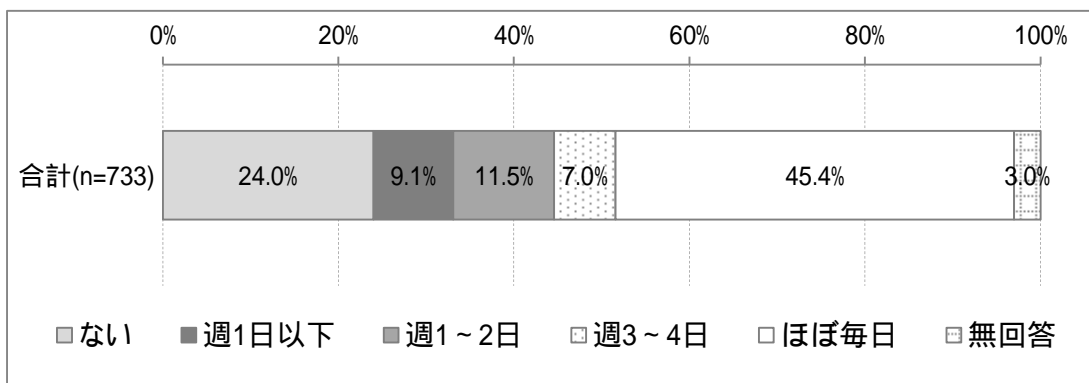
図表 1-1 世帯類型 (単数回答)



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く45.4%となっている。次いで、「ない(24.0%)」、「週1~2日(11.5%)」となっている。

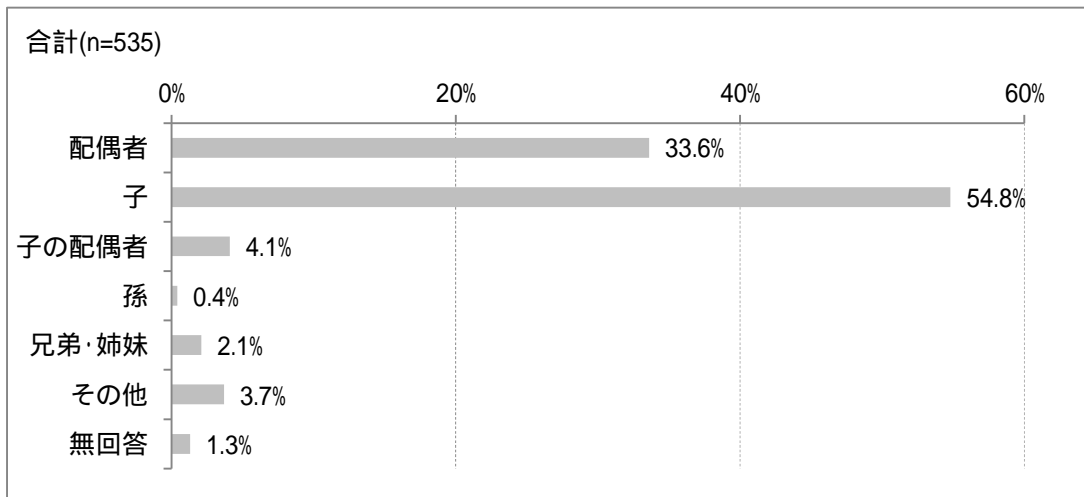
図表 1-2 家族等による介護の頻度 (単数回答)



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 54.8%となっている。次いで、「配偶者(33.6%)」、「子の配偶者(4.1%)」となっている。

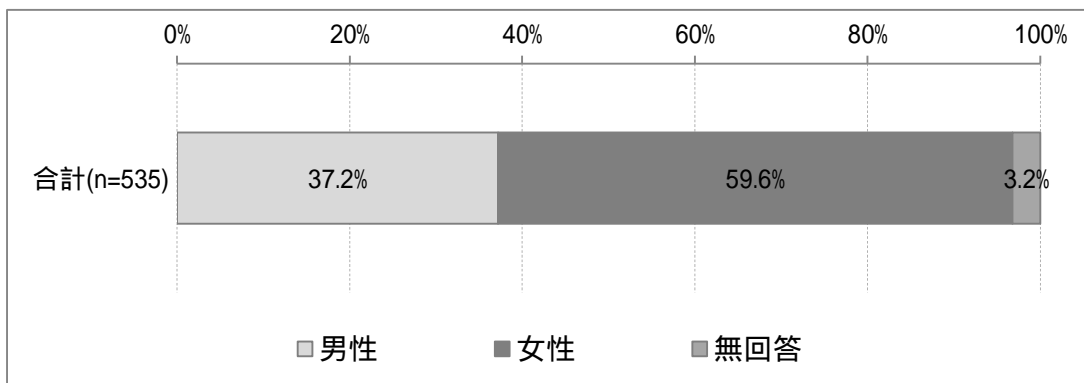
図表 1-3 主な介護者の本人との関係(単数回答)



(4) 主な介護者の性別

「男性」37.2%、「女性」が59.6%となっている。

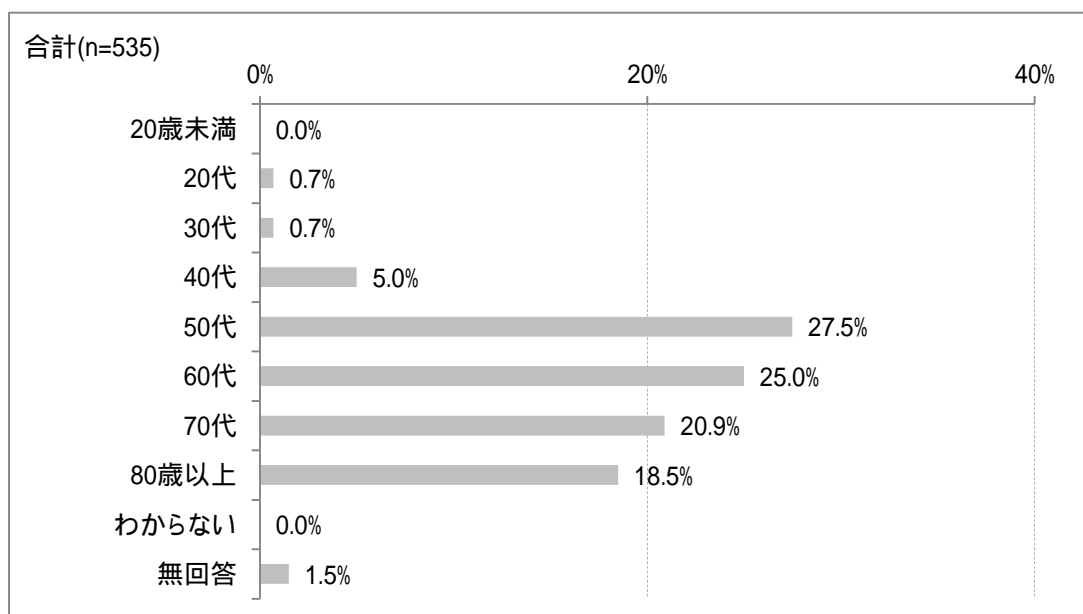
図表 1-4 主な介護者の性別(単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

「50代」の割合が最も高く27.5%となっている。次いで、「60代(25.0%)」、「70代(20.9%)」となっている。

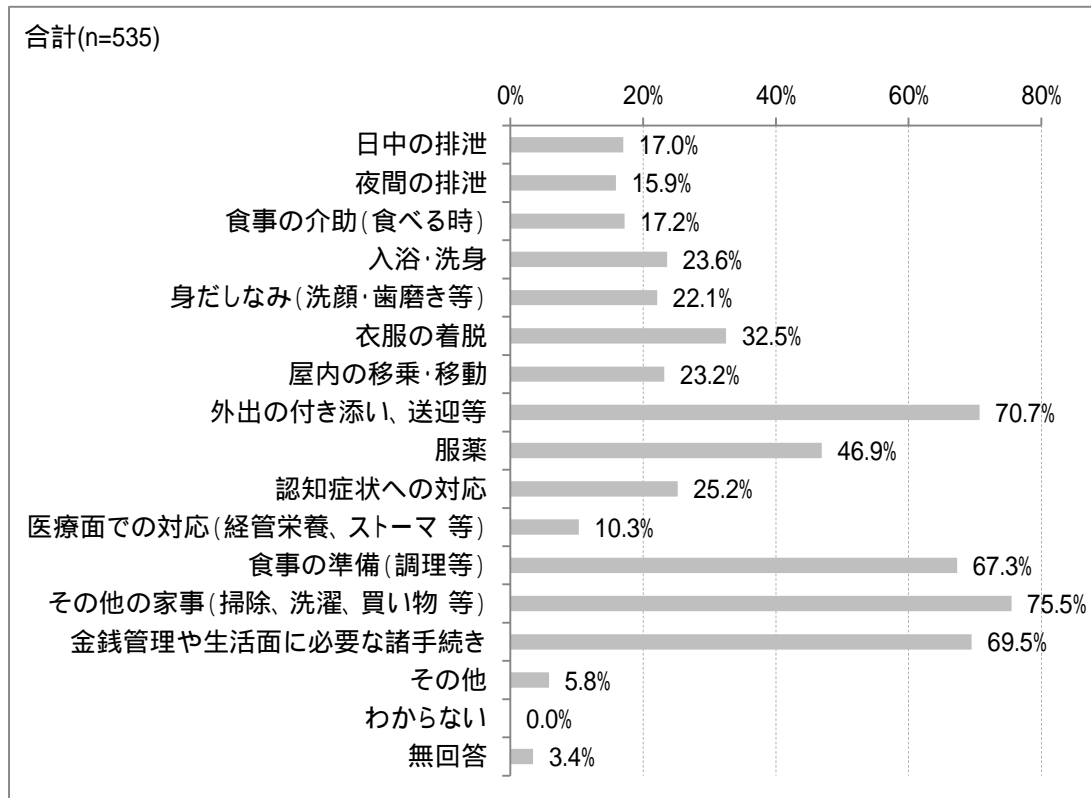
図表 1-5 主な介護者の年齢 (単数回答)



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」の割合が最も高く75.5%となっている。次いで、「外出の付き添い，送迎等（70.7%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（69.5%）」となっている。

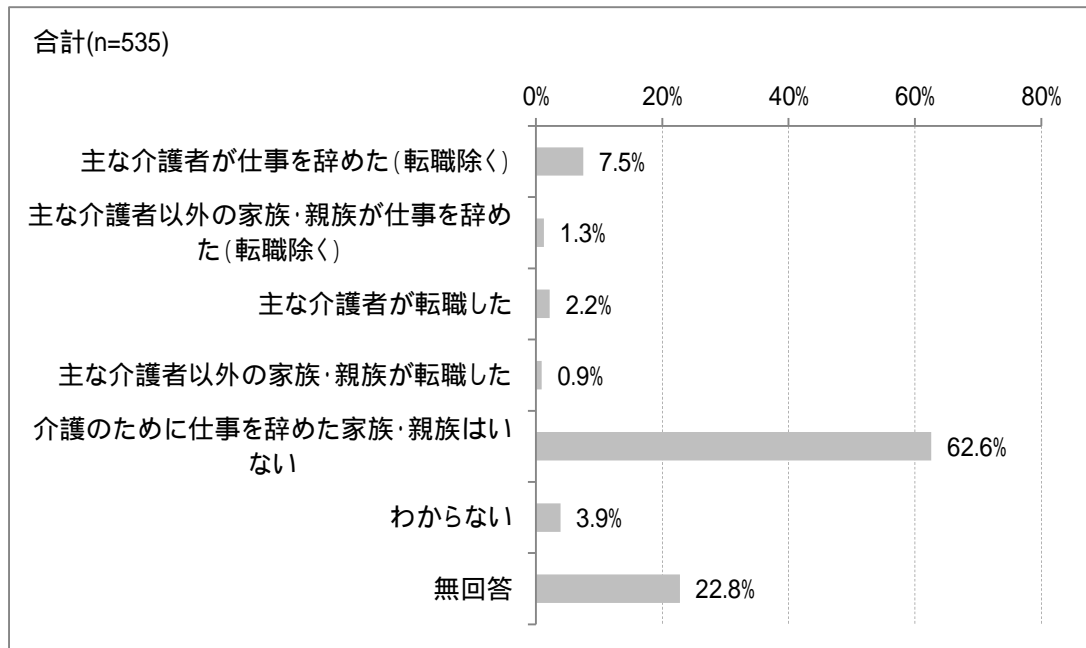
図表 1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 62.6%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(7.5%)」、「わからない(3.9%)」となっている。

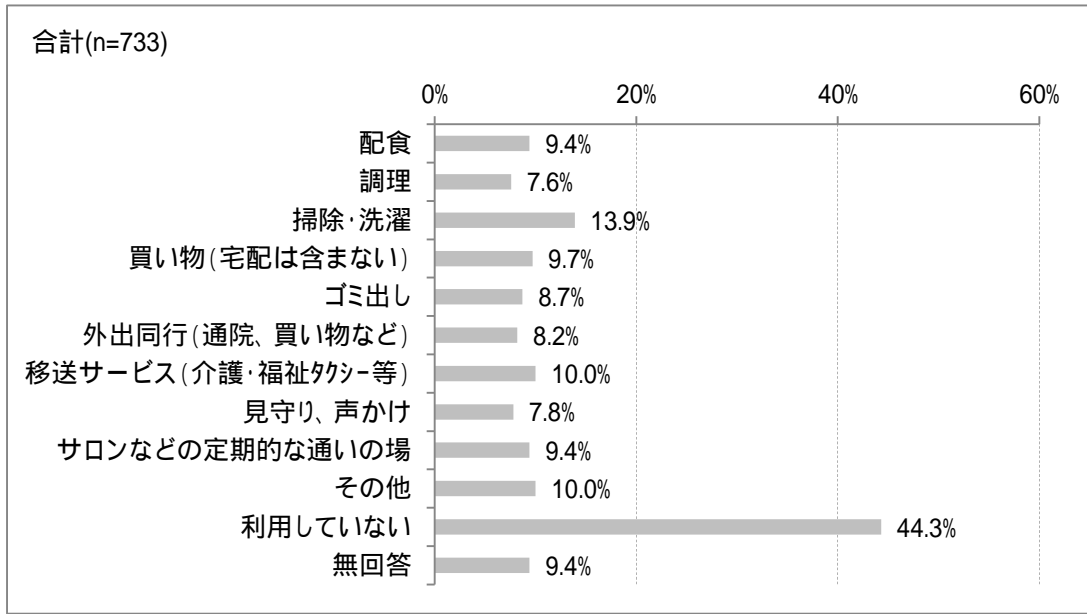
図表 1-7 介護のための離職の有無(複数回答)



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 44.3%となっている。次いで、「掃除・洗濯 (13.9%)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(10.0%)」、「その他(10.0%)」となっている。

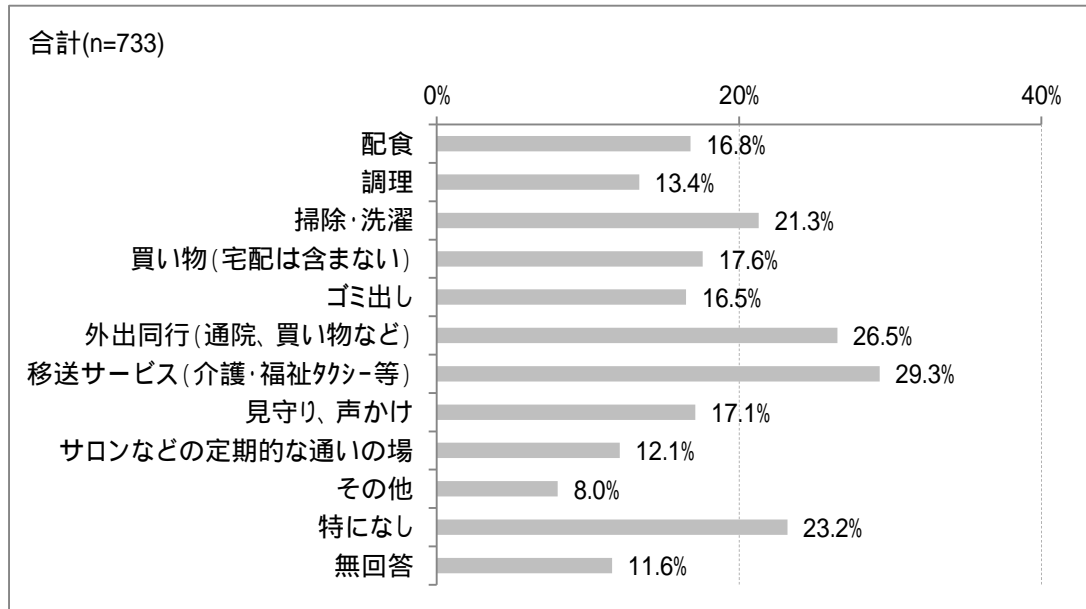
図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況(複数回答)



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く 29.3%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（26.5%）」、「特になし（23.2%）」となっている。

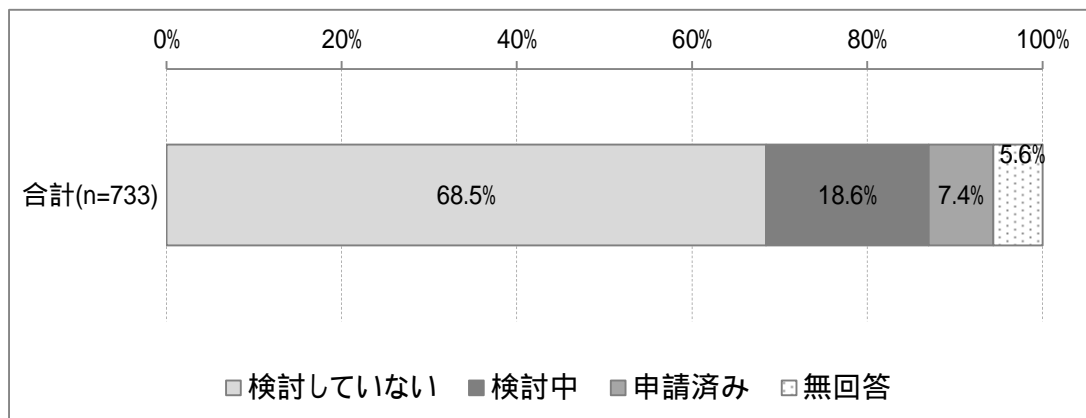
図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 68.5%となっている。次いで、「検討中（18.6%）」、「申請済み（7.4%）」となっている。

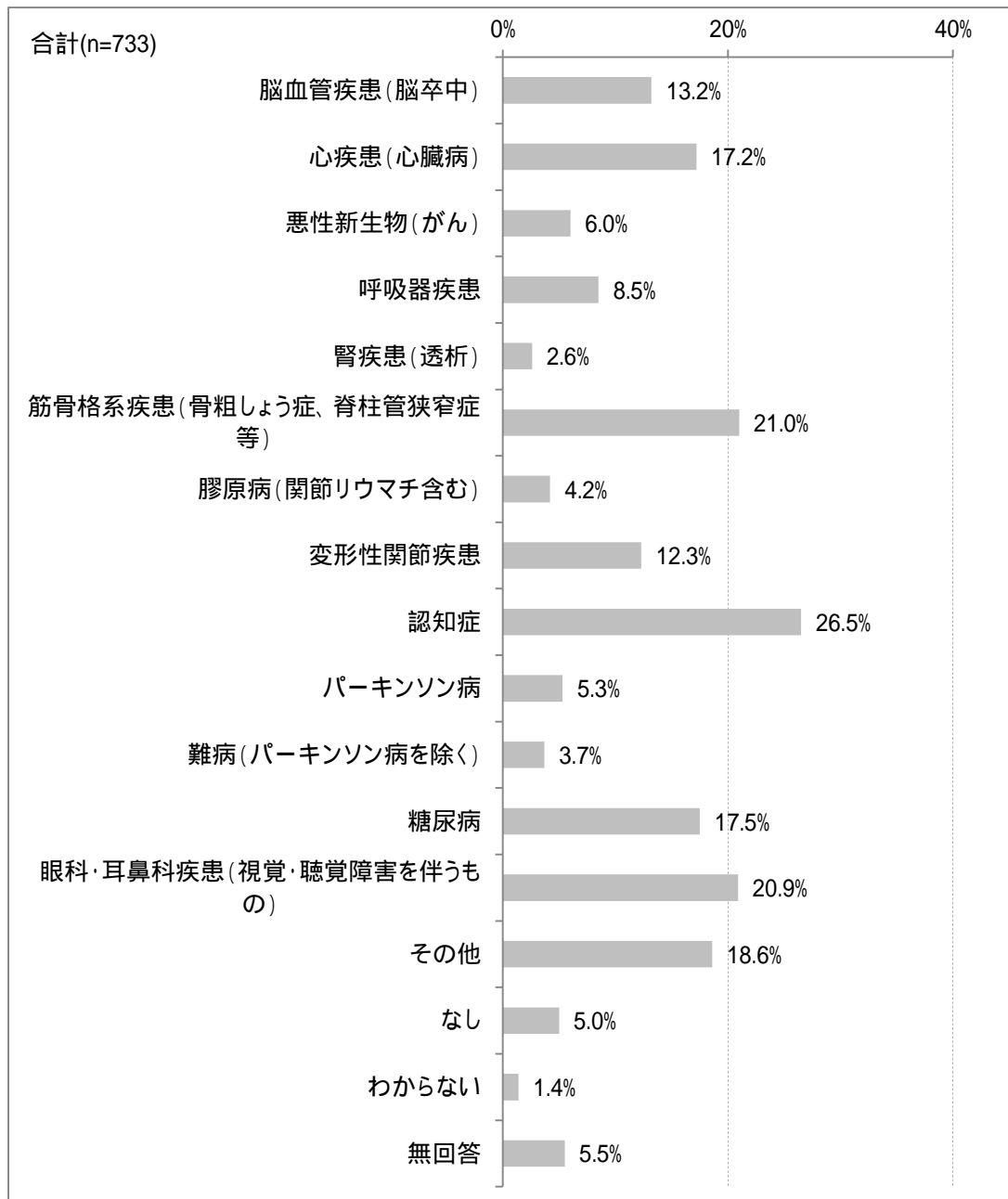
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「認知症」の割合が最も高く 26.5%となっている。次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）（21.0%）」，「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）（20.9%）」となっている。

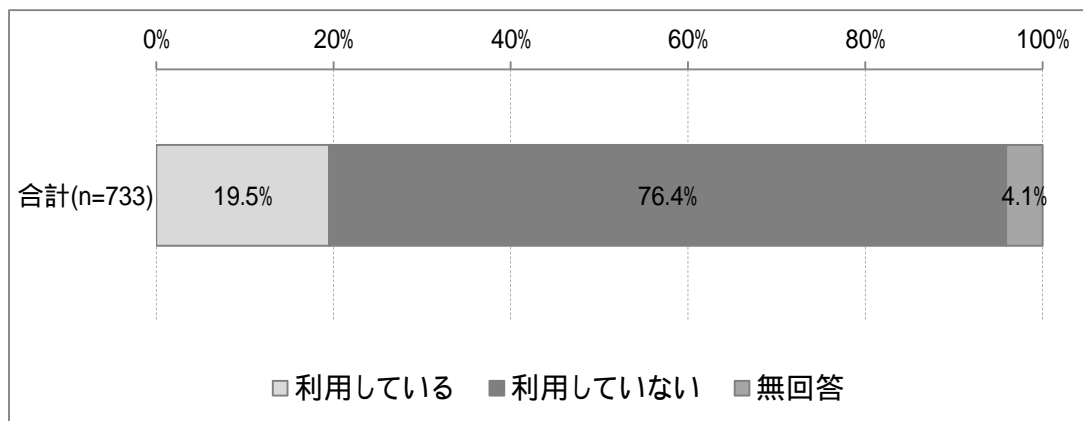
図表 1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」が76.4%、「利用している」が19.5%となっている。

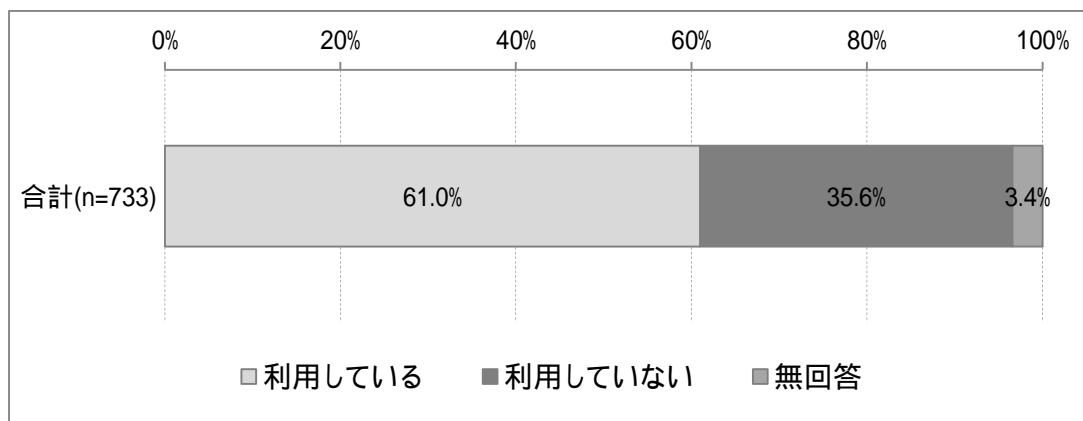
図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」が61.0%、「利用していない」が35.6%となっている。

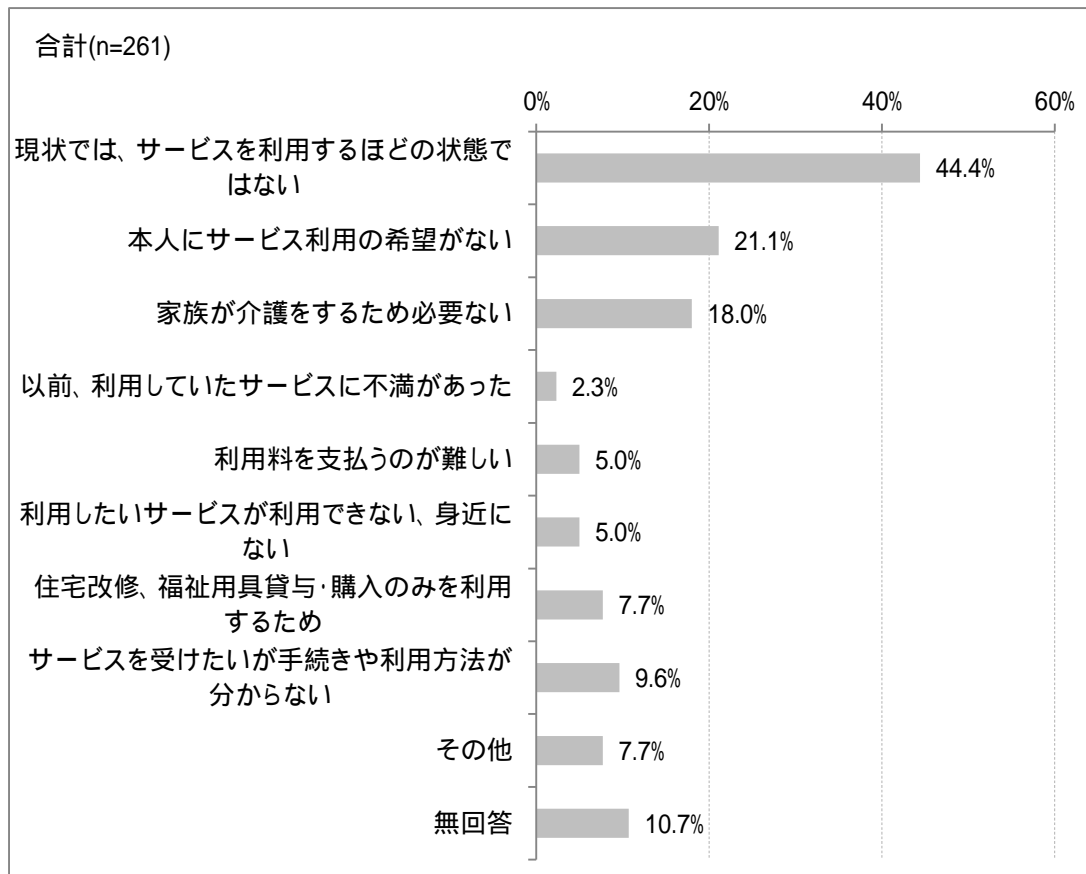
図表 1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く44.4%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない(21.1%)」、「家族が介護をするため必要ない(18.0%)」となっている。

図表 1-14 介護保険サービスの未利用の理由(複数回答)



(15) 本人の幸福度

「5点」が19.2%で最も多く、次いで「8点」が17.7%、「7点」が13.2%となっている。「幸福感のある人（8点～10点）」は37.8%となっている。

図表 1-15 本人の幸福度（単数回答）

上段：人数 下段：割合（%）

全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	無回答
733	96	51	130	97	66	141	22	34	13	11	7	65
100.0	13.1	7.0	17.7	13.2	9.0	19.2	3.0	4.6	1.8	1.5	1.0	8.9

(16) 本人の生活への満足度

「5点」が19.2%で最も多く、次いで「8点」が16.6%、「7点」が14.5%となっている。「生活に満足している人（8点～10点）」は36.3%となっている。

図表 1-16 本人の生活への満足度（単数回答）

上段：人数 下段：割合（%）

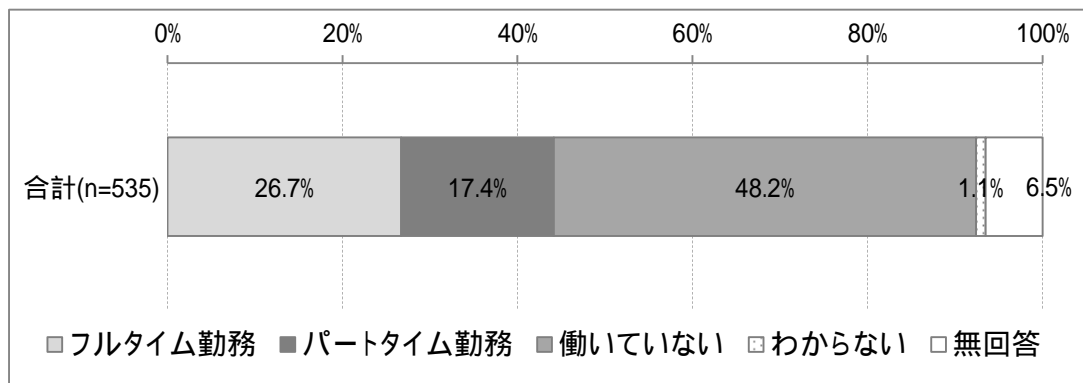
全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	無回答
733	90	54	122	106	57	141	26	38	14	12	11	62
100.0	12.3	7.4	16.6	14.5	7.8	19.2	3.5	5.2	1.9	1.6	1.5	8.5

2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 48.2%となっている。次いで、「フルタイム勤務（26.7%）」、「パートタイム勤務（17.4%）」となっている。

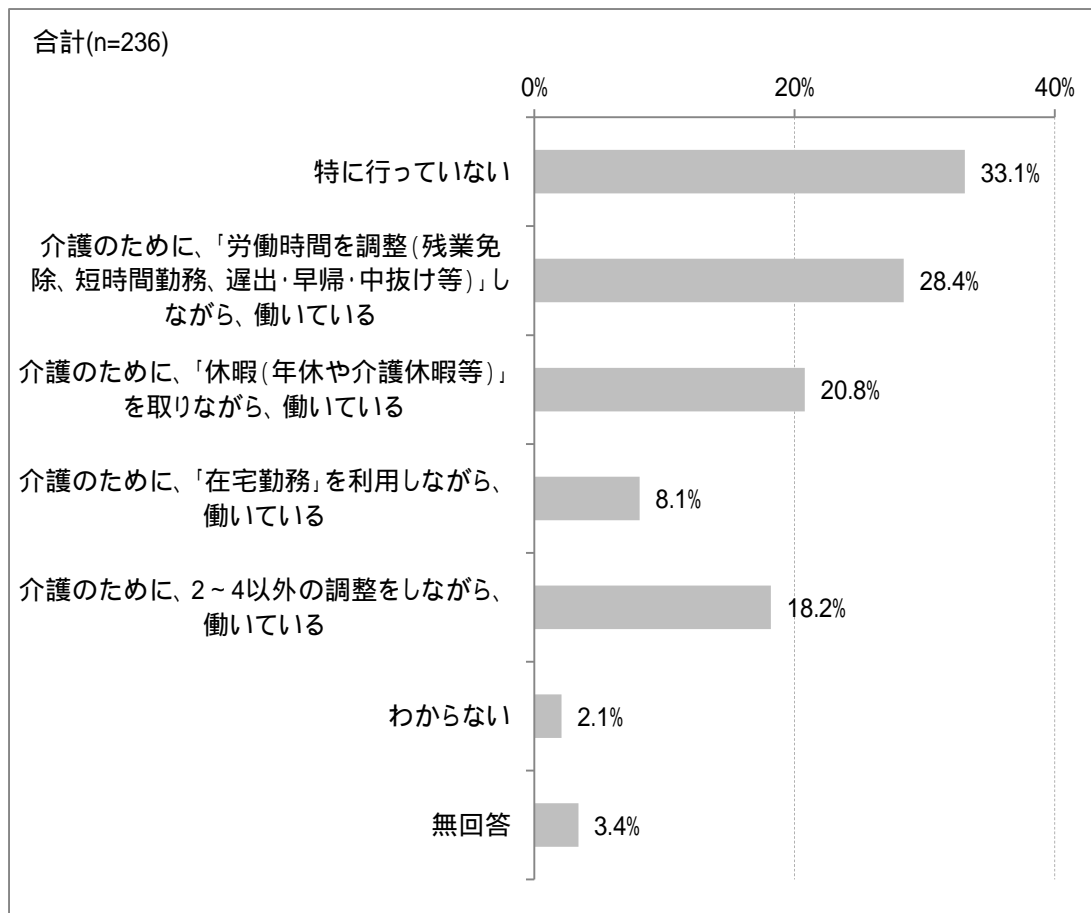
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 33.1%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（28.4%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（20.8%）」となっている。

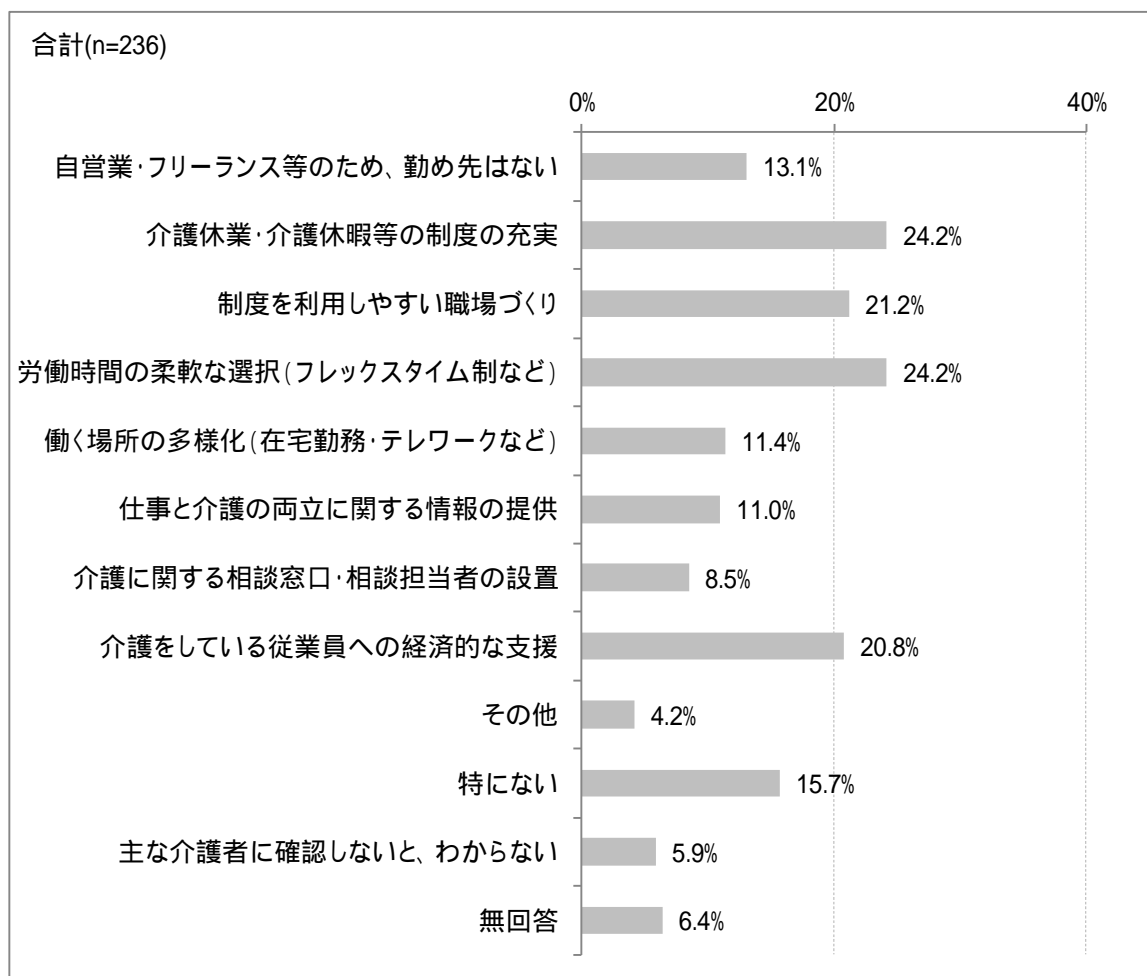
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が高く、それぞれ24.2%となっている。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり（21.2%）」、「介護をしている従業員への経済的な支援（20.8%）」となっている。

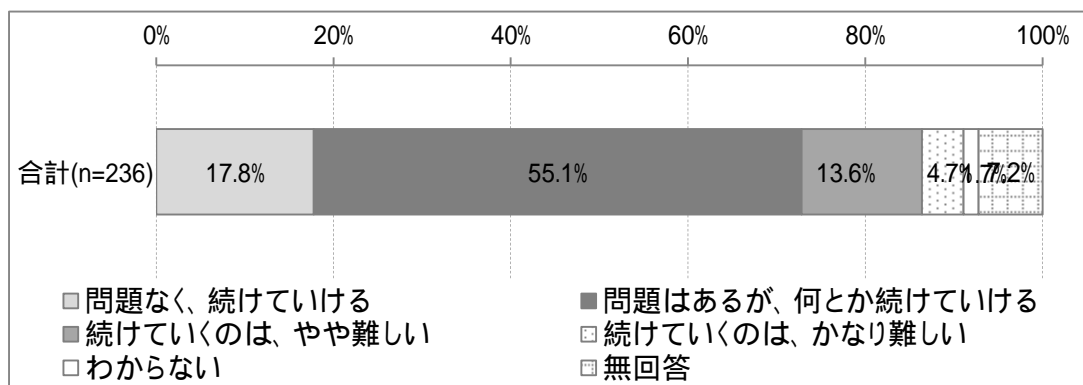
図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 55.1%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (17.8%)」、「続けていくのは、やや難しい (13.6%)」となっている。

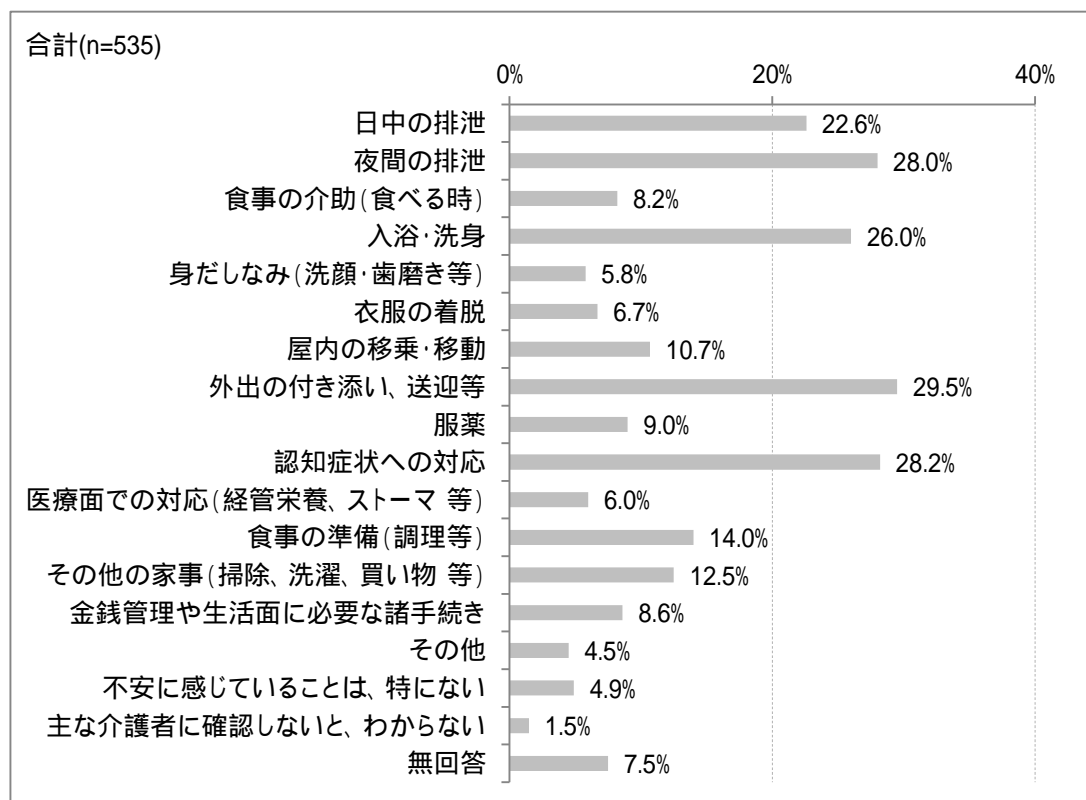
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 29.5%となっている。次いで、「認知症状への対応 (28.2%)」、「夜間の排泄 (28.0%)」となっている。

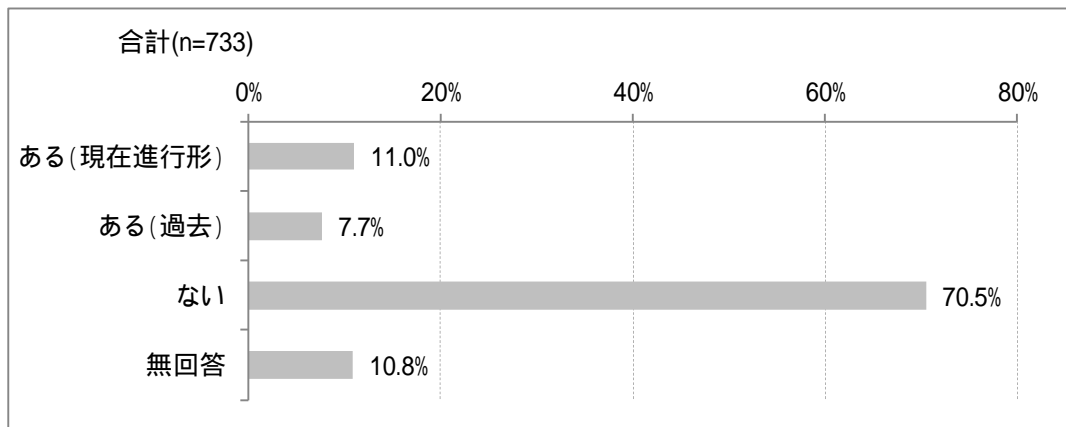
図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護 (複数回答)



(6) 多重介護の経験

「ない」が70.5%で最も多く、次いで「ある（現在進行形）」が11.0%、「ある（過去形）」が7.7%となっている。「ある（現在進行形）」「ある（過去形）」を合わせた“ある”は18.7%となっている。

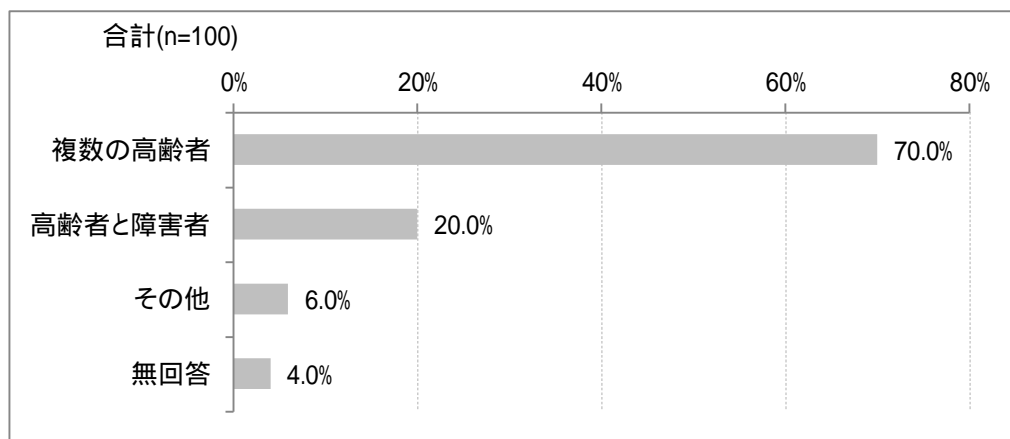
図表 2-6 多重介護の経験（単数回答）



(7) 多重介護の対象者

「複数の高齢者」が70.0%で最も多く、次いで「高齢者と障害者」が20.0%、「その他」が6.0%となっている。

図表 2-7 多重介護の対象者（単数回答）



(8) 主な介護者の幸福度

「5点」が19.6%で最も多く、次いで「8点」が12.5%、「7点」が12.1%となっている。「幸福感のある人(8点~10点)」は23.4%となっている。

図表 2-8 主な介護者の幸福度(単数回答)

上段：人数 下段：割合(%)

全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	無回答
535	32	26	67	65	54	105	35	36	23	9	16	67
100.0	6.0	4.9	12.5	12.1	10.1	19.6	6.5	6.7	4.3	1.7	3.0	12.5

(9) 主な介護者の生活への満足度

「5点」が17.9%で最も多く、次いで「8点」が11.8%、「6点」が11.6%となっている。「生活に満足している人(8点~10点)」は20.3%となっている。

図表 2-9 主な介護者の生活への満足度(単数回答)

上段：人数 下段：割合(%)

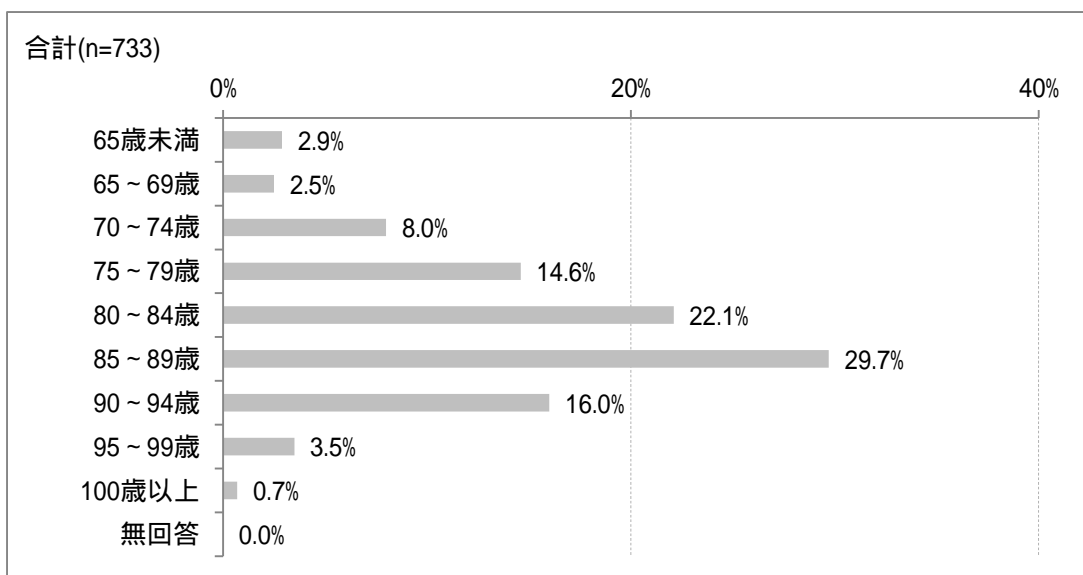
全体	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	無回答
535	26	19	63	58	62	96	36	46	22	13	24	70
100.0	4.9	3.6	11.8	10.8	11.6	17.9	6.7	8.6	4.1	2.4	4.5	13.1

3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く29.7%となっている。次いで、「80～84歳(22.1%)」、「90～94歳(16.0%)」となっている。

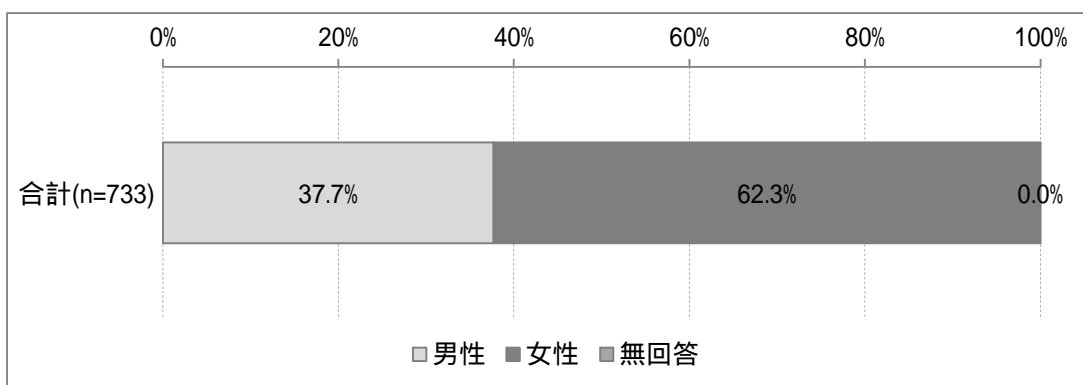
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」が62.3%、「男性」が37.7%となっている。

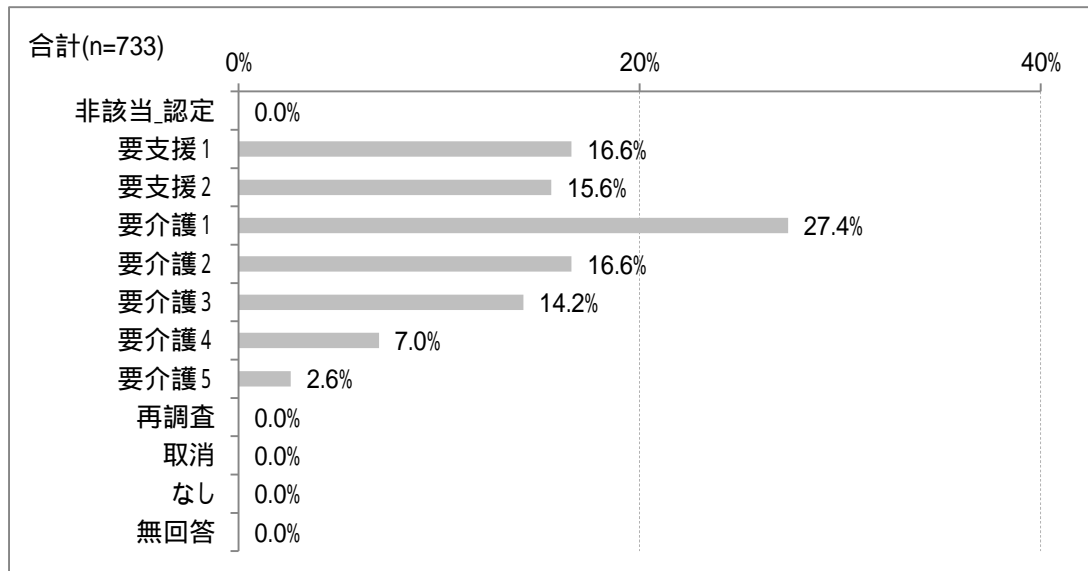
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」の割合が最も高く27.4%となっている。次いで、「要支援1（16.6%）」、「要介護2（16.6%）」、「要支援2（15.6%）」となっている。

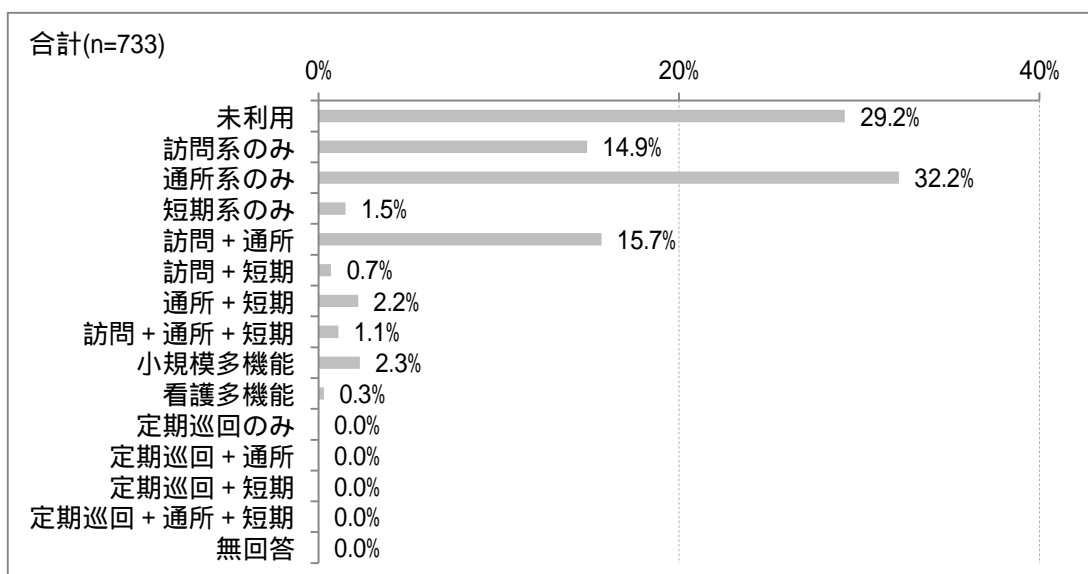
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く32.2%となっている。次いで、「未利用（29.2%）」、「訪問+通所（15.7%）」となっている。

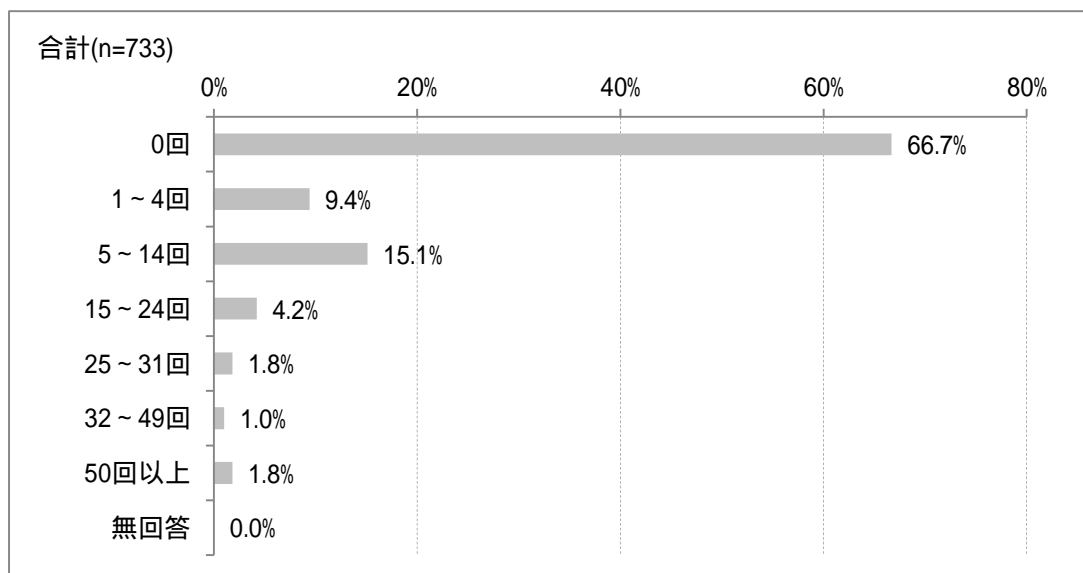
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く66.7%となっている。次いで、「5～14回(15.1%)」、「1～4回(9.4%)」となっている。

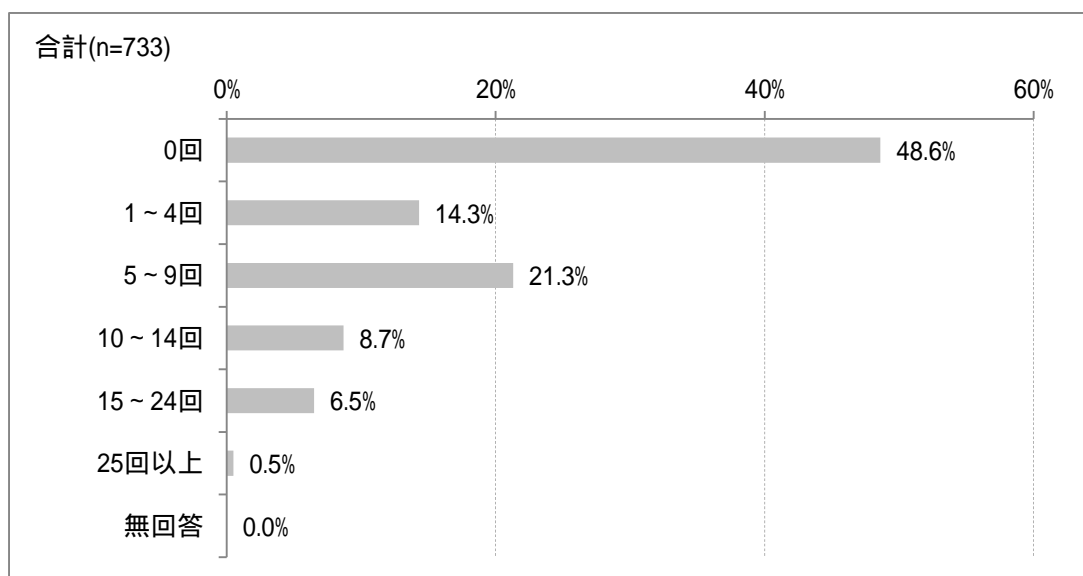
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く48.6%となっている。次いで、「5～9回(21.3%)」、「1～4回(14.3%)」となっている。

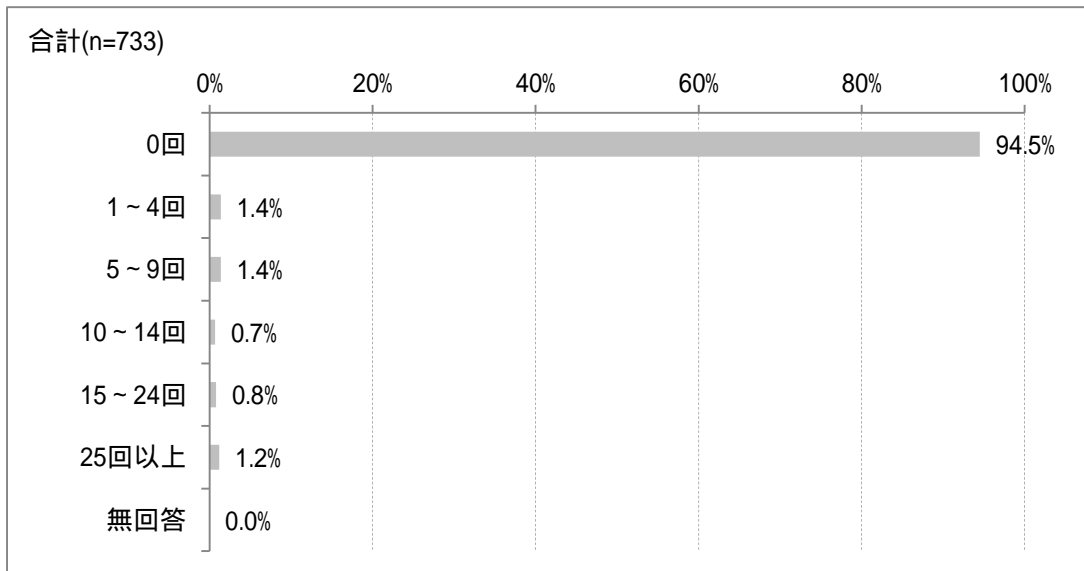
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く94.5%となっている。次いで、「1～4回(1.4%)」、「5～9回(1.4%)」、「25回以上(1.2%)」となっている。

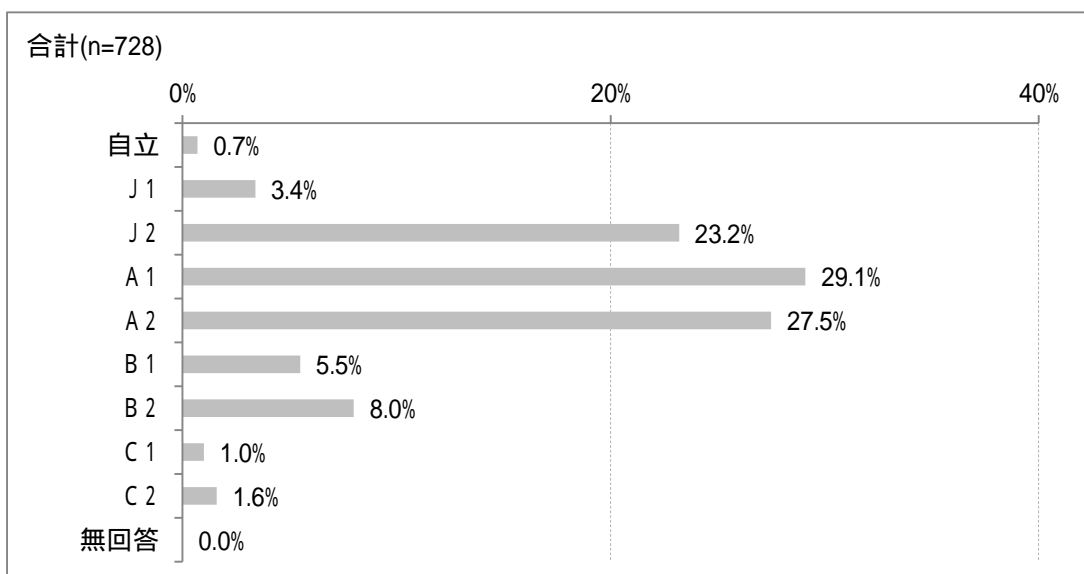
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A1」の割合が最も高く29.1%となっている。次いで、「A2(27.5%)」、「J2(23.2%)」となっている。

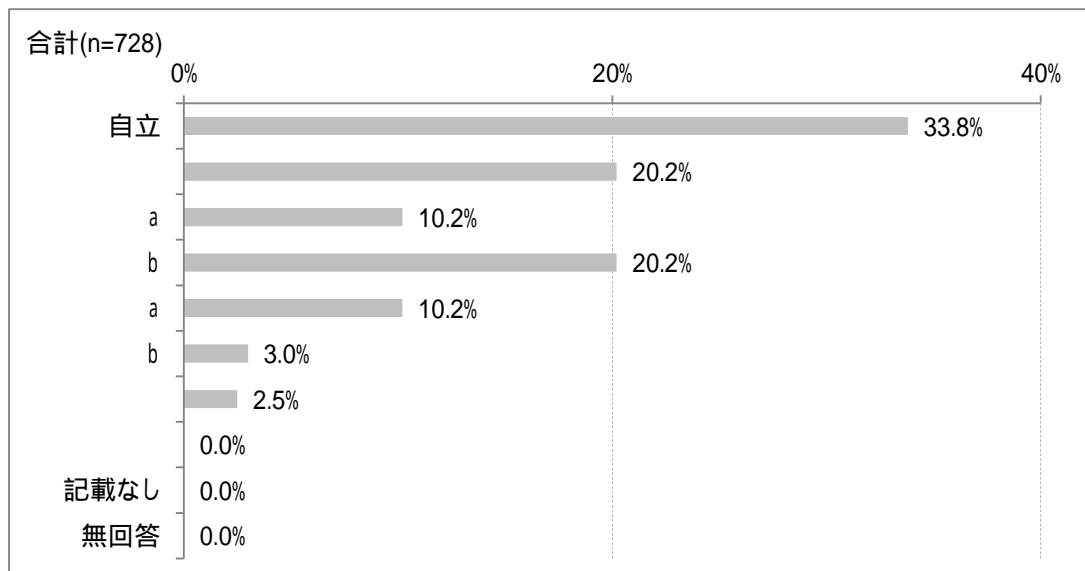
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く 33.8%となっている。次いで、「 (20.2%)」、「 b (20.2%)」、「 a (10.2%)」、「 a (10.2%)」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



(介護保険事業計画の策定に向けた検討)

介護保険事業計画の策定に向けた検討

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度 以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

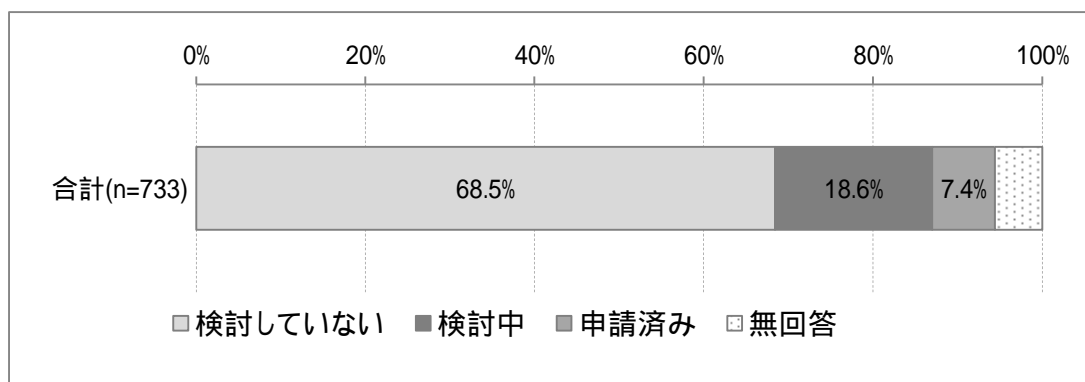
(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 68.5%となっている。次いで、「検討中（18.6%）」、「申請済み（7.4%）」となっている。

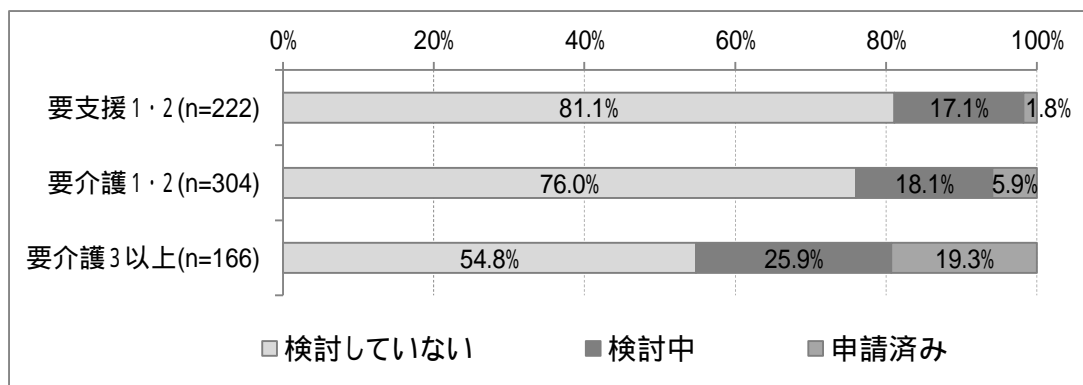
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が81.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.1%、「申請済み」が1.8%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が76.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.1%、「申請済み」が5.9%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.9%、「申請済み」が19.3%となっている。

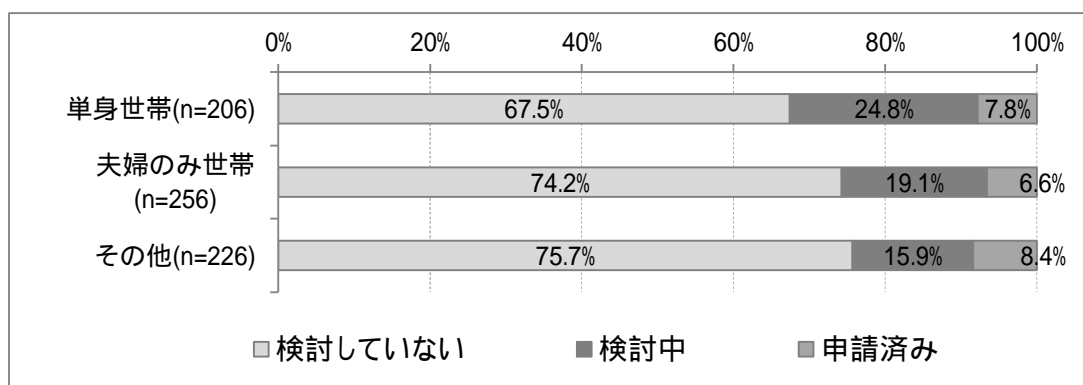
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<***>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が67.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.8%、「申請済み」が7.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が74.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.1%、「申請済み」が6.6%となっている。「その他」では「検討していない」が75.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.9%、「申請済み」が8.4%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4，図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えると考えられる「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

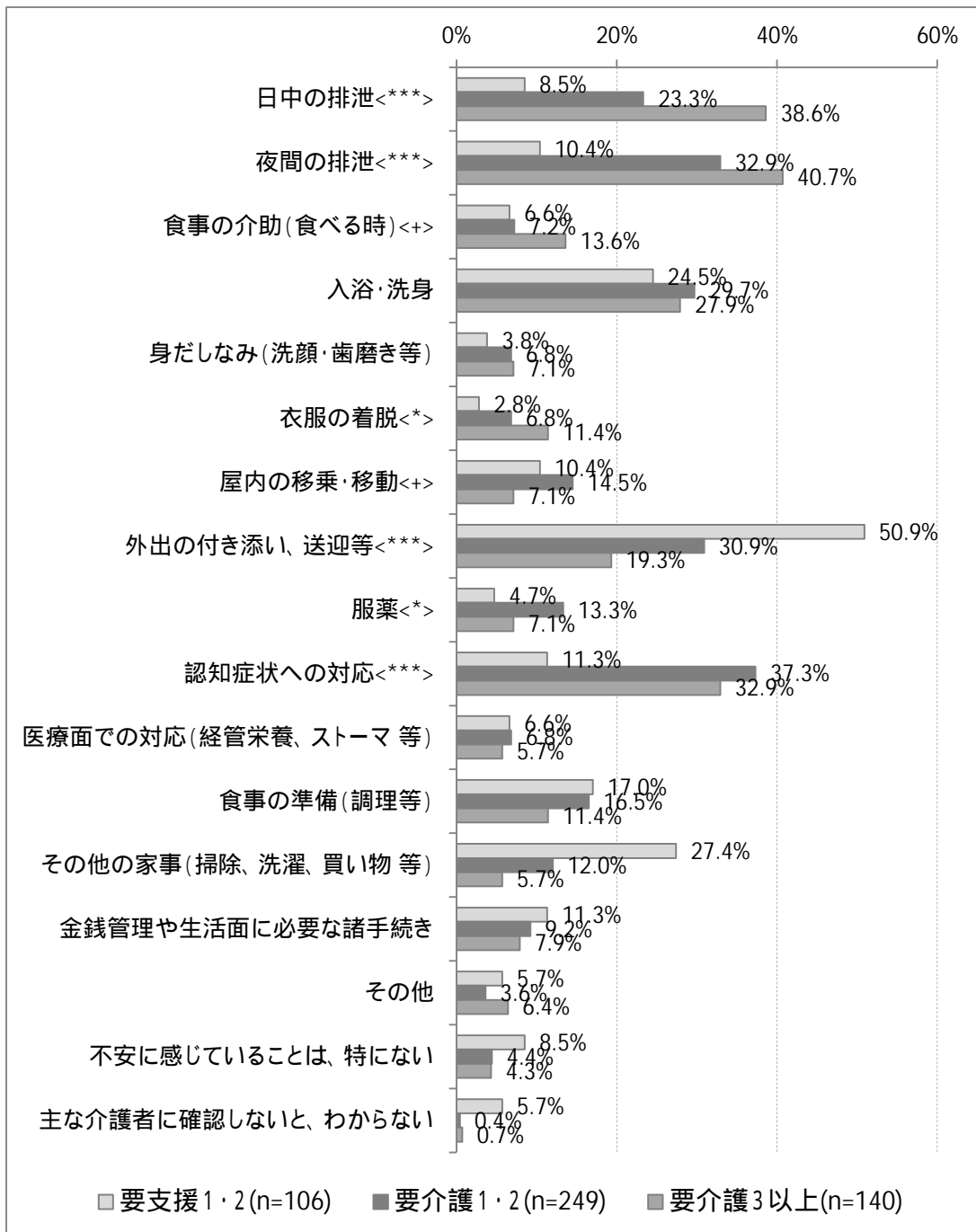
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養，ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別に見ると、「要支援1・2」では「外出の付き添い，送迎等」が50.9%ともっとも割合が高く，次いで「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」が27.4%，「入浴・洗身」が24.5%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が37.3%ともっとも割合が高く，次いで「夜間の排泄」が32.9%，「外出の付き添い，送迎等」が30.9%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が40.7%ともっとも割合が高く，次いで「日中の排泄」が38.6%，「認知症状への対応」が32.9%となっている。

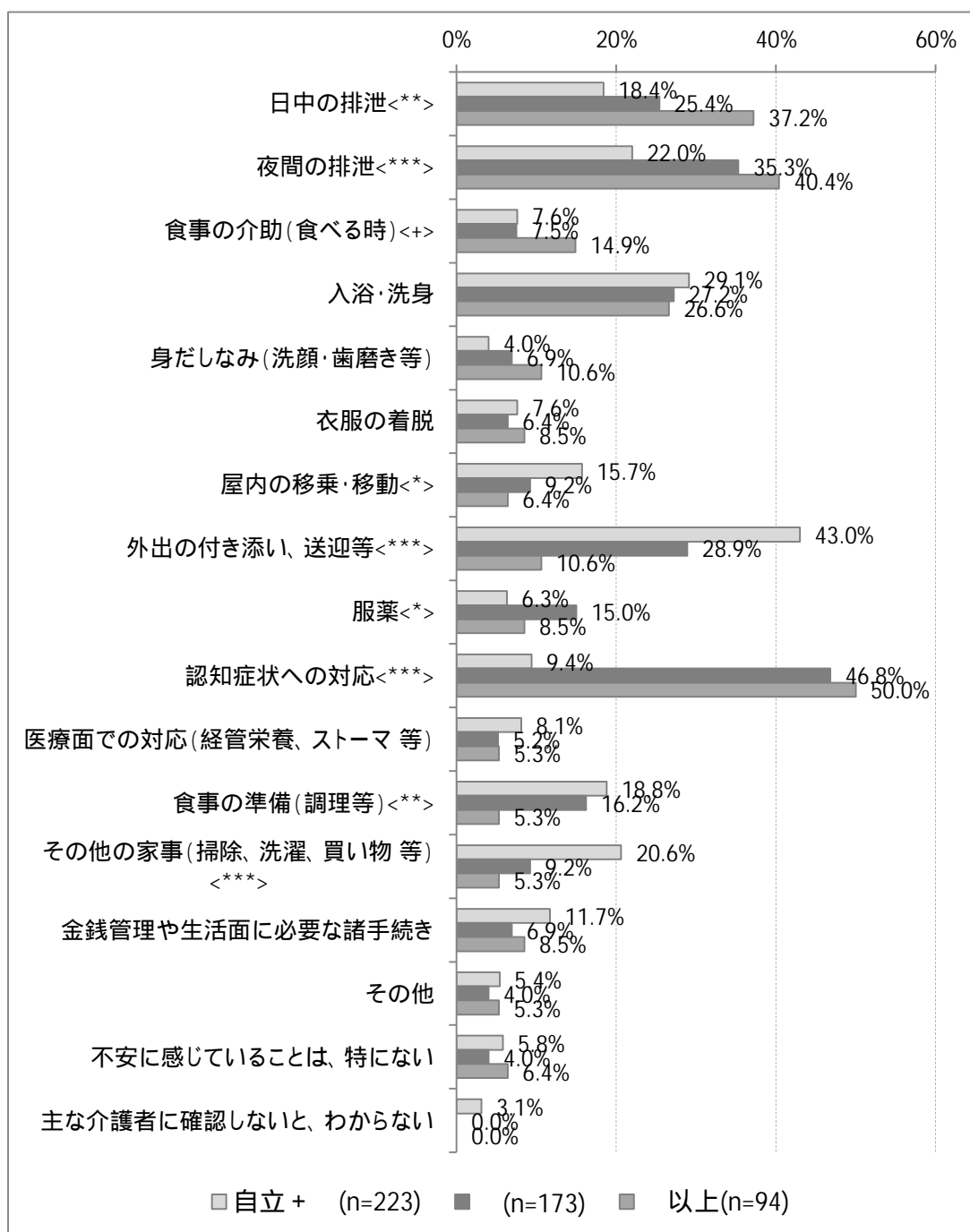
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「外出の付き添い、送迎等」が43.0%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が29.1%、「夜間の排泄」が22.0%となっている。「」では「認知症状への対応」が46.8%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.3%、「外出の付き添い、送迎等」が28.9%となっている。「以上」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が40.4%、「日中の排泄」が37.2%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6，図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

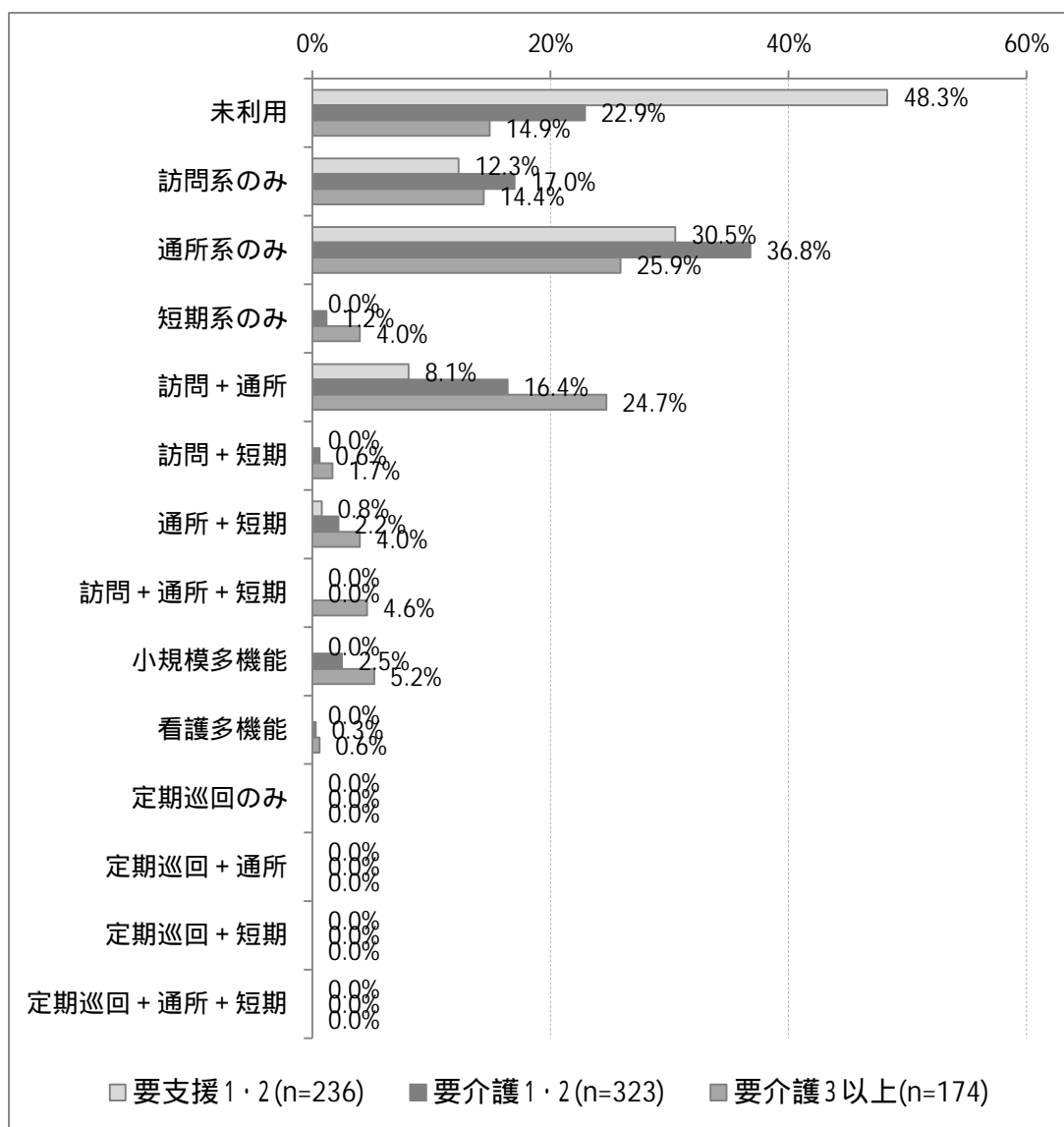
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別に見ると、「要支援1・2」では「未利用」が48.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が30.5%、「訪問系のみ」が12.3%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」が36.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.9%、「訪問系のみ」が17.0%となっている。「要介護3以上」では「通所系のみ」が25.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問+通所」が24.7%、「未利用」が14.9%となっている。

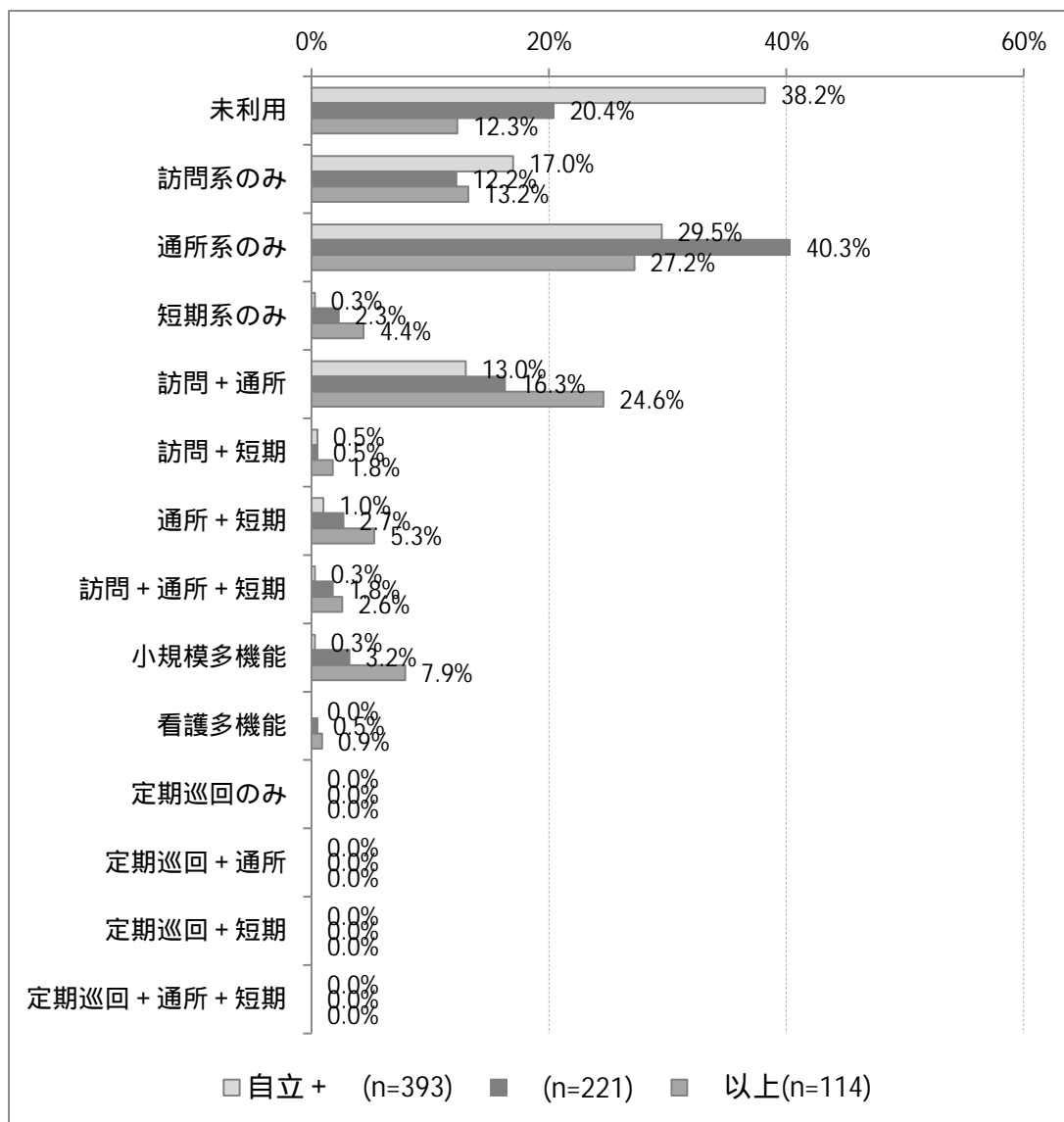
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ]

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「未利用」が38.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が29.5%、「訪問系のみ」が17.0%となっている。「」では「通所系のみ」が40.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が20.4%、「訪問+通所」が16.3%となっている。「以上」では「通所系のみ」が27.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問+通所」が24.6%、「訪問系のみ」が13.2%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



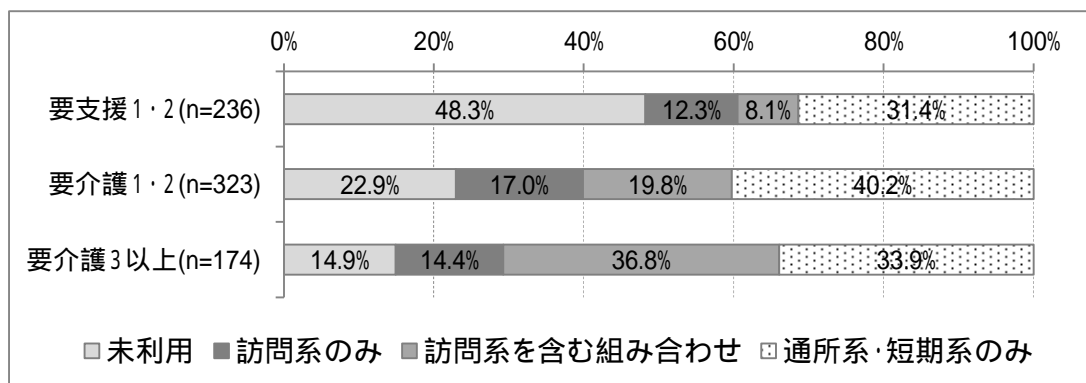
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8，図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6，図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6，図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が48.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.4%、「訪問系のみ」が12.3%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が40.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.8%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.9%、「未利用」が14.9%となっている。

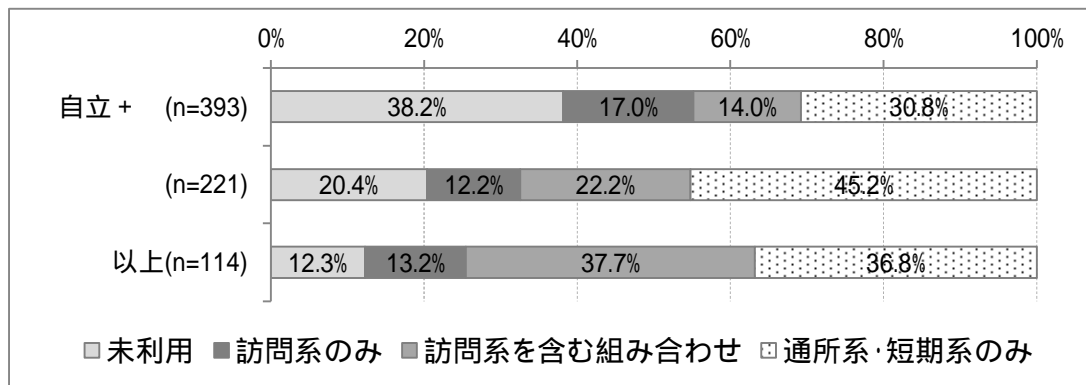
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「未利用」が38.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.8%、「訪問系のみ」が17.0%となっている。「」では「通所系・短期系のみ」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%、「未利用」が20.4%となっている。「以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が37.7%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が36.8%、「訪問系のみ」が13.2%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度 以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

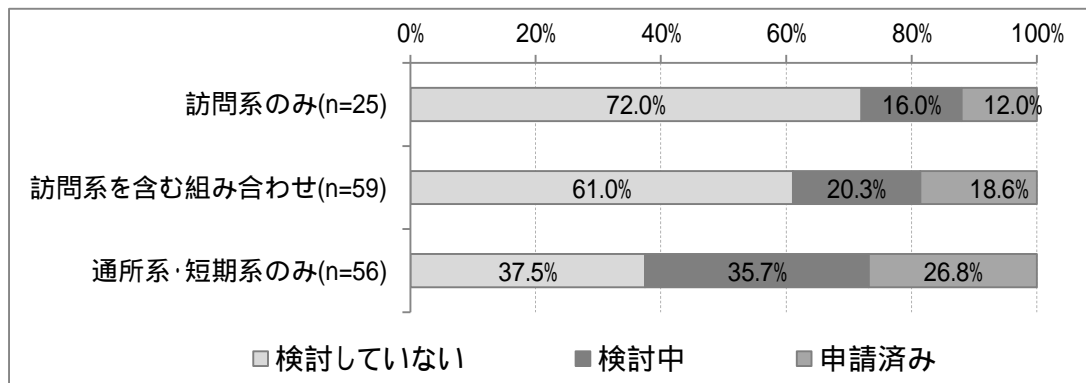
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「 のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、 のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が72.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.0%、「申請済み」が12.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が61.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.3%、「申請済み」が18.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が37.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が35.7%、「申請済み」が26.8%となっている。

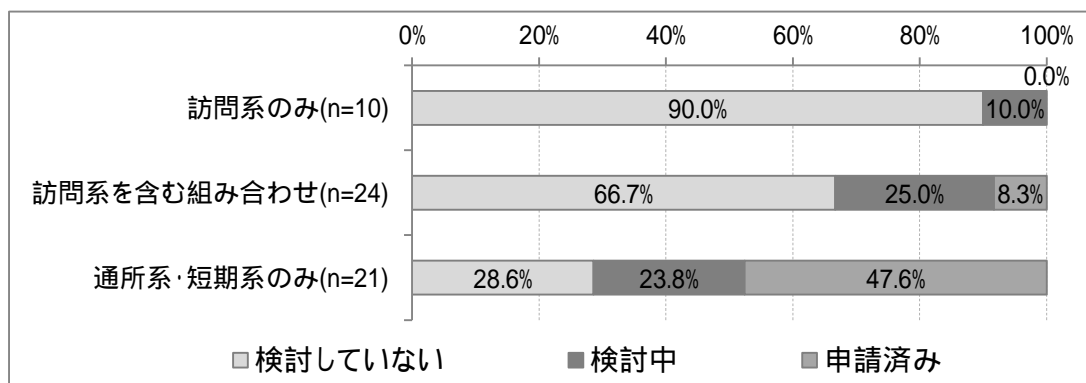
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）<*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が90.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.0%、「申請済み」が0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が8.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が47.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が28.6%、「検討中」が23.8%となっている。

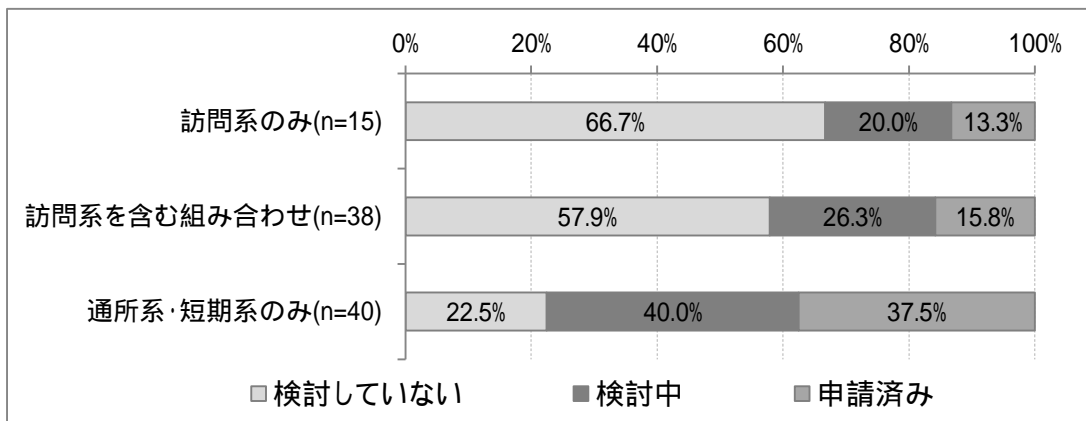
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）<***>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症 以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が13.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.3%、「申請済み」が15.8%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討中」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が37.5%、「検討していない」が22.5%となっている。

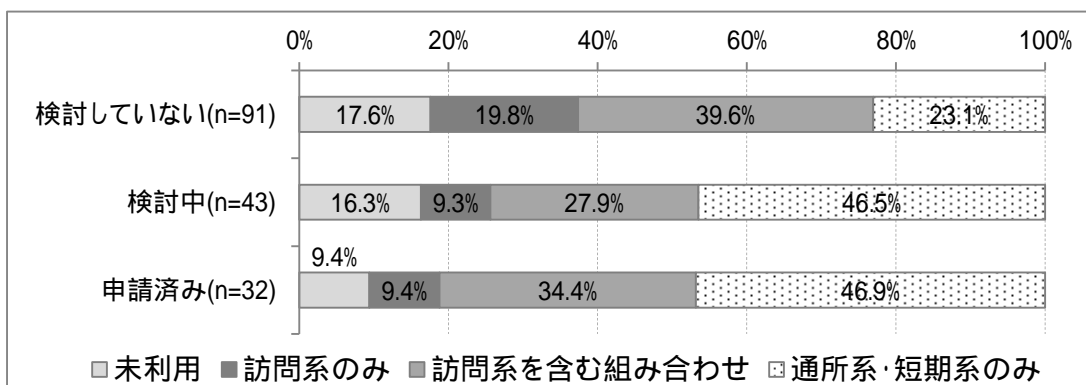
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症 以上) <***>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.1%、「訪問系のみ」が19.8%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が46.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.9%、「未利用」が16.3%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が46.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が34.4%、「未利用」が9.4%となっている。

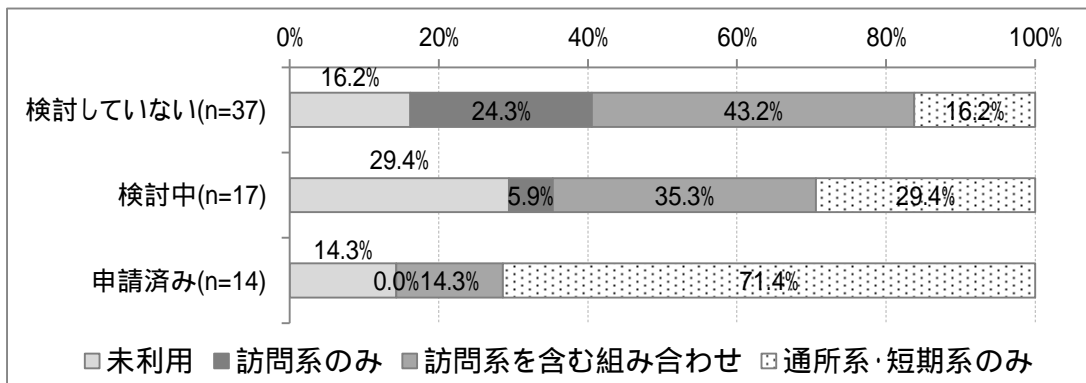
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上) <+>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が43.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.3%、「未利用」、「通所系・短期系のみ」が16.2%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が29.4%、「訪問系のみ」が5.9%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が14.3%、「訪問系のみ」が0.0%となっている。

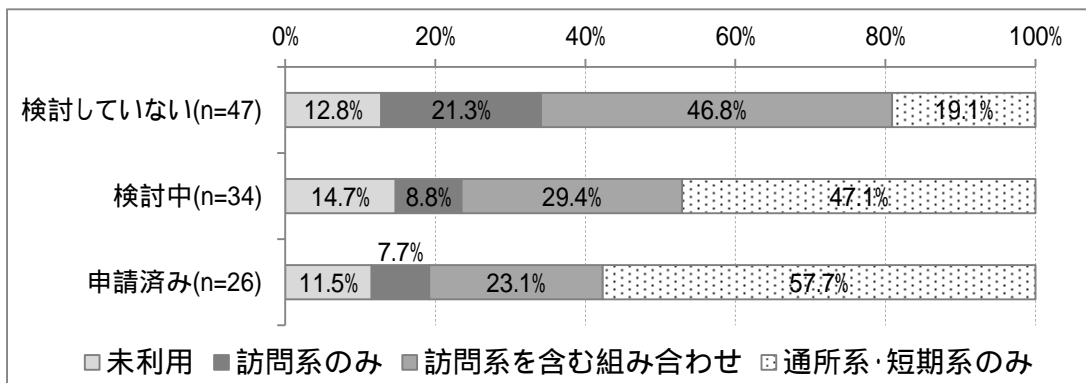
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）<*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症 以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.3%、「通所系・短期系のみ」が19.1%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.4%、「未利用」が14.7%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が57.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.1%、「未利用」が11.5%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症 以上）<*>



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16，図表 1-17）。それぞれ，要介護 3 以上と認知症自立度以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは，在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで，地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって，「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで，在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

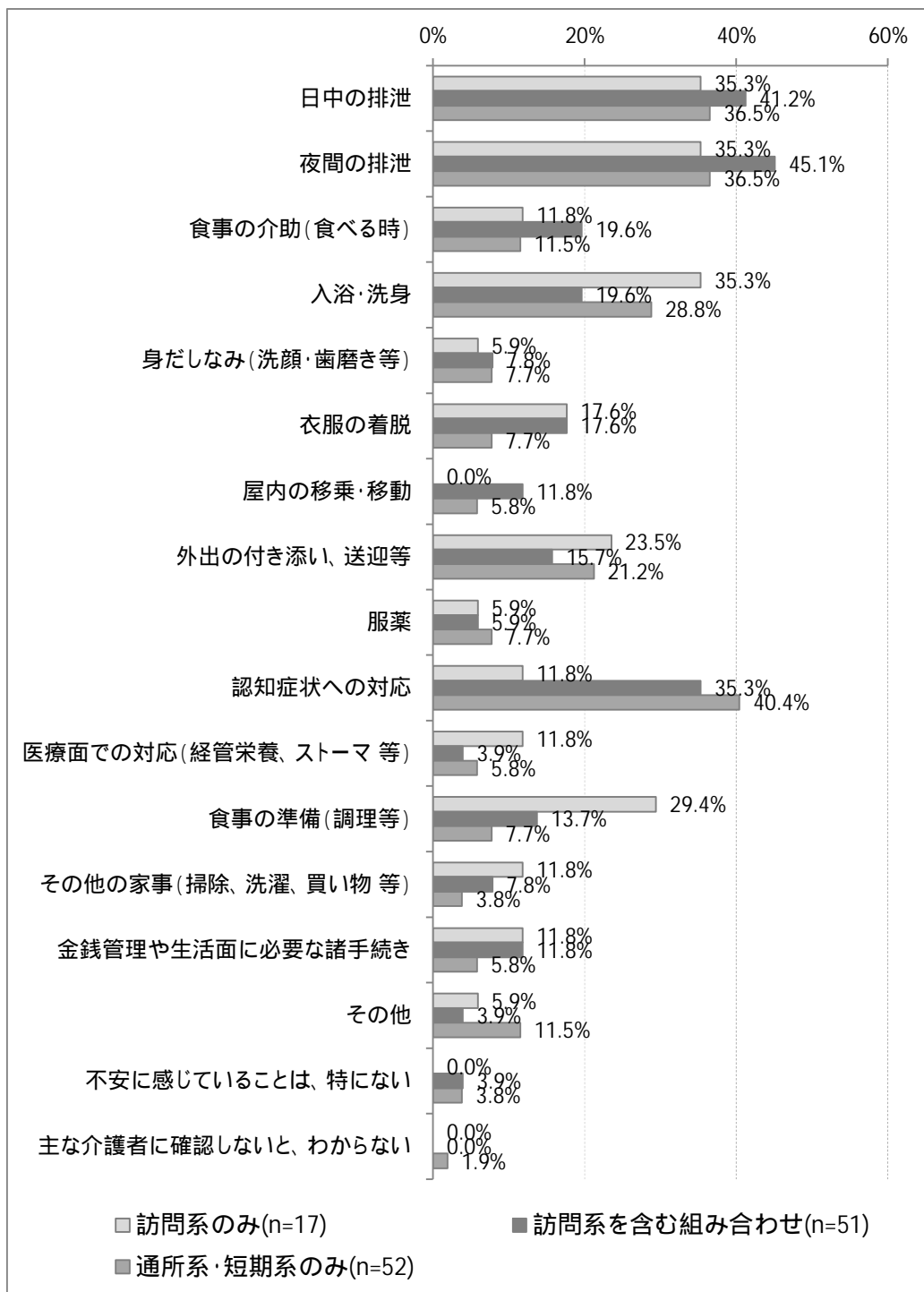
【留意事項】

- ただし，このような「サービス利用の組み合わせ」については，ケアマネジメントに直結する内容でもあることから，ここでの集計分析結果やその解釈については，ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら，地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば，「 のサービスを利用しているケースでは， の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても，「何故， のサービスを利用しているケースでは， の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には，地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が35.3%と最も割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」が29.4%、「外出の付き添い、送迎等」が23.5%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が45.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が41.2%、「認知症状への対応」が35.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が40.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が36.5%、「入浴・洗身」が28.8%となっている。

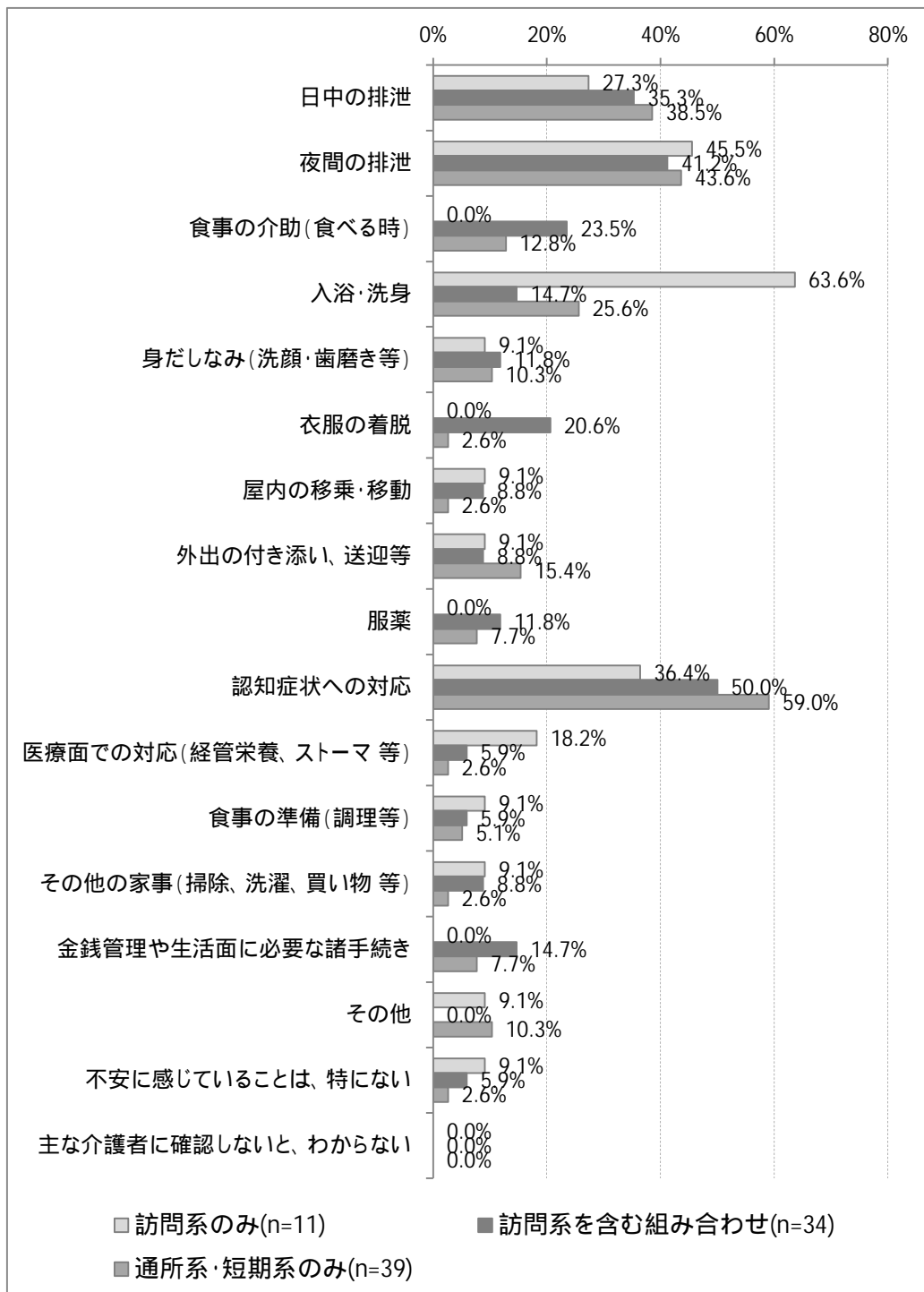
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症 以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」が63.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が45.5%、「認知症状への対応」が36.4%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が41.2%、「日中の排泄」が38.5%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が59.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が43.6%、「日中の排泄」が38.5%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症 以上)



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度 以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系，図表 1-20 と図表 1-21 通所系，図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い，施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで，在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

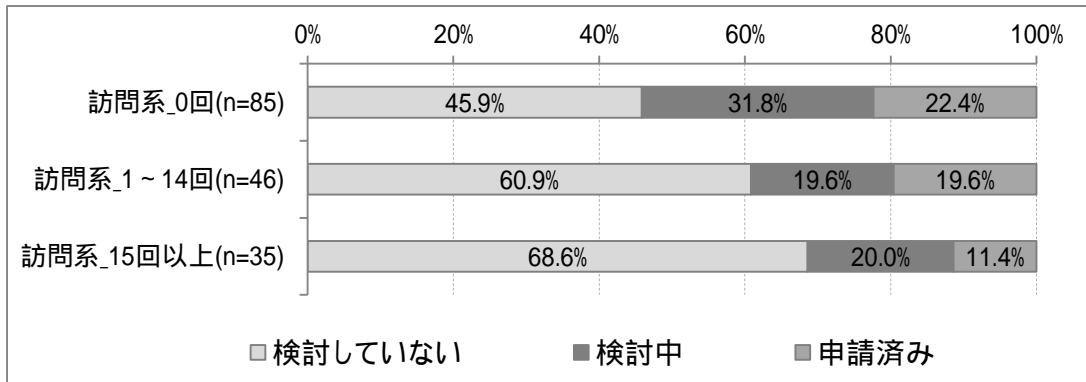
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と，ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に，在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様，ケアマネジメントに直結する内容であることから，ここでの集計分析結果やその解釈については，ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら，地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系, 要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が45.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が31.8%、「申請済み」が22.4%となっている。「訪問系_1~14回」では「検討していない」が60.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が19.6%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が68.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が11.4%となっている。

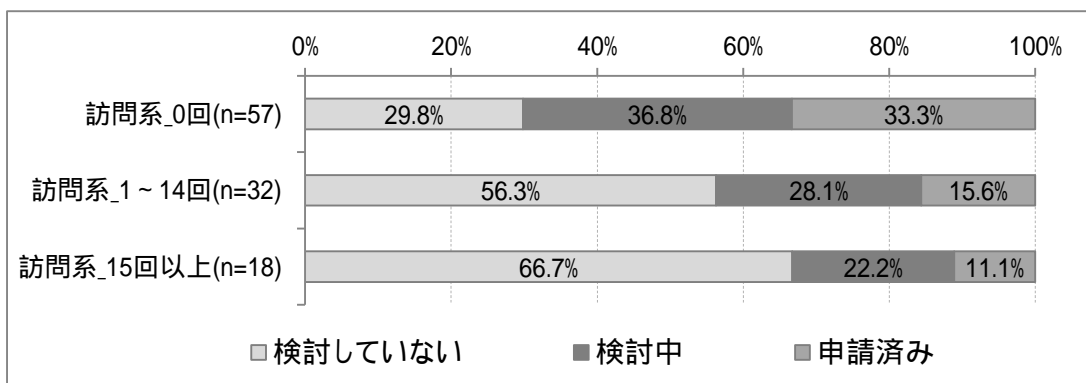
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系, 要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系, 認知症 以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討中」が36.8%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%、「検討していない」が29.8%となっている。「訪問系_1~14回」では「検討していない」が56.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.1%、「申請済み」が15.6%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が11.1%となっている。

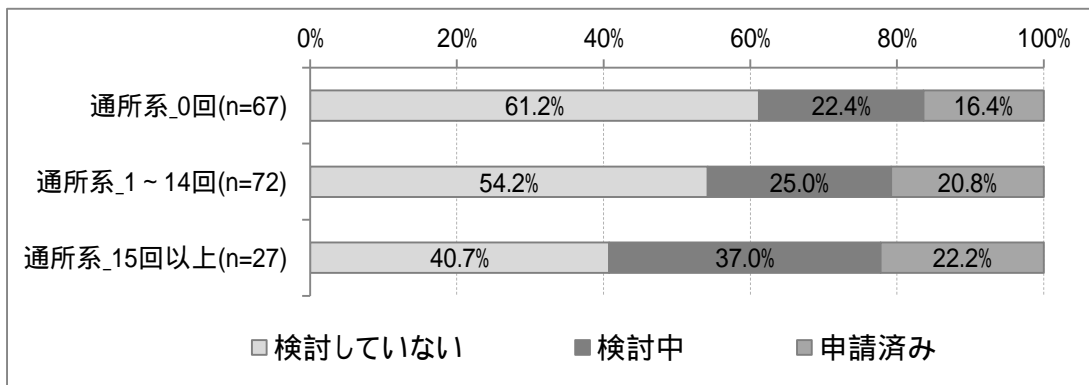
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系, 認知症 以上) <*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系,要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が61.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.4%、「申請済み」が16.4%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が54.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が20.8%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が40.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.0%、「申請済み」が22.2%となっている。

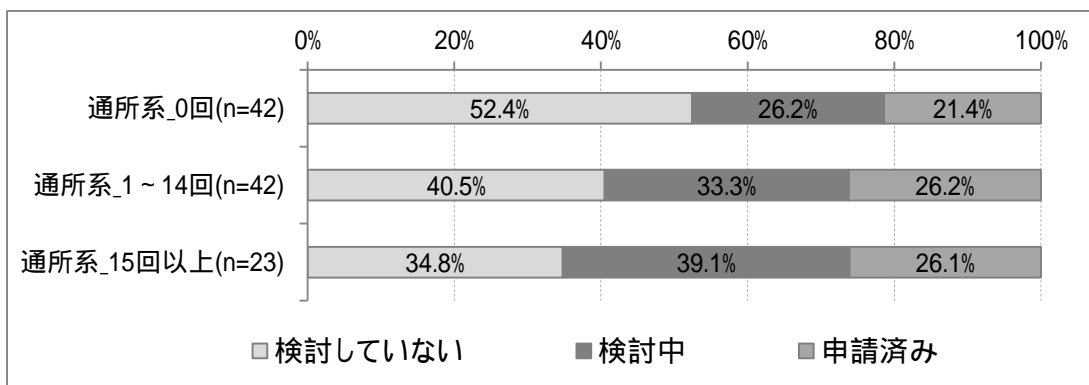
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系,要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系,認知症 以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が52.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.2%、「申請済み」が21.4%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が26.2%となっている。「通所系_15回以上」では「検討中」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が34.8%、「申請済み」が26.1%となっている。

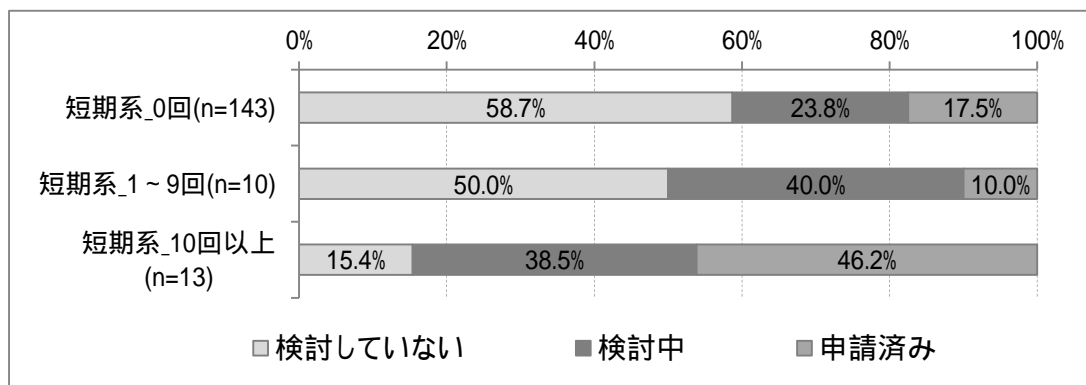
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系,認知症 以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系,要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が58.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.8%、「申請済み」が17.5%となっている。「短期系_1~9回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が40.0%、「申請済み」が10.0%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が38.5%、「検討していない」が15.4%となっている。

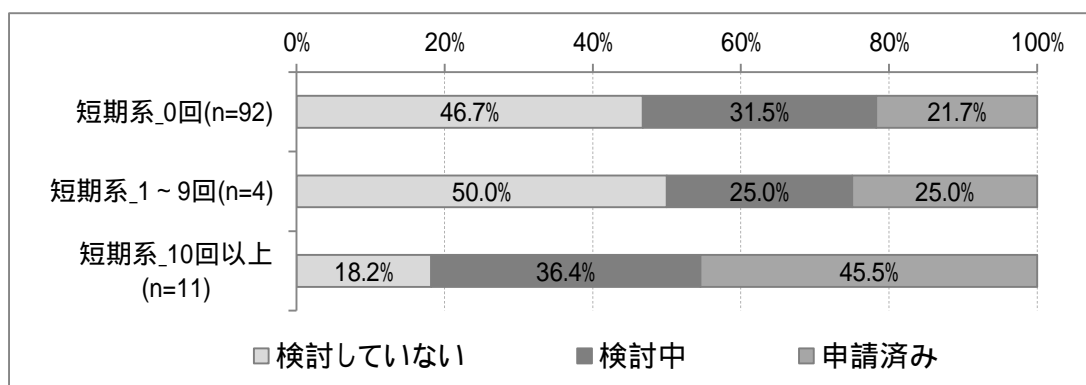
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系,要介護3以上) <*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系,認知症 以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が31.5%、「申請済み」が21.7%となっている。「短期系_1~9回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が36.4%、「検討していない」が18.2%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系,認知症 以上)



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度 以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

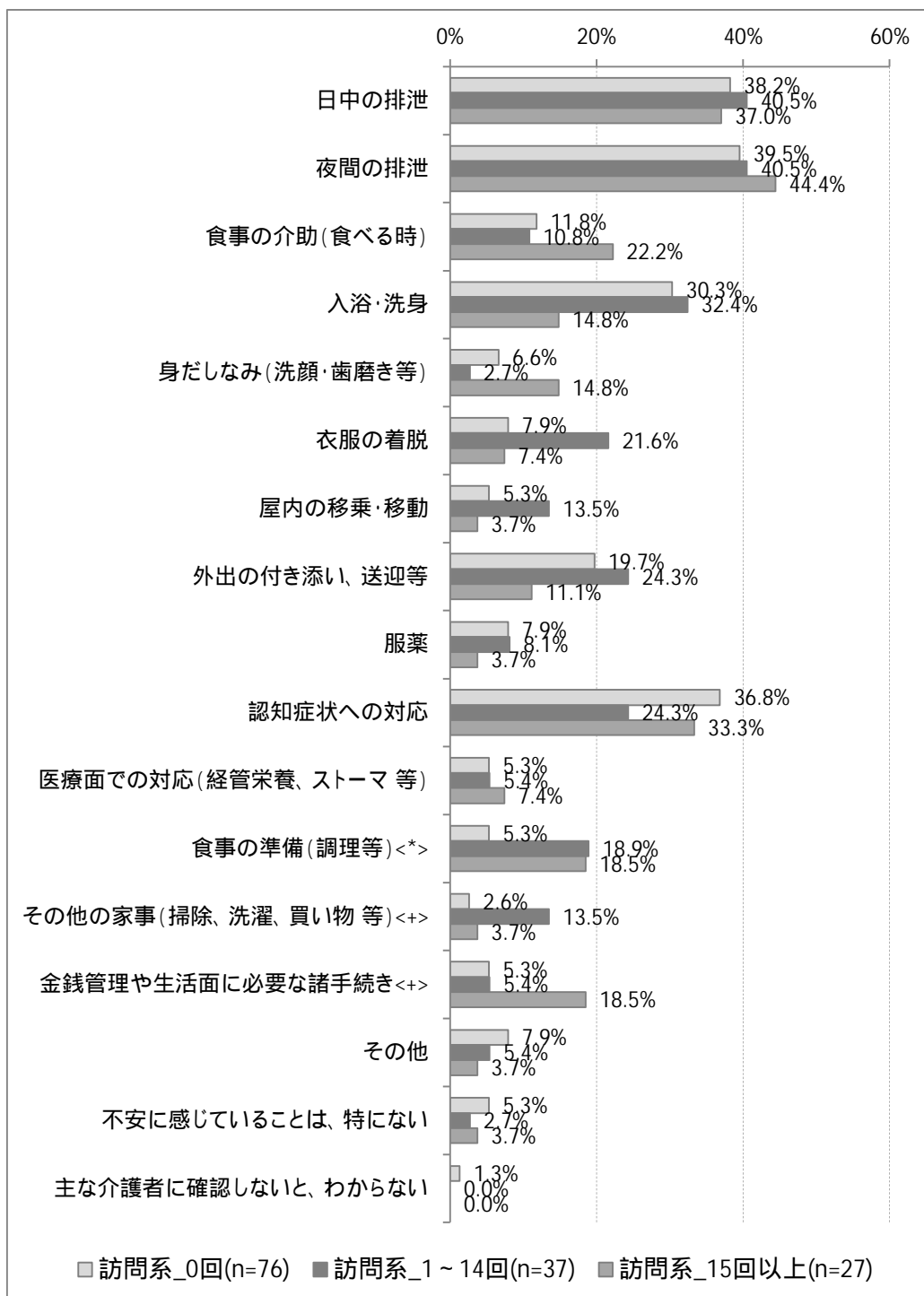
【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系, 要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が39.5%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が38.2%、「認知症状への対応」が36.8%となっている。「訪問系_1~14回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が32.4%、「外出の付き添い, 送迎等」、「認知症状への対応」が24.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が37.0%、「認知症状への対応」が33.3%となっている。

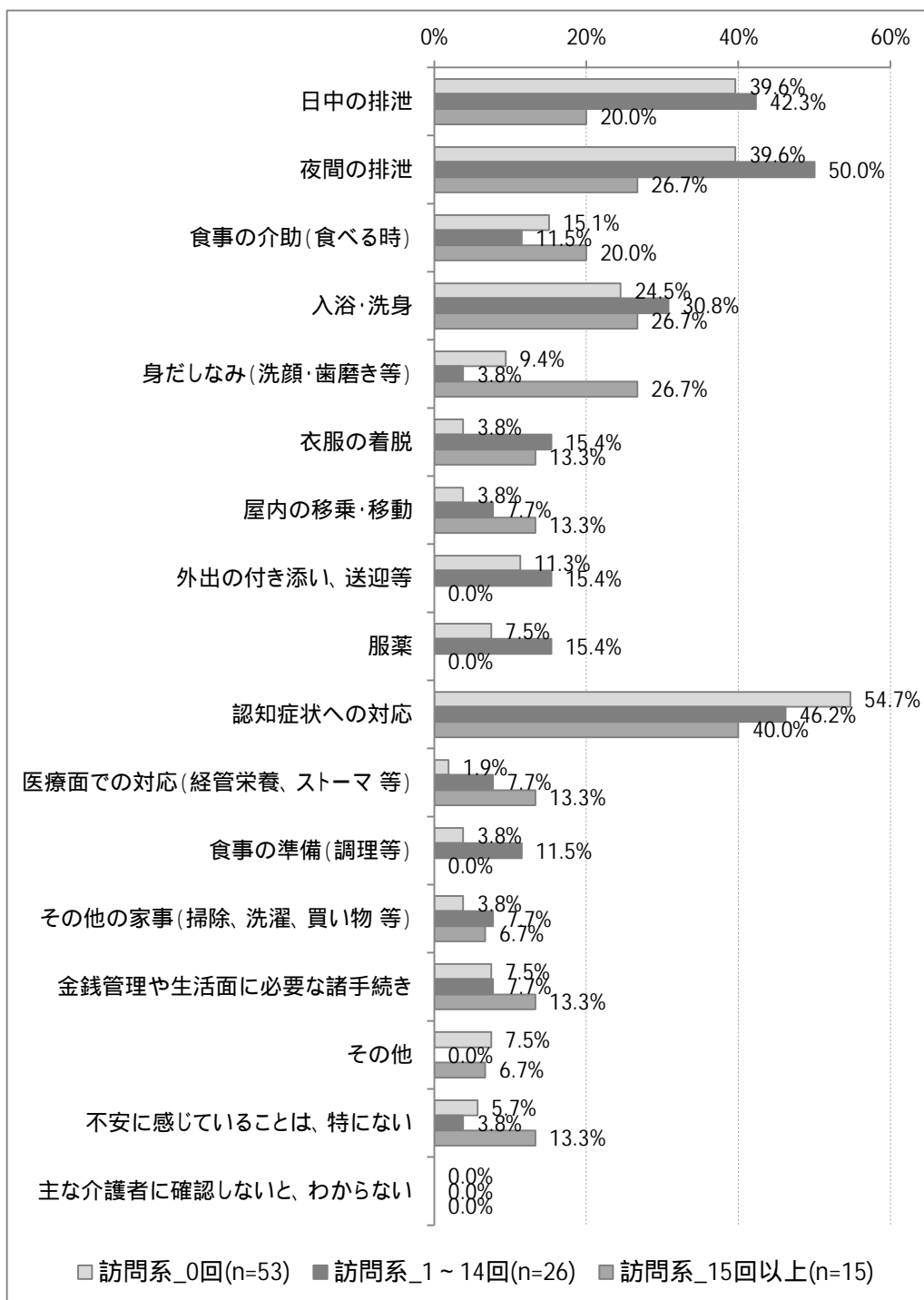
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系, 要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系,認知症 以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が54.7%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が39.6%、「入浴・洗身」が24.5%となっている。「訪問系_1~14回」では「夜間の排泄」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が46.2%、「日中の排泄」が42.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「認知症状への対応」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が26.7%、「日中の排泄」、「食事の介助(食べる時)」が20.0%となっている。

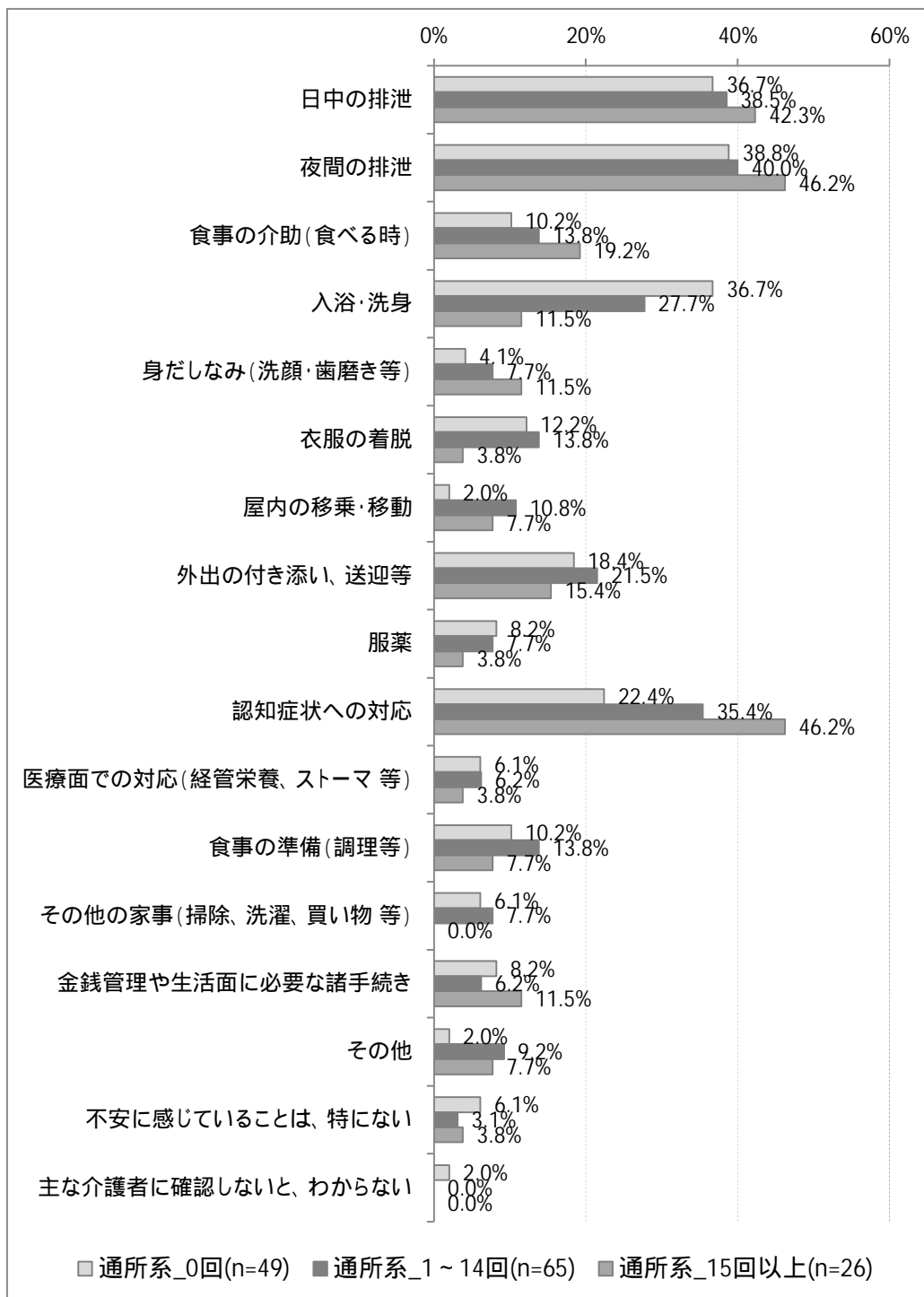
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系,認知症 以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系, 要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が38.8%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が36.7%、「認知症状への対応」が22.4%となっている。「通所系_1~14回」では「夜間の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が38.5%、「認知症状への対応」が35.4%となっている。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が42.3%、「食事の介助(食べる時)」が19.2%となっている。

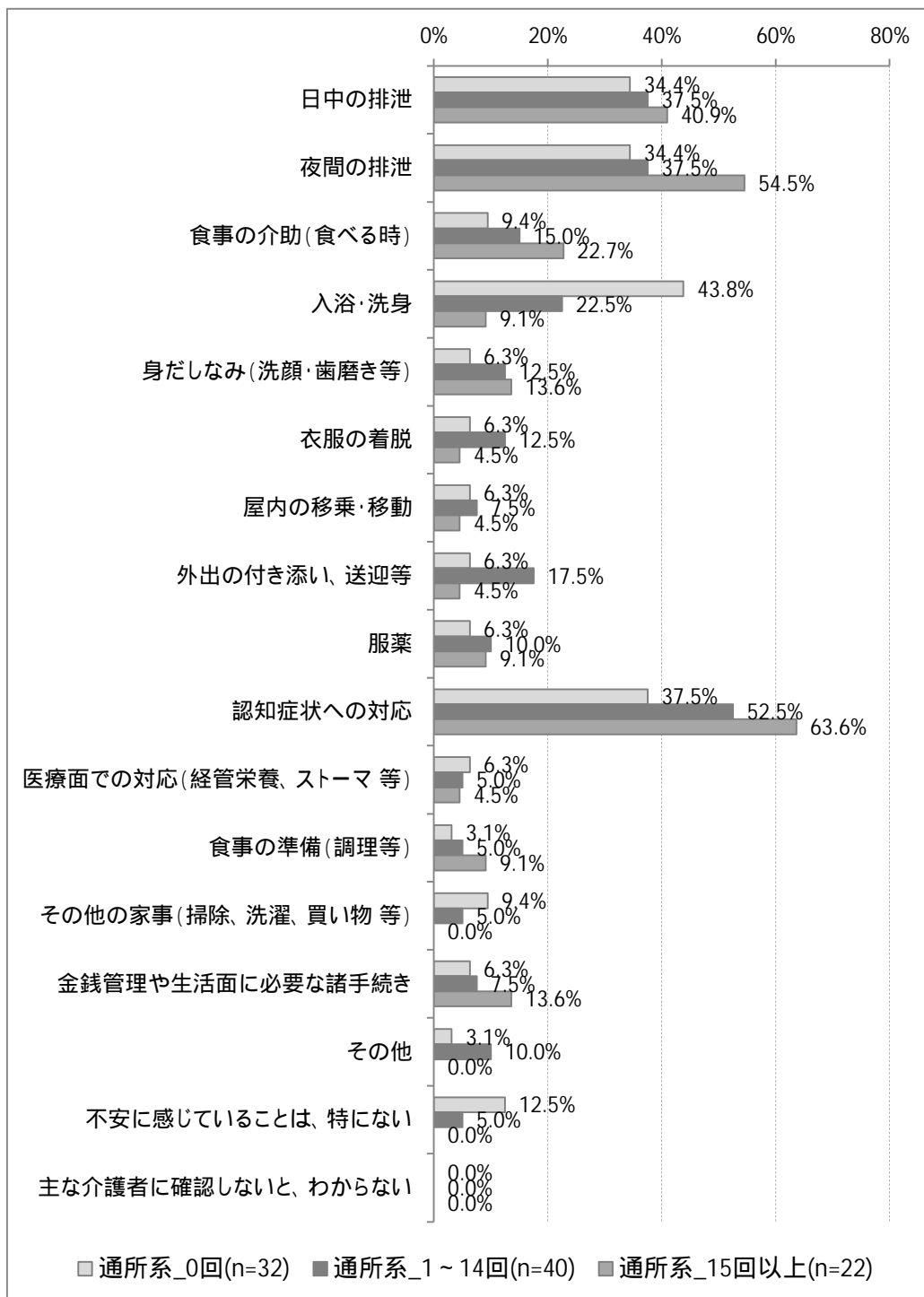
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系, 要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系,認知症 以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「入浴・洗身」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が37.5%、「日中の排泄」,「夜間の排泄」が34.4%となっている。「通所系_1~14回」では「認知症状への対応」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」,「夜間の排泄」が37.5%、「入浴・洗身」が22.5%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が63.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が54.5%、「日中の排泄」が40.9%となっている。

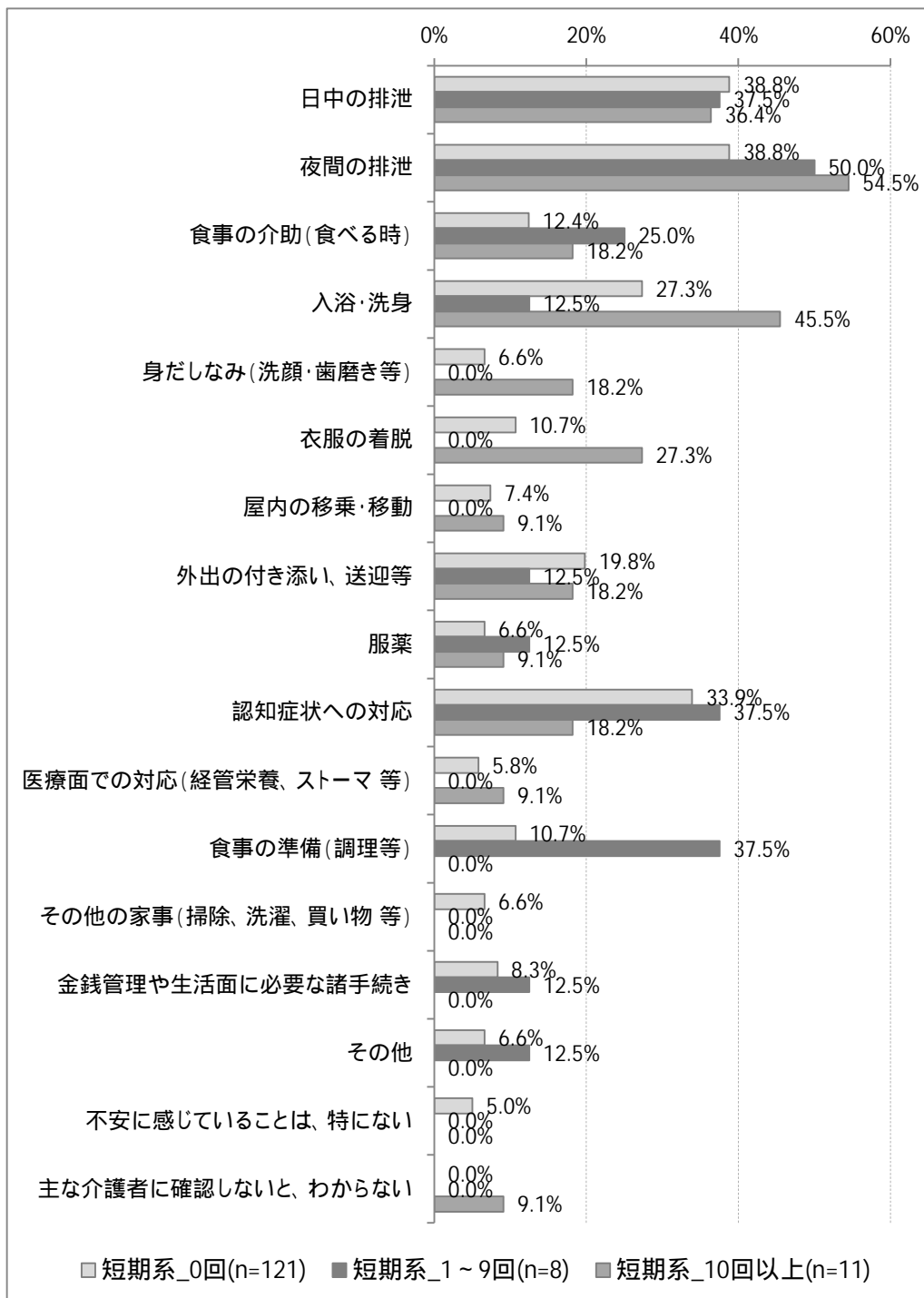
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系,認知症 以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系,要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が38.8%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が33.9%、「入浴・洗身」が27.3%となっている。「短期系_1~9回」では「夜間の排泄」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」が37.5%、「食事の介助(食べる時)」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が45.5%、「日中の排泄」が36.4%となっている。

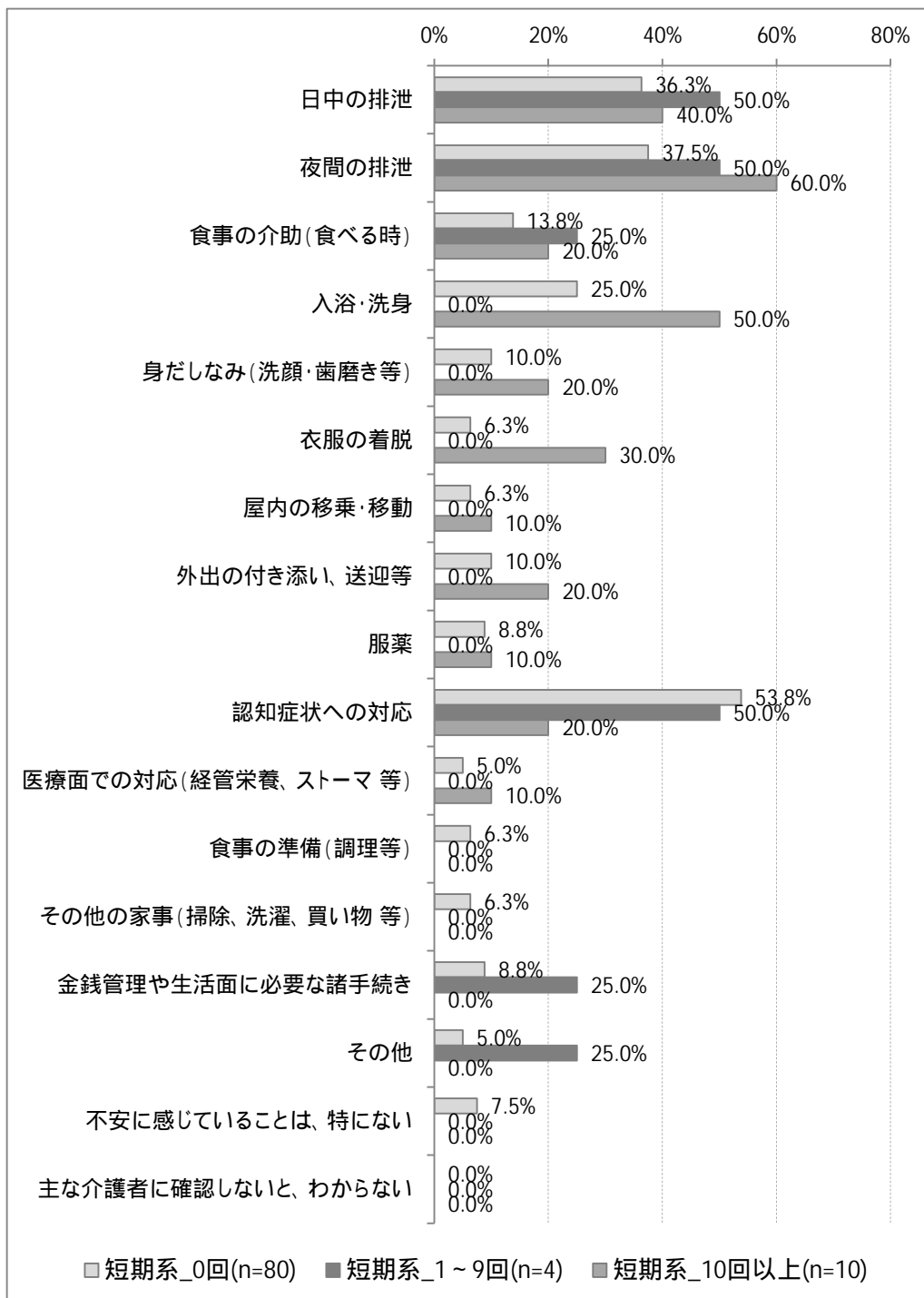
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系,要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系,認知症 以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が53.8%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.5%、「日中の排泄」が36.3%となっている。「短期系_1~9回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「食事の介助(食べる時)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」が60.0%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が50.0%、「日中の排泄」が40.0%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系,認知症 以上)



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務，パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し，就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に，必要な支援を集計・分析しています。
- さらに，「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に，「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために，主な介護者の「就労継続見込み」と，「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」，「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では，要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え，要介護者の自立度が重くなっても，在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

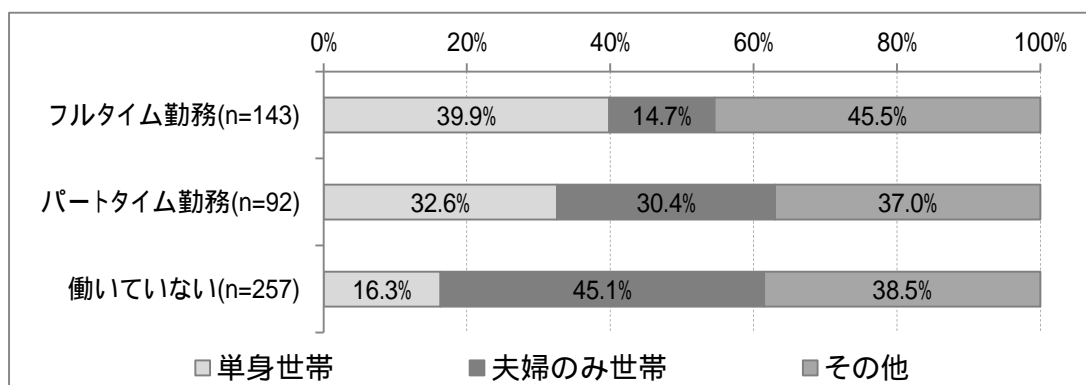
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が39.9%、「夫婦のみ世帯」が14.7%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が32.6%、「夫婦のみ世帯」が30.4%となっている。「働いていない」では「夫婦のみ世帯」が45.1%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が38.5%、「単身世帯」が16.3%となっている。

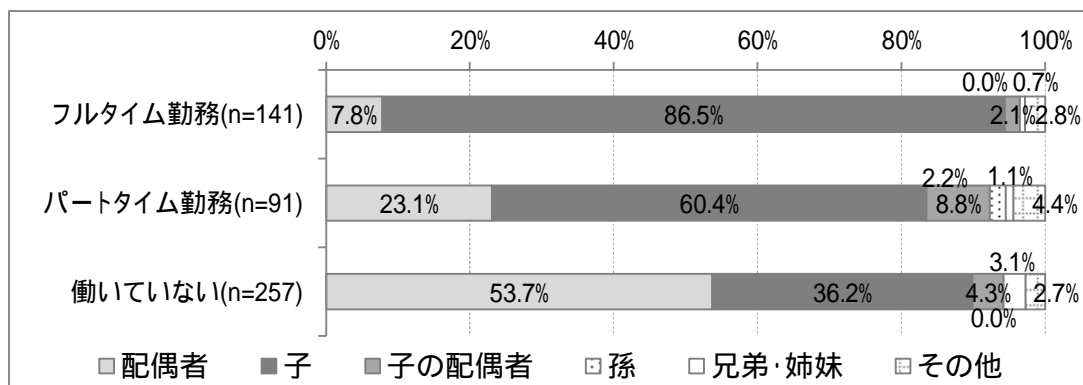
図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



【就労状況別・ 主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が86.5%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が7.8%、「その他」が2.8%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が60.4%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が23.1%、「子の配偶者」が8.8%となっている。「働いていない」では「配偶者」が53.7%ともっとも割合が高く、次いで「子」が36.2%、「子の配偶者」が4.3%となっている。

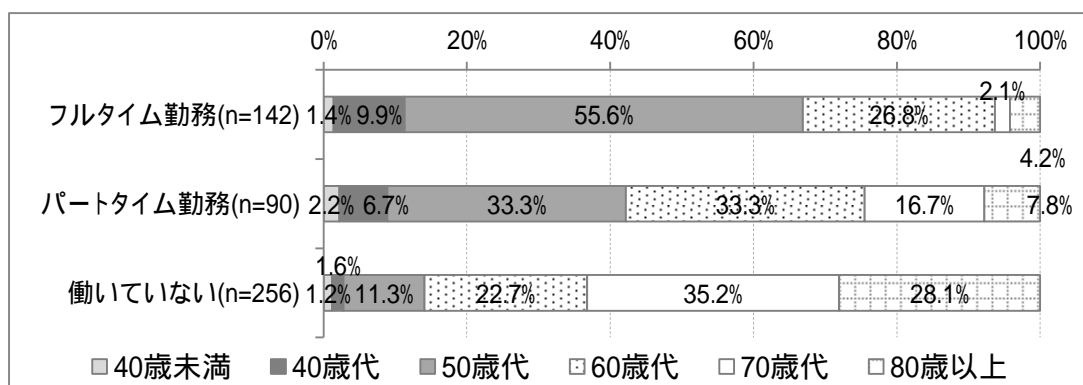
図表 2-2 就労状況別・ 主な介護者の本人との関係<***>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が26.8%、「40歳代」が9.9%となっている。「パートタイム勤務」では「50歳代」、「60歳代」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が16.7%、「80歳以上」が7.8%となっている。「働いていない」では「70歳代」が35.2%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が28.1%、「60歳代」が22.7%となっている。

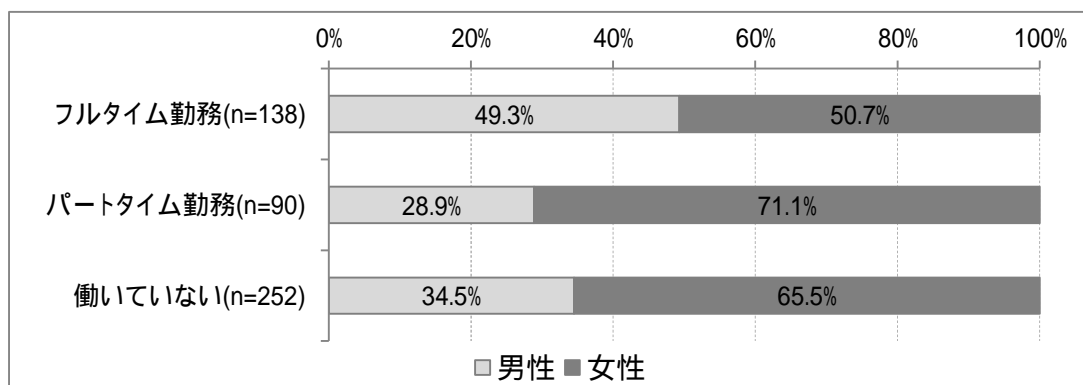
図表 2-3 就労状況別・ 主な介護者の年齢<***>



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が50.7%、「男性」が49.3%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が71.1%、「男性」が28.9%となっている。「働いていない」では「女性」が65.5%、「男性」が34.5%となっている。

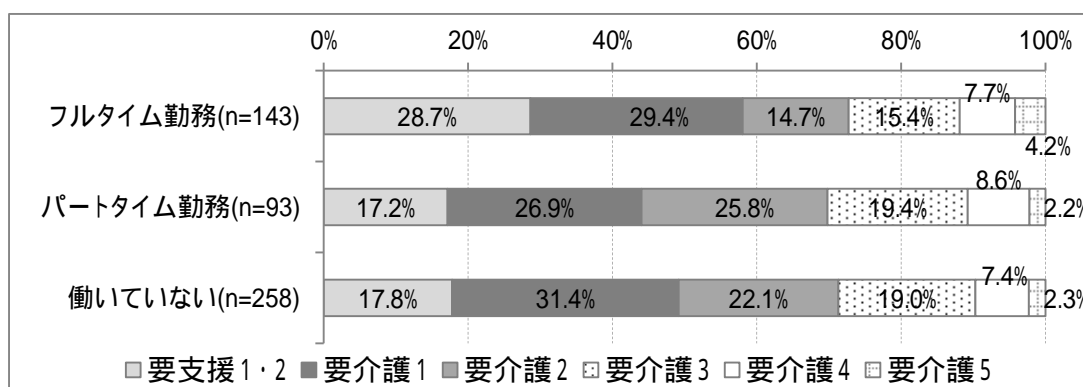
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別<*>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が29.4%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が28.7%、「要介護3」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護1」が26.9%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が25.8%、「要介護3」が19.4%となっている。「働いていない」では「要介護1」が31.4%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が22.1%、「要介護3」が19.0%となっている。

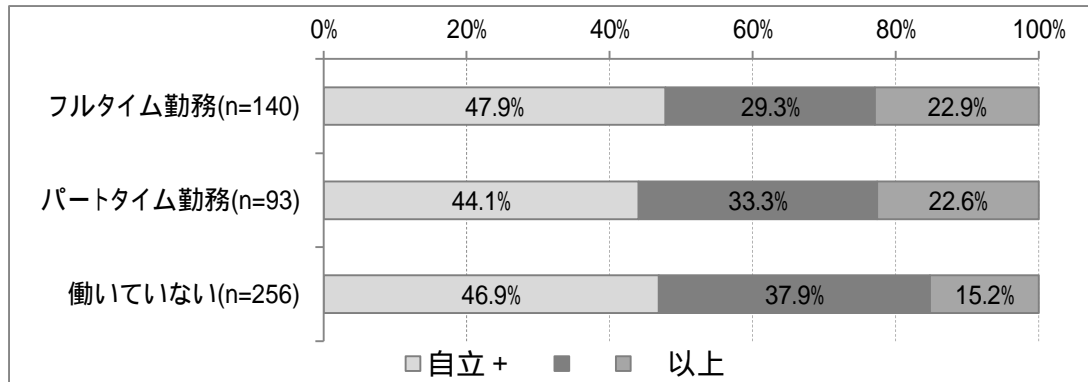
図表 2-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「」が29.3%、「以上」が22.9%となっている。「パートタイム勤務」では「自立+」が44.1%ともっとも割合が高く、次いで「」が33.3%、「以上」が22.6%となっている。「働いていない」では「自立+」が46.9%ともっとも割合が高く、次いで「」が37.9%、「以上」が15.2%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

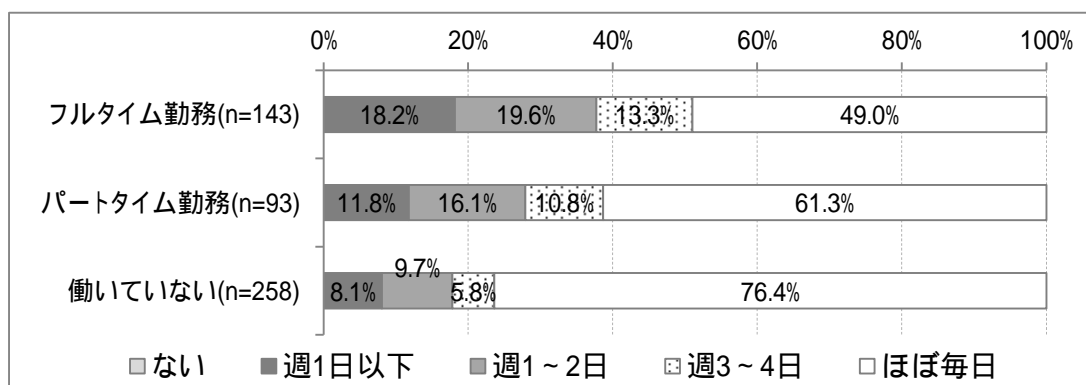
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8，図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10，図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が49.0%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が19.6%、「週1日以下」が18.2%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が61.3%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が16.1%、「週1日以下」が11.8%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が76.4%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が9.7%、「週1日以下」が8.1%となっている。

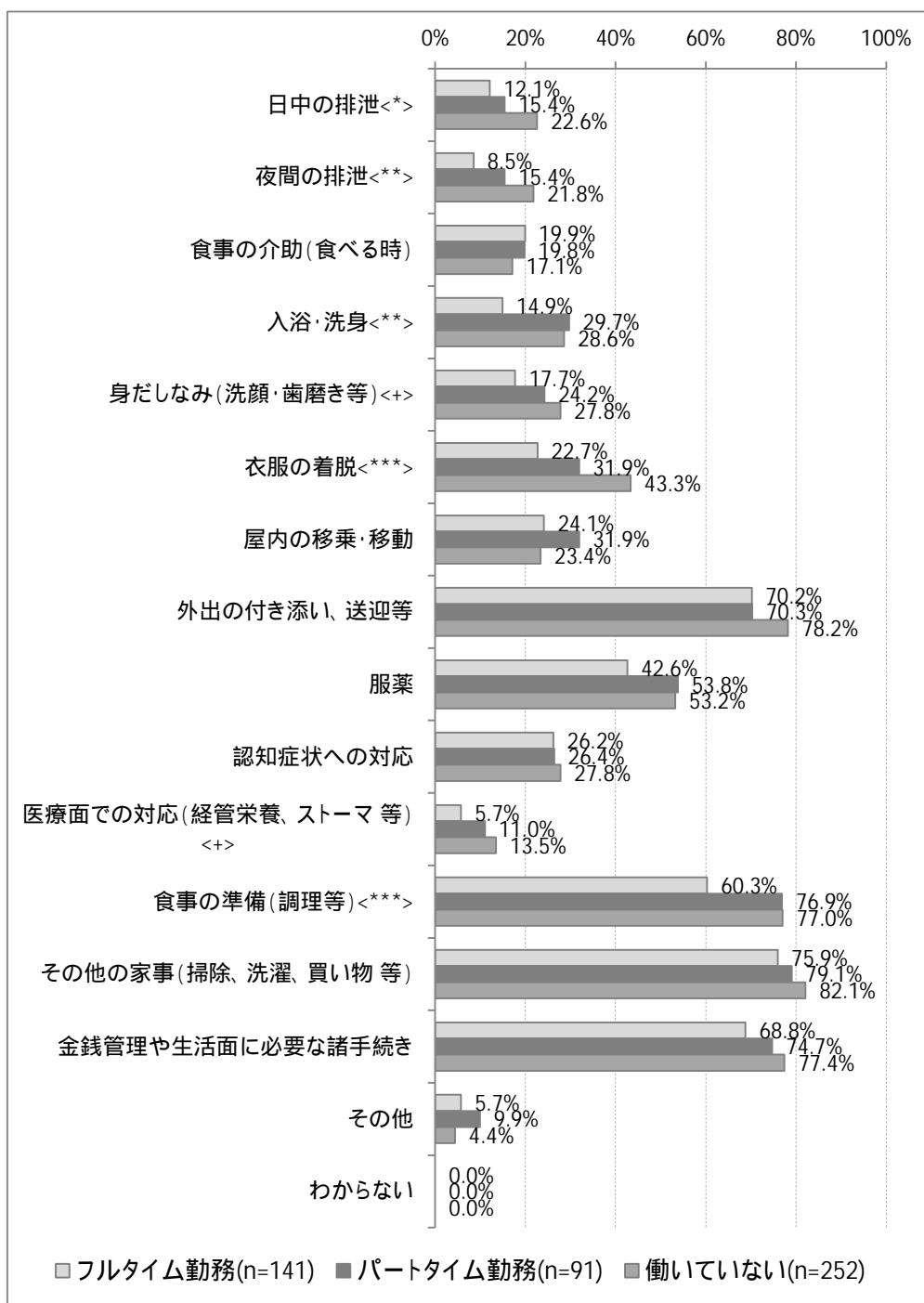
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<***>



【就労状況別・ 主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」が75.9%ともっとも割合が高く，次いで「外出の付き添い，送迎等」が70.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.8%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」が79.1%ともっとも割合が高く，次いで「食事の準備（調理等）」が76.9%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.7%となっている。「働いていない」では「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」が82.1%ともっとも割合が高く，次いで「外出の付き添い，送迎等」が78.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.4%となっている。

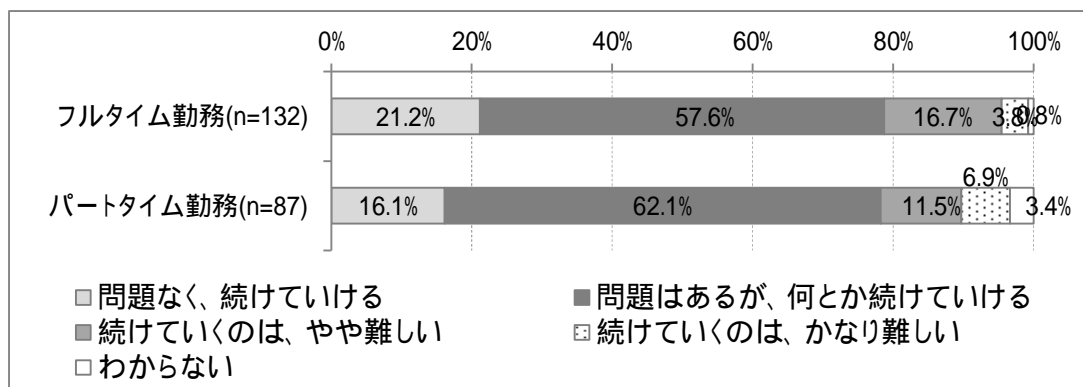
図表 2-8 就労状況別・ 主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が57.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.2%、「続けていくのは、やや難しい」が16.7%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.1%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.1%、「続けていくのは、やや難しい」が11.5%となっている。

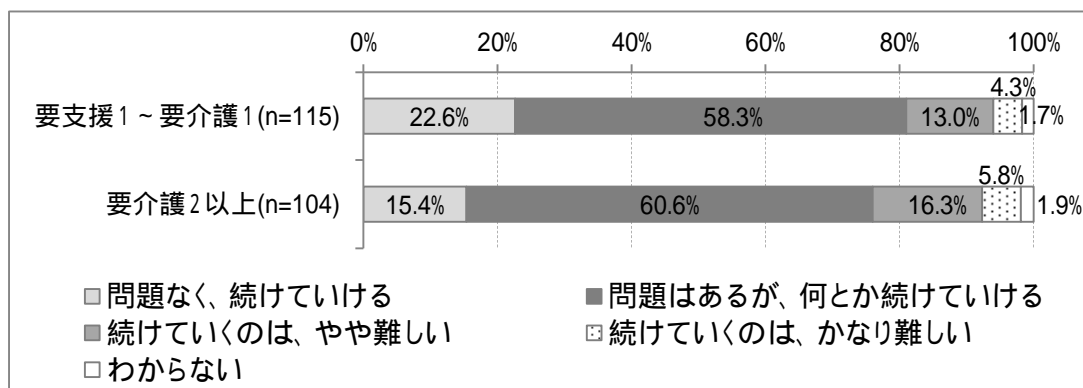
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が22.6%、「続けていくのは、やや難しい」が13.0%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.6%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が16.3%、「問題なく、続けていける」が15.4%となっている。

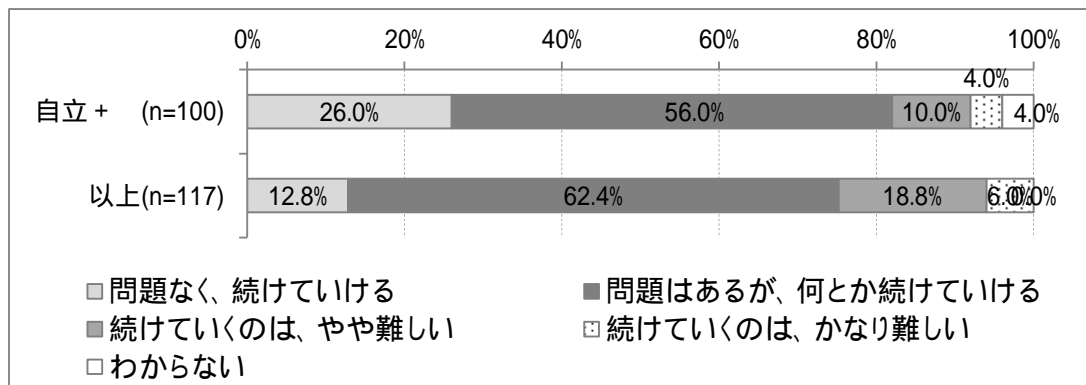
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が26.0%、「続けていくのは、やや難しい」が10.0%となっている。「以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.4%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が18.8%、「問題なく、続けていける」が12.8%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務) <*>



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

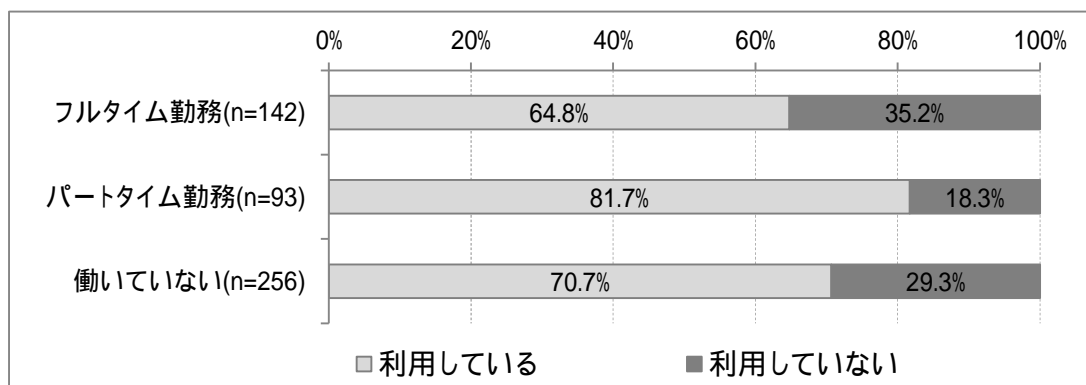
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります（図表 2-13，図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者とその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・ 介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が 64.8%、「利用していない」が 35.2%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が 81.7%、「利用していない」が 18.3%となっている。「働いていない」では「利用している」が 70.7%、「利用していない」が 29.3%となっている。

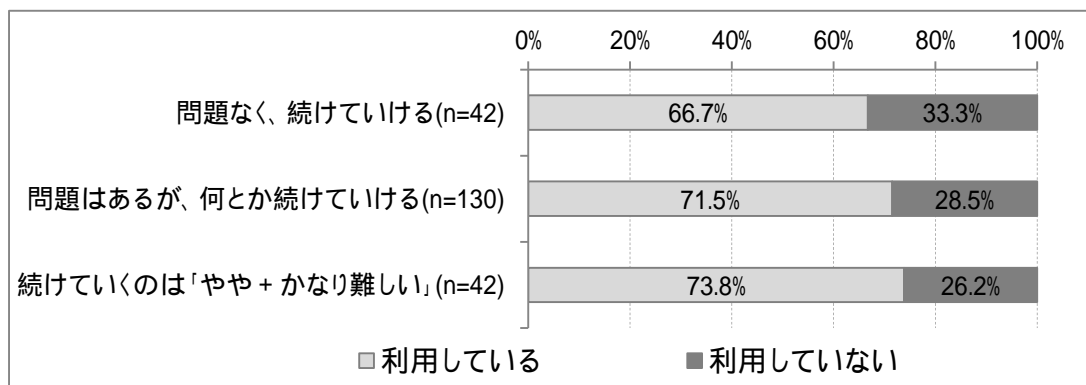
図表 2-12 就労状況別・ 介護保険サービス利用の有無<*>



【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が66.7%、「利用していない」が33.3%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が71.5%、「利用していない」が28.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が73.8%、「利用していない」が26.2%となっている。

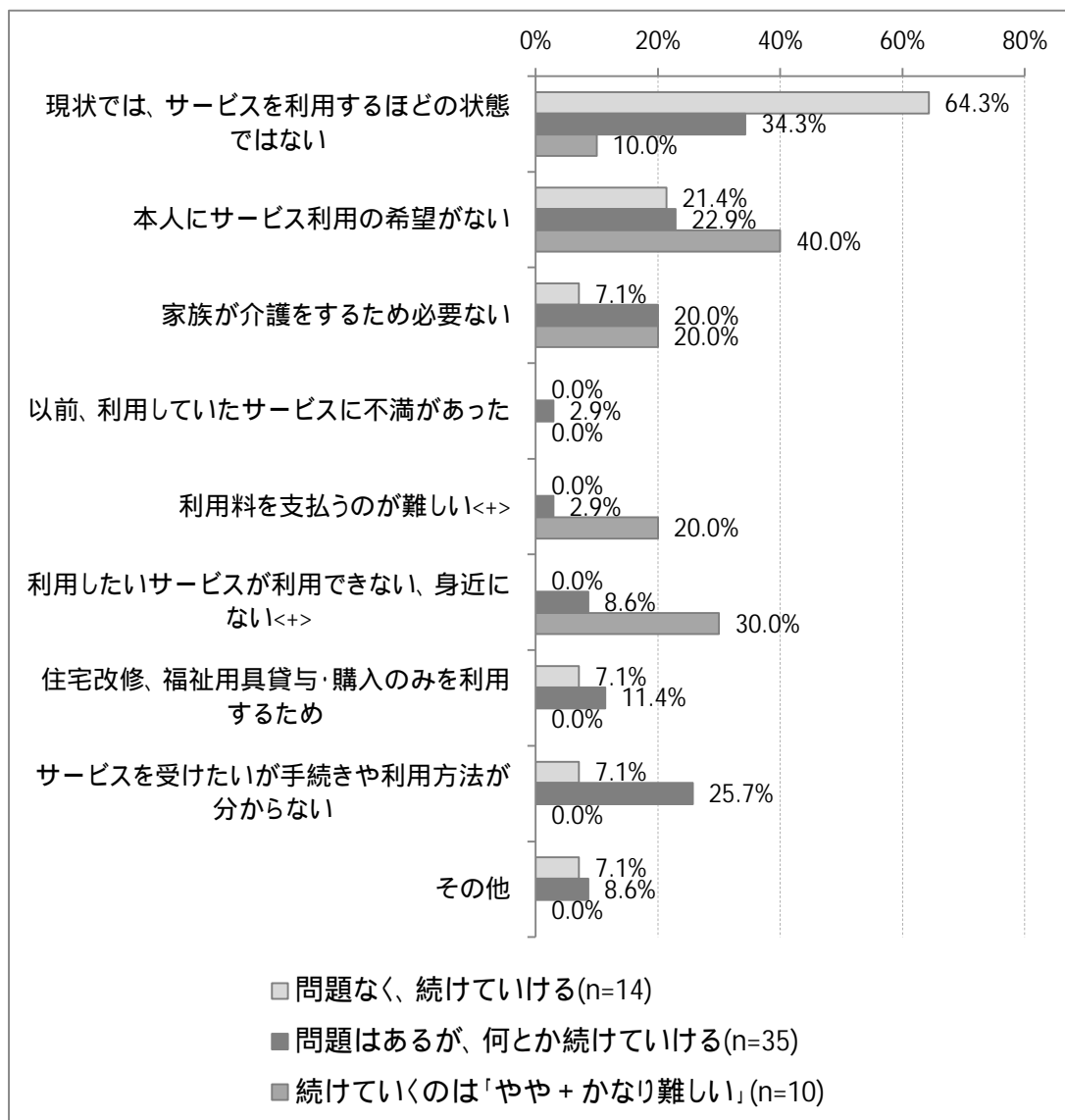
図表 2-13 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労継続見込み別・ サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が21.4%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が7.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が34.3%と最も割合が高く、次いで「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が25.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が30.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が20.0%となっている。

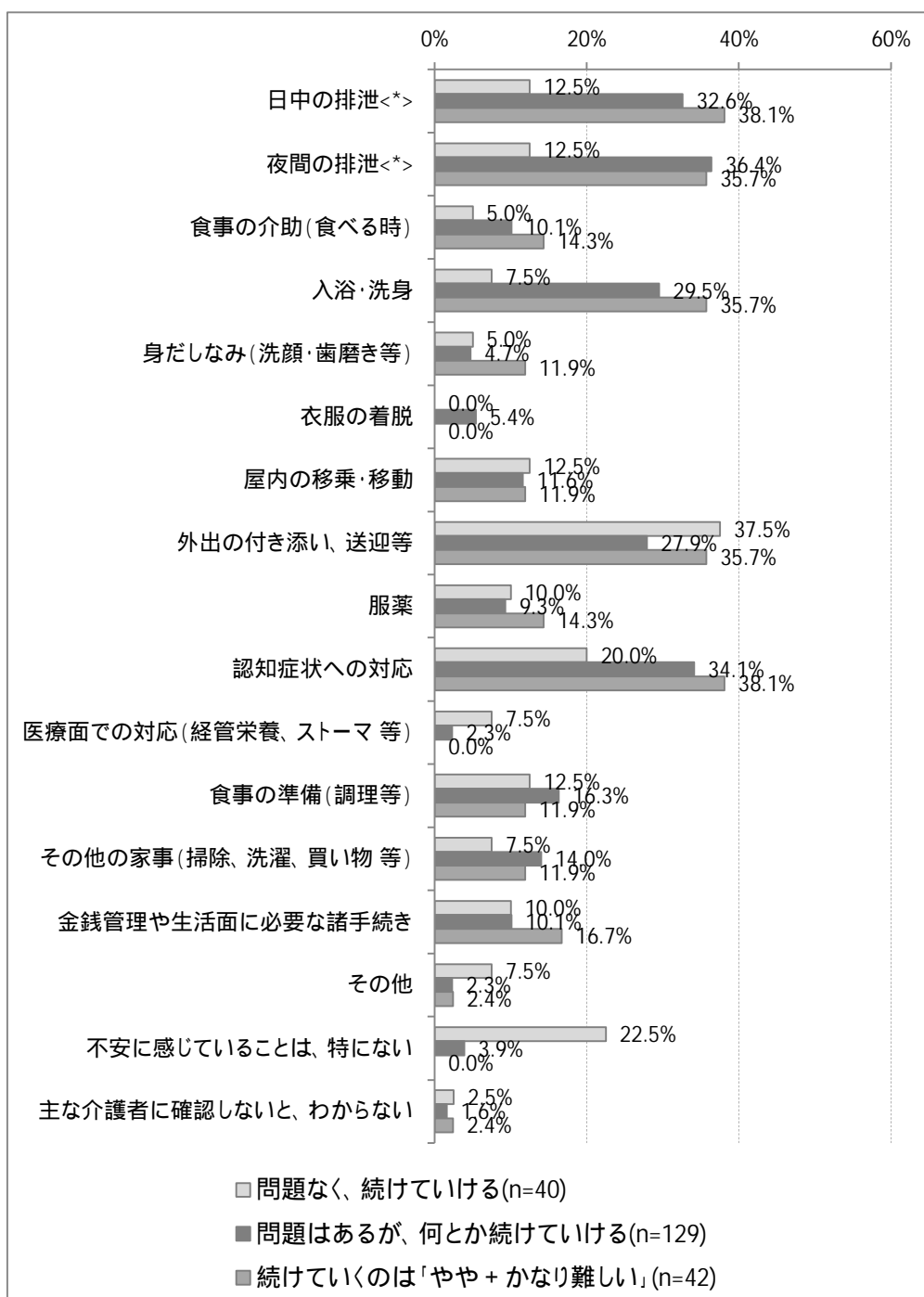
図表 2-14 就労継続見込み別・ サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が37.5%と最も割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が22.5%、「認知症状への対応」が20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「夜間の排泄」が36.4%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が34.1%、「日中の排泄」が32.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」が38.1%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が35.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が16.7%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

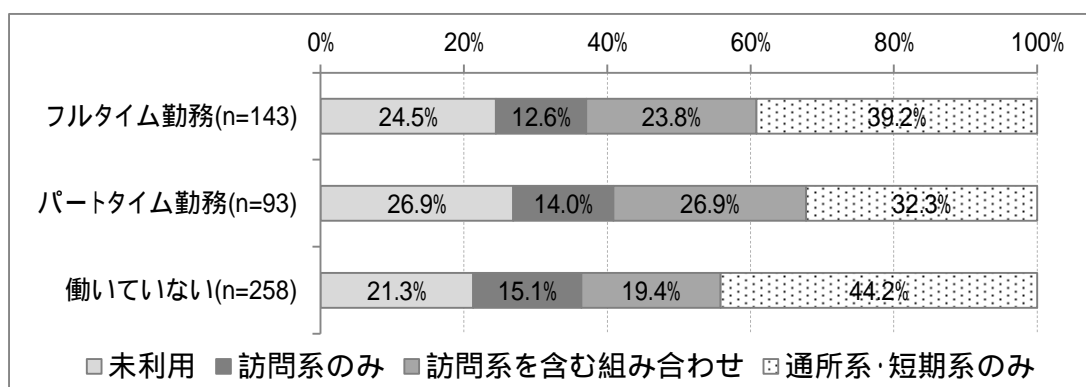
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度 以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が39.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が24.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が23.8%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が32.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が26.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が26.9%、「訪問系のみ」が14.0%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.4%となっている。

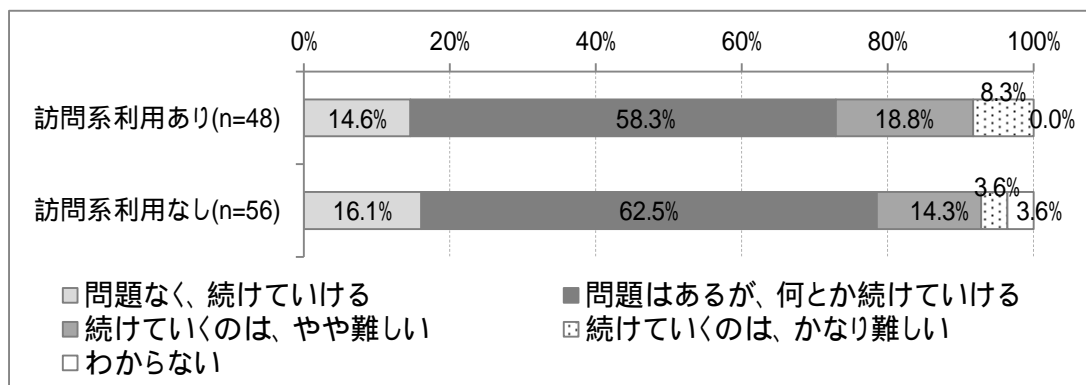
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が18.8%、「問題なく、続けていける」が14.6%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.1%、「続けていくのは、やや難しい」が14.3%となっている。

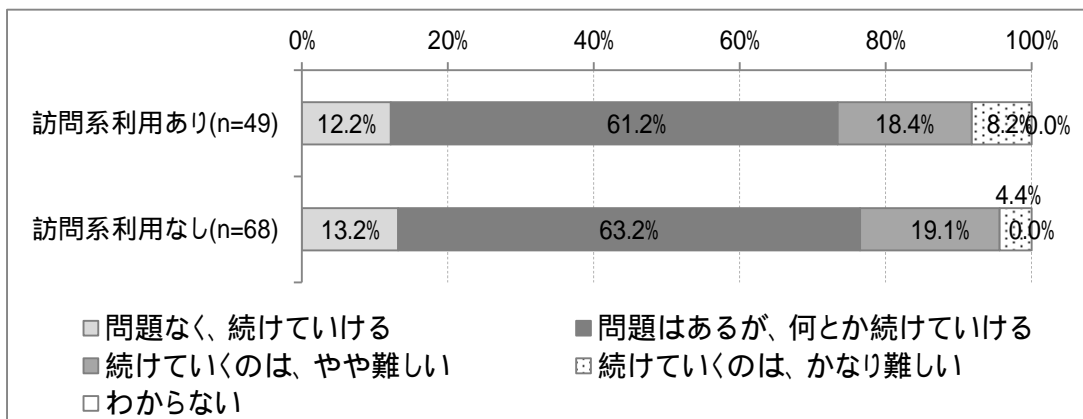
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度 以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.2%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が18.4%、「問題なく、続けていける」が12.2%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が19.1%、「問題なく、続けていける」が13.2%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度 以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護 2 以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

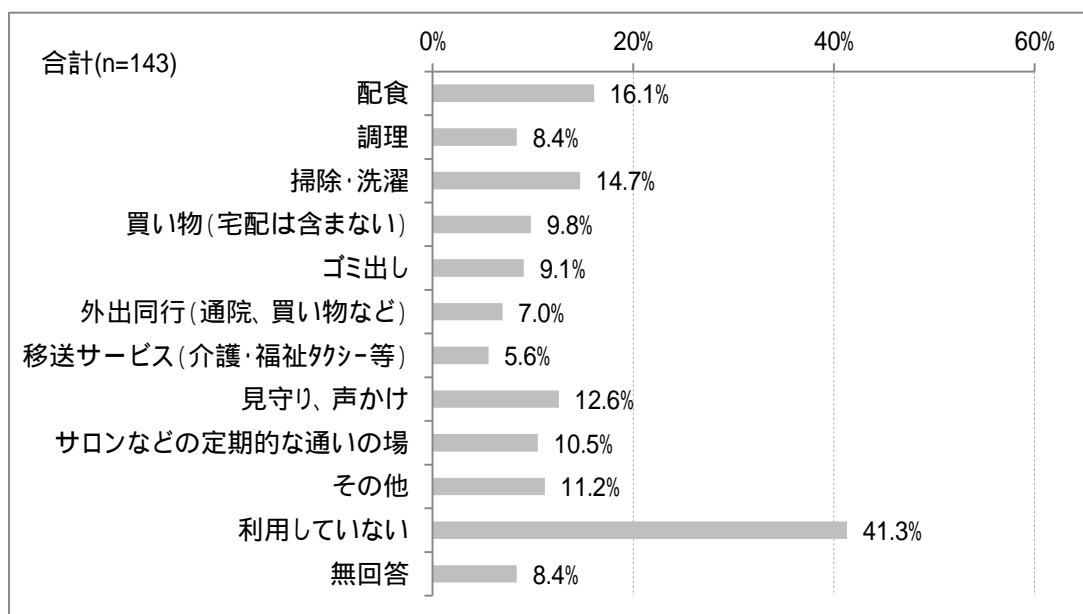
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【 利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 41.3%となっている。次いで、「配食(16.1%)」、「掃除・洗濯(14.7%)」となっている。

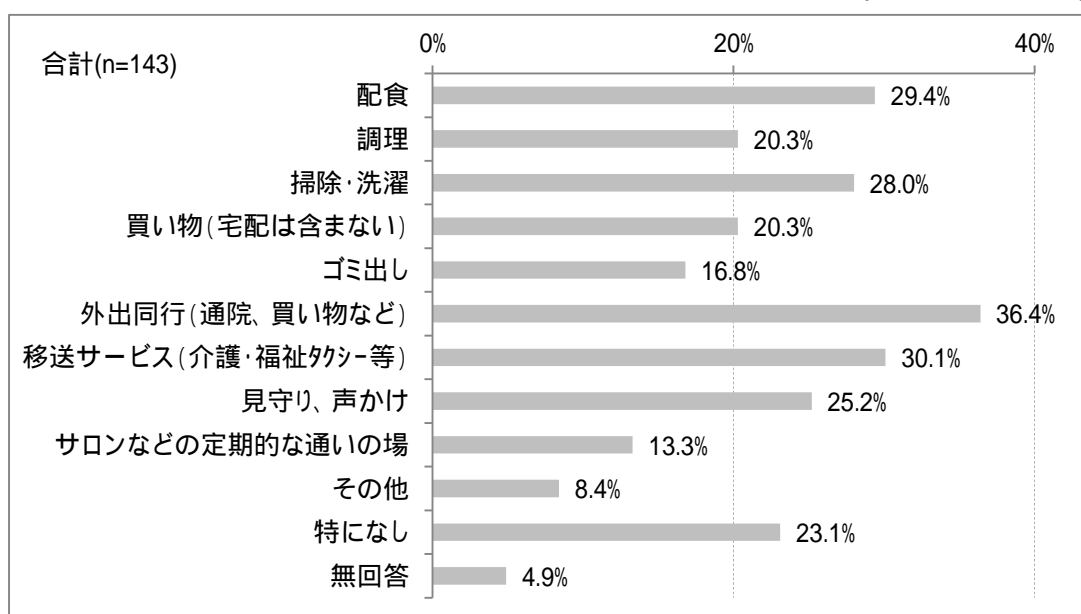
図表 2-19_1 利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)



【 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「外出同行(通院、買い物など)」の割合が最も高く 36.4%となっている。次いで、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(30.1%)」、「配食(29.4%)」となっている。

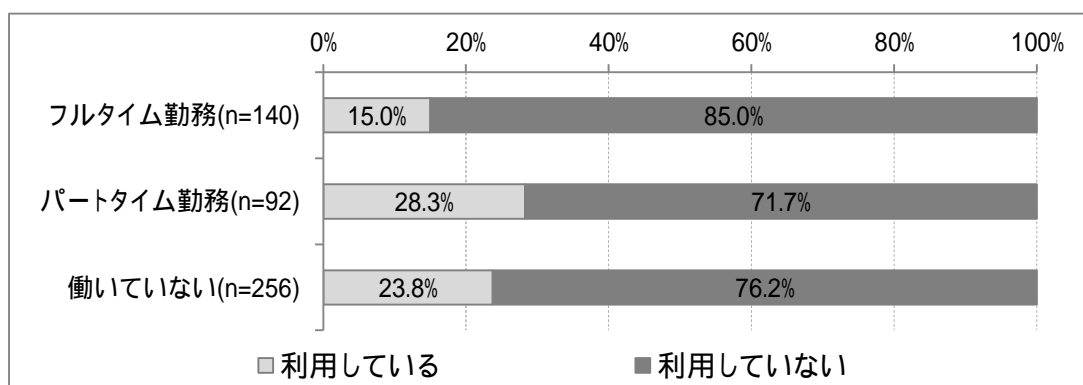
図表 2-19_2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)



【就労状況別・ 訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が85.0%、「利用している」が15.0%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が71.7%、「利用している」が28.3%となっている。「働いていない」では「利用していない」が76.2%、「利用している」が23.8%となっている。

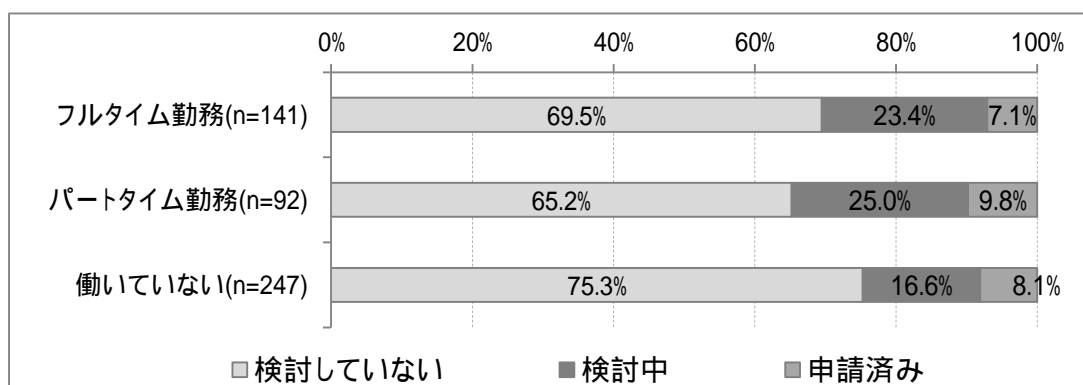
図表 2-20 就労状況別・ 訪問診療の利用の有無<*>



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が69.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.4%、「申請済み」が7.1%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が65.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が9.8%となっている。「働いていない」では「検討していない」が75.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.6%、「申請済み」が8.1%となっている。

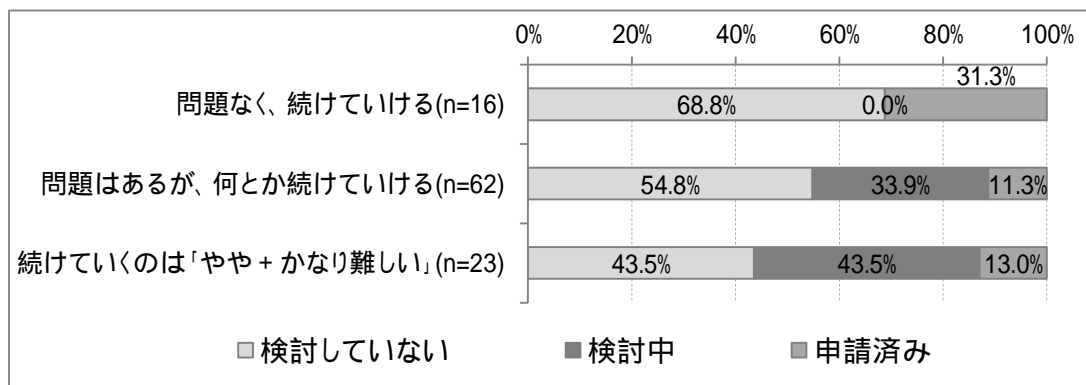
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が68.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が31.3%、「検討中」が0.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が54.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.9%、「申請済み」が11.3%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討していない」、「検討中」が43.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が13.0%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上,フルタイム勤務+パートタイム勤務) <*>



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

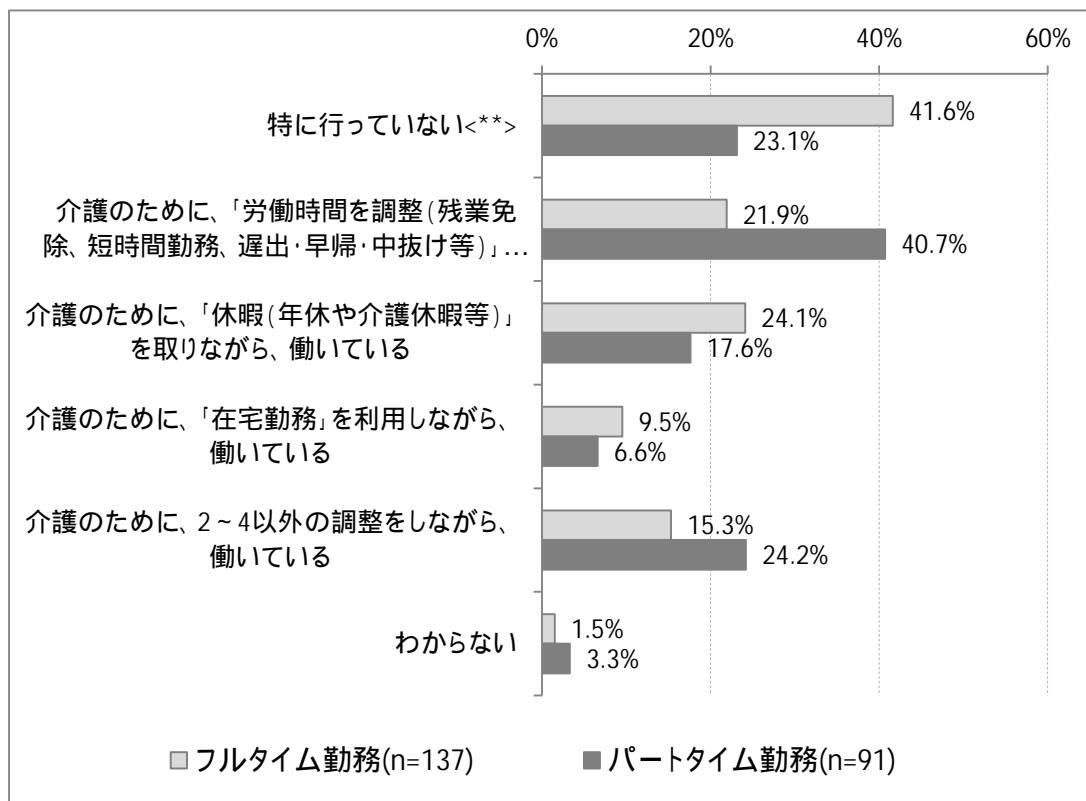
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が41.6%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が24.1%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除，短時間勤務，遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が21.9%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除，短時間勤務，遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が40.7%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が24.2%、「特に行っていない」が23.1%となっている。

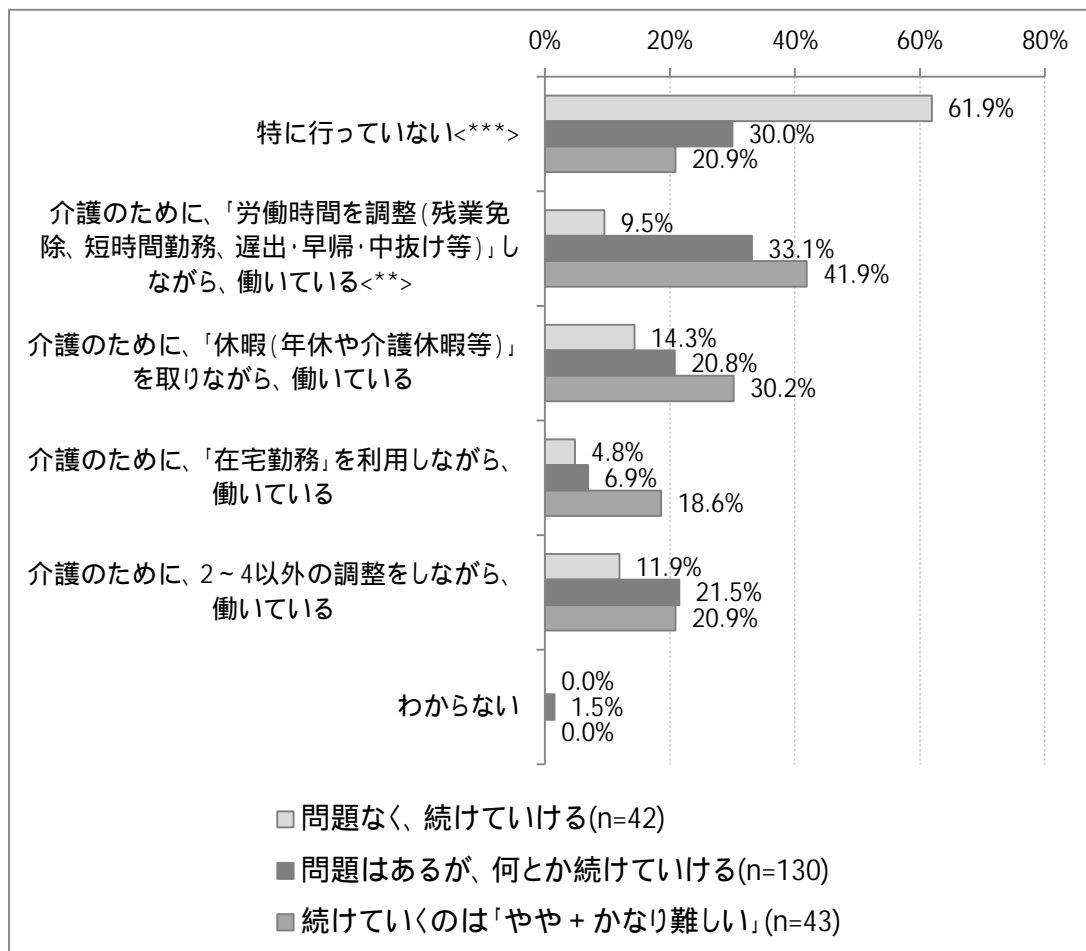
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が61.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が14.3%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が11.9%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が33.1%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が30.0%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が21.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が41.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が30.2%、「特に行っていない」、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が20.9%となっている。

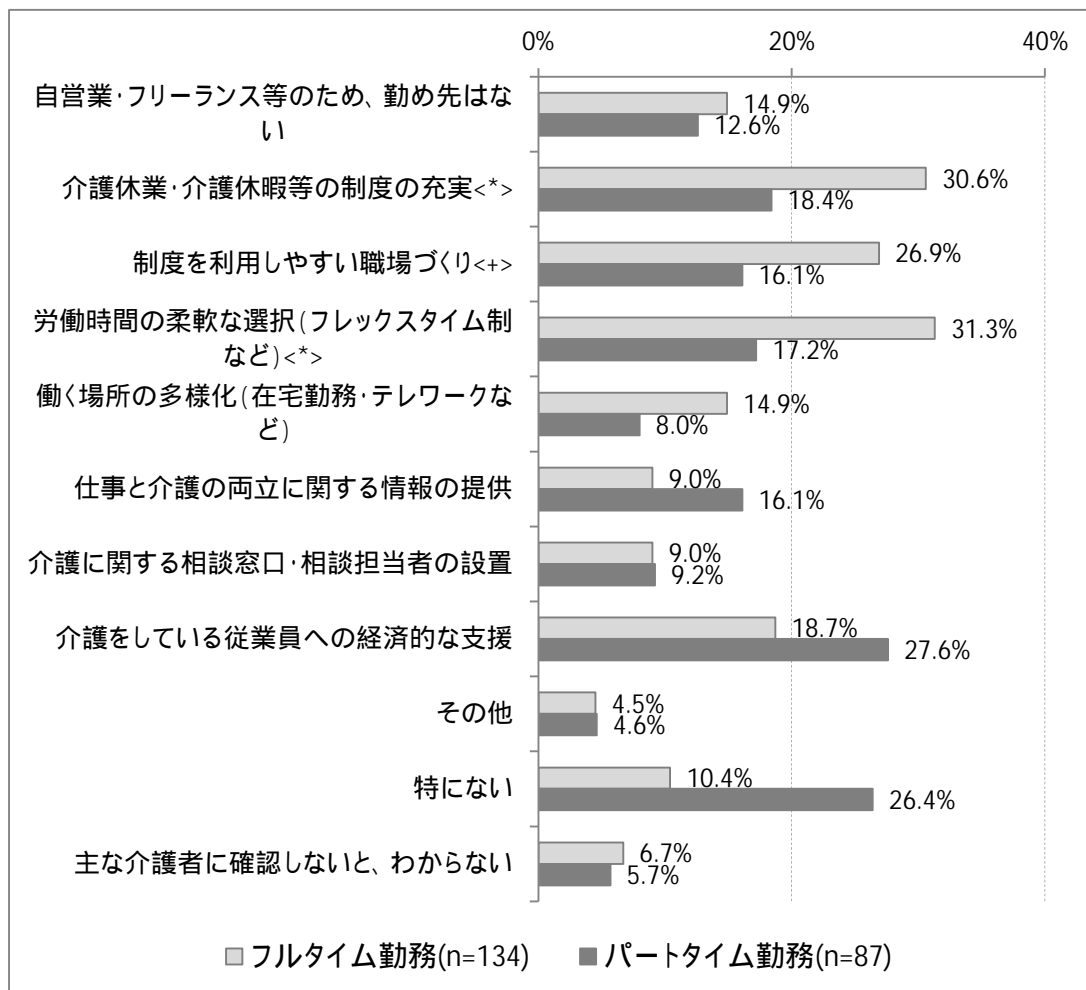
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労状況別・ 効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が31.3%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が30.6%、「制度を利用しやすい職場づくり」が26.9%となっている。「パートタイム勤務」では「介護をしている従業員への経済的な支援」が27.6%と最も割合が高く、次いで「特にない」が26.4%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が18.4%となっている。

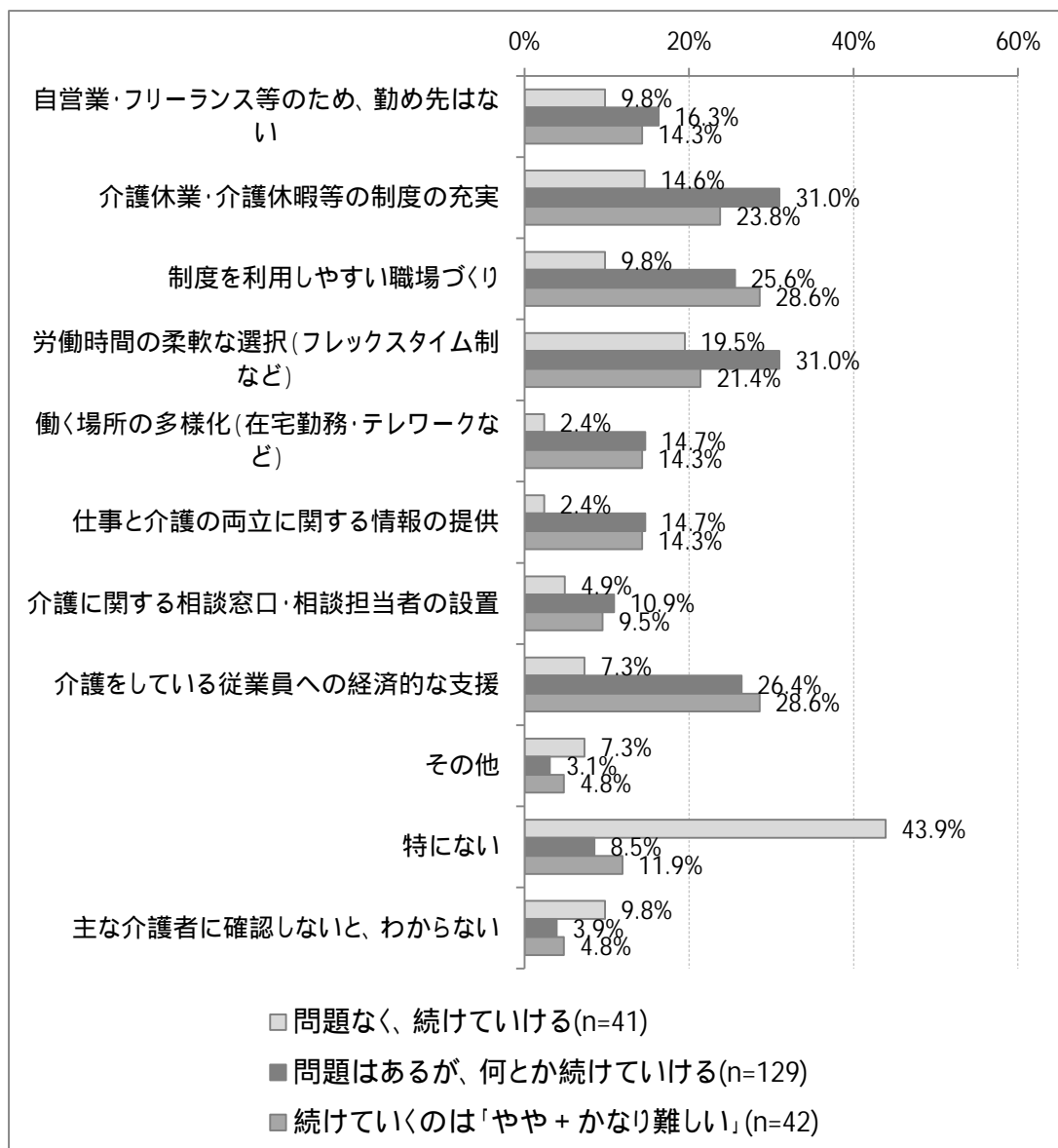
図表 2-25 就労状況別・ 効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が43.9%ともっとも割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が19.5%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が14.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」,「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が31.0%ともっとも割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.4%、「制度を利用しやすい職場づくり」が25.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「制度を利用しやすい職場づくり」,「介護をしている従業員への経済的な支援」が28.6%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が23.8%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が21.4%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

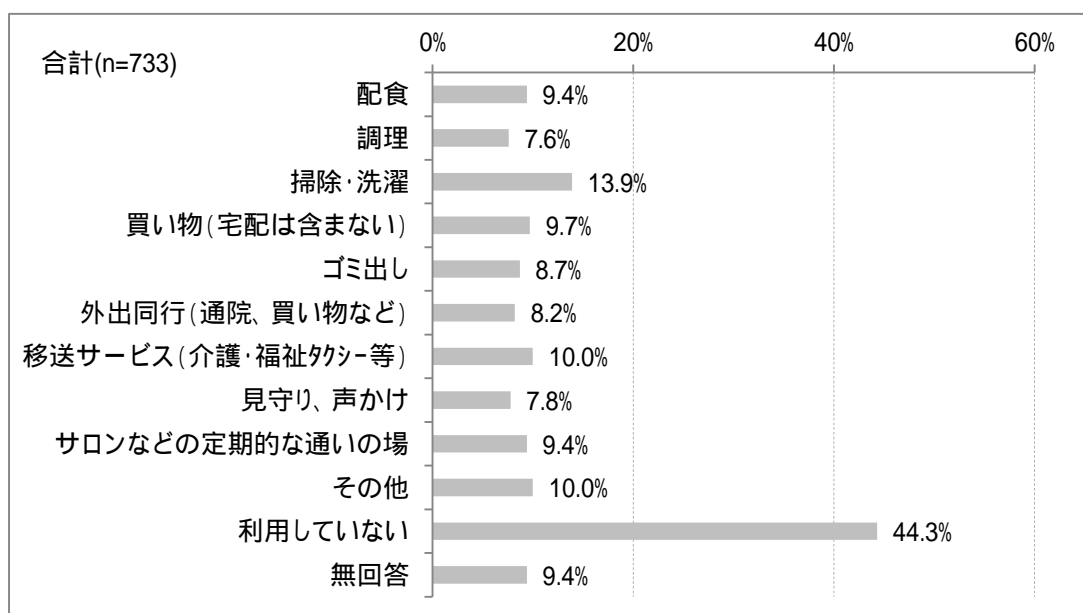
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【 保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 44.3%となっている。次いで、「掃除・洗濯（13.9%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（10.0%）」、「その他（10.0%）」となっている。

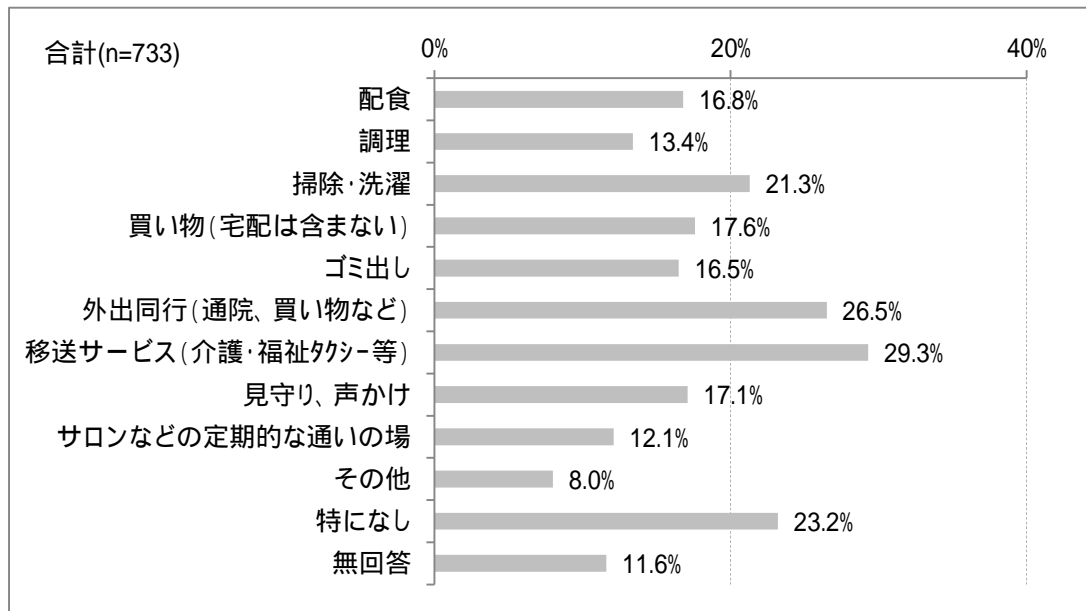
図表 3-1 保険外の支援・サービスの利用状況



【 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く 29.3%となっている。次いで、「外出同行（通院，買い物など）（26.5%）」、「特になし（23.2%）」となっている。

図表 3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3，図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

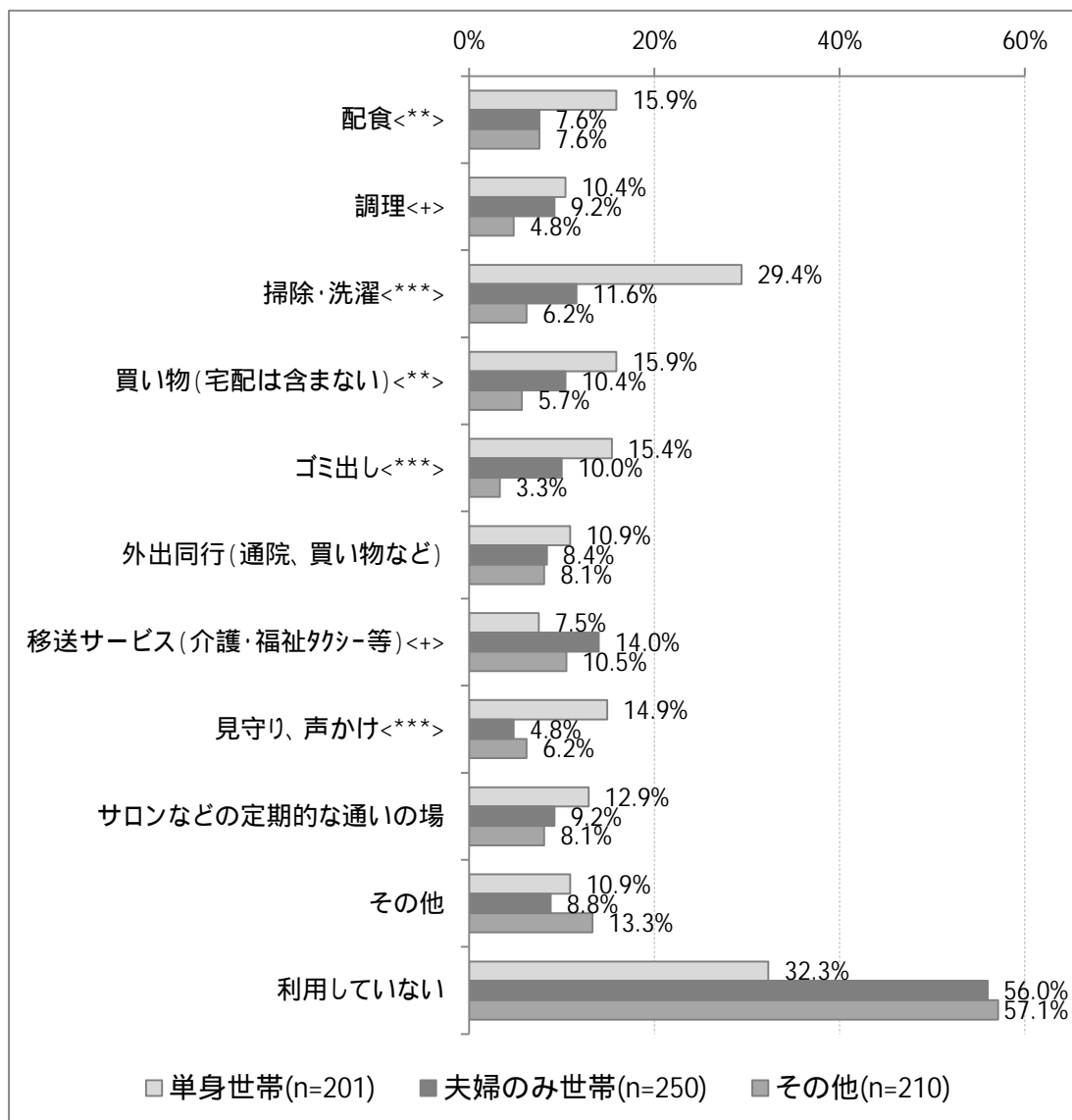
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみるのが重要です。

【世帯類型別・ 保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が32.3%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が29.4%、「配食」、「買い物(宅配は含まない)」が15.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が56.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が14.0%、「掃除・洗濯」が11.6%となっている。「その他」では「利用していない」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が13.3%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が10.5%となっている。

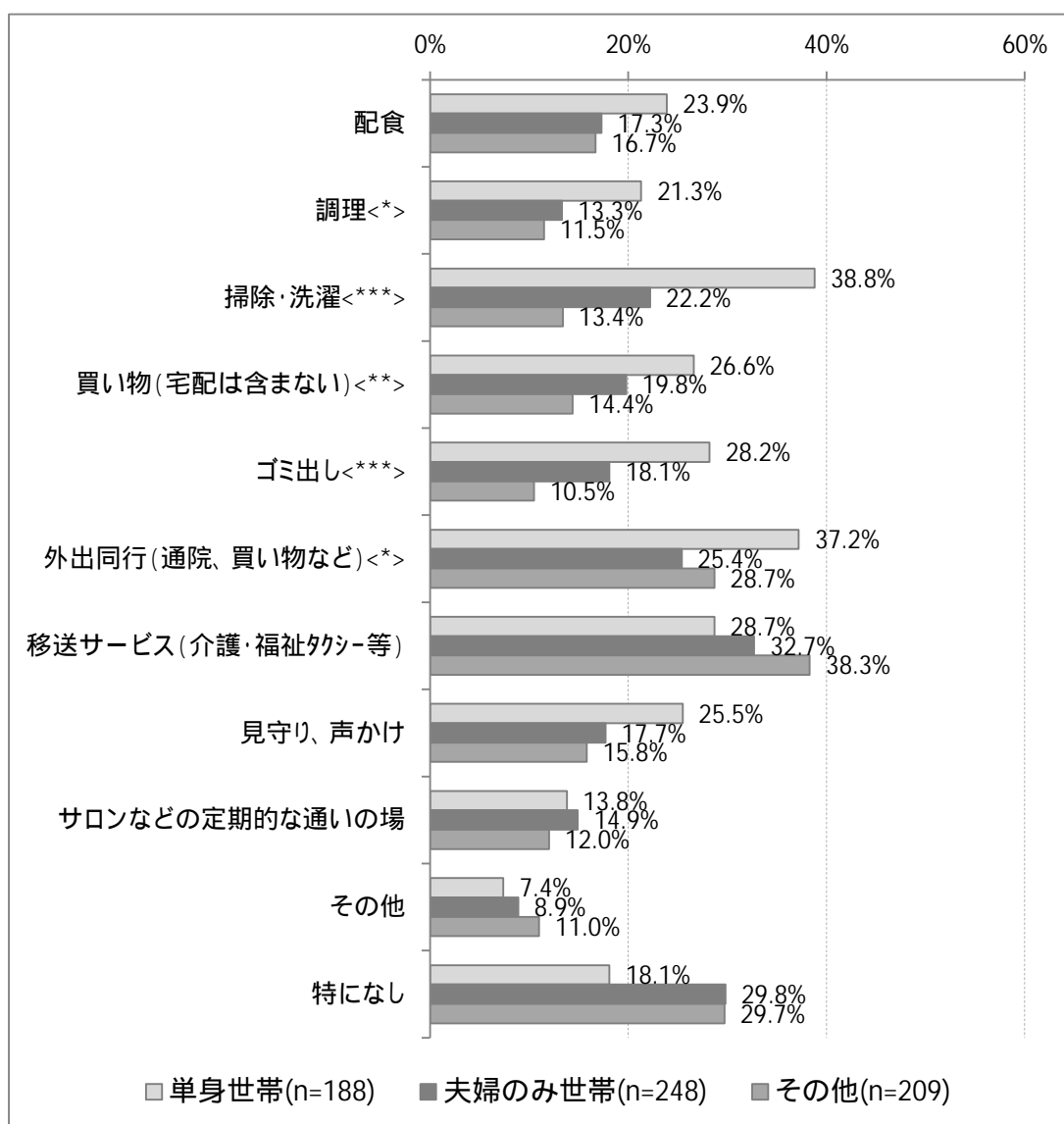
図表 3-3 世帯類型別・ 保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「掃除・洗濯」が38.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院，買い物など）」が37.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.7%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が29.8%、「外出同行（通院，買い物など）」が25.4%となっている。「その他」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が38.3%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が29.7%、「外出同行（通院，買い物など）」が28.7%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

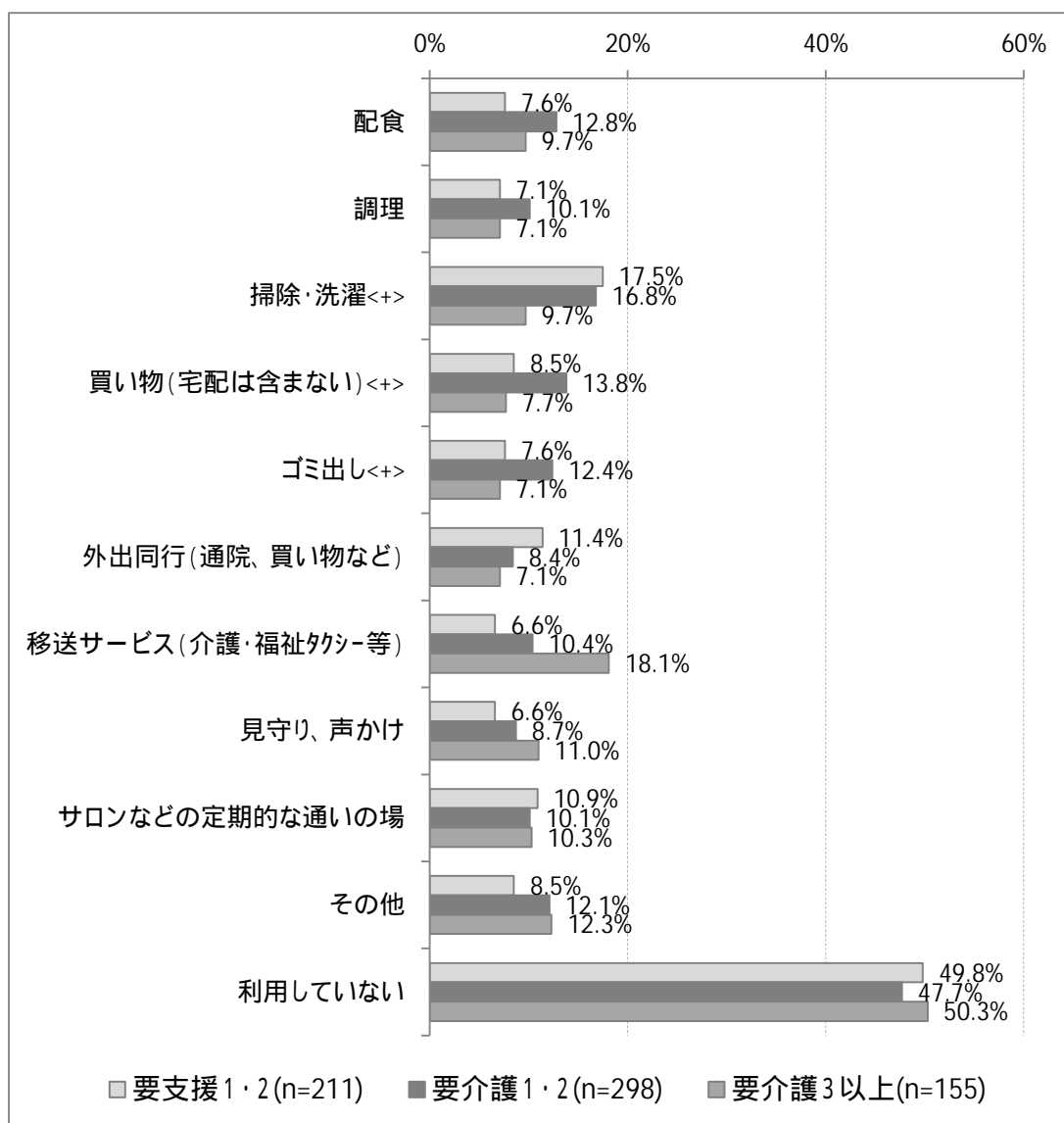
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が49.8%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が17.5%、「外出同行（通院，買い物など）」が11.4%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が47.7%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が16.8%、「買い物（宅配は含まない）」が13.8%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が50.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.1%、「その他」が12.3%となっている。

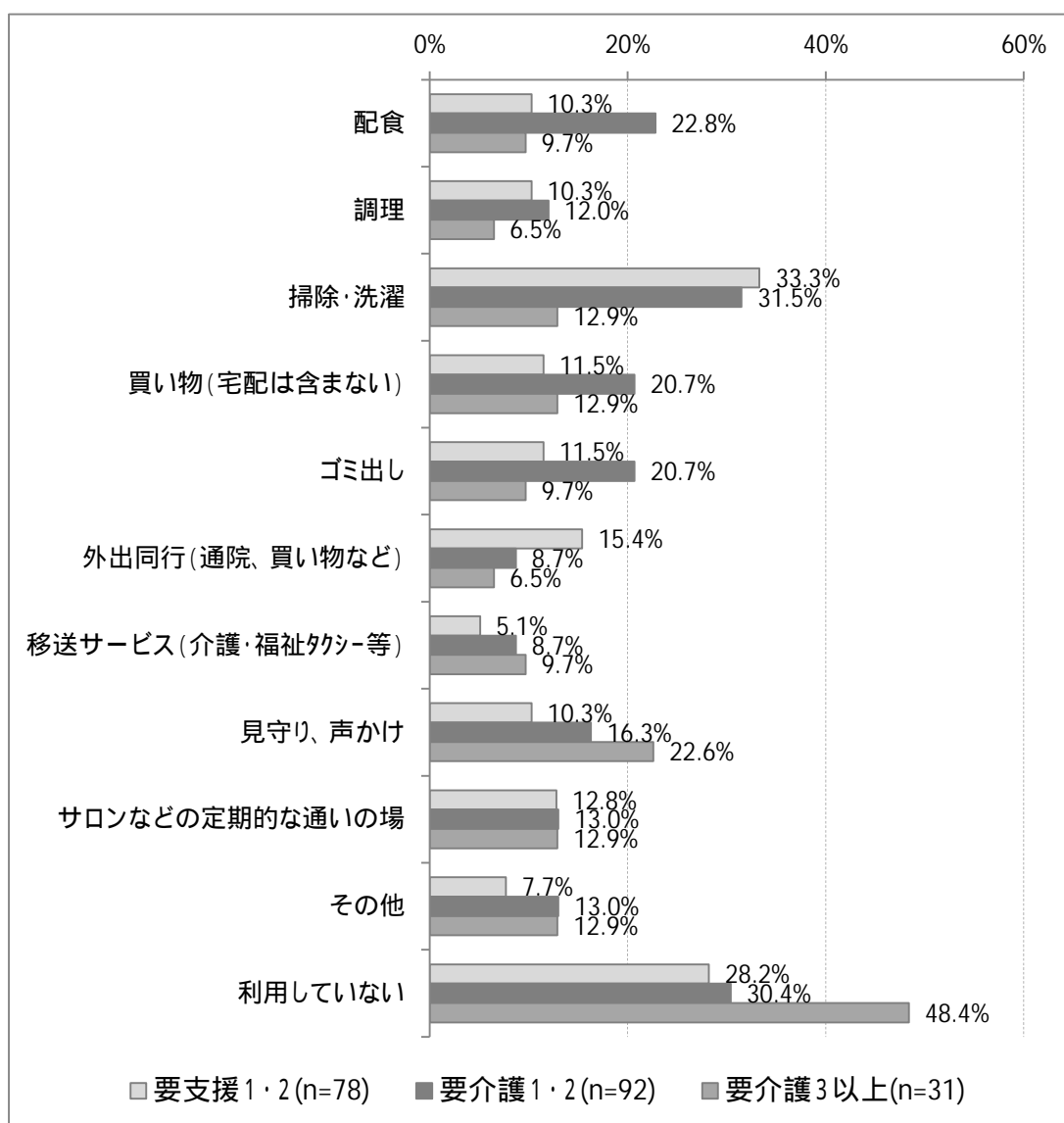
図表 3-5 要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が28.2%、「外出同行（通院，買い物など）」が15.4%となっている。「要介護1・2」では「掃除・洗濯」が31.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が30.4%、「配食」が22.8%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が48.4%ともっとも割合が高く、次いで「見守り，声かけ」が22.6%、「掃除・洗濯」，「買い物（宅配は含まない）」，「サロンなどの定期的な通いの場」，「その他」が12.9%となっている。

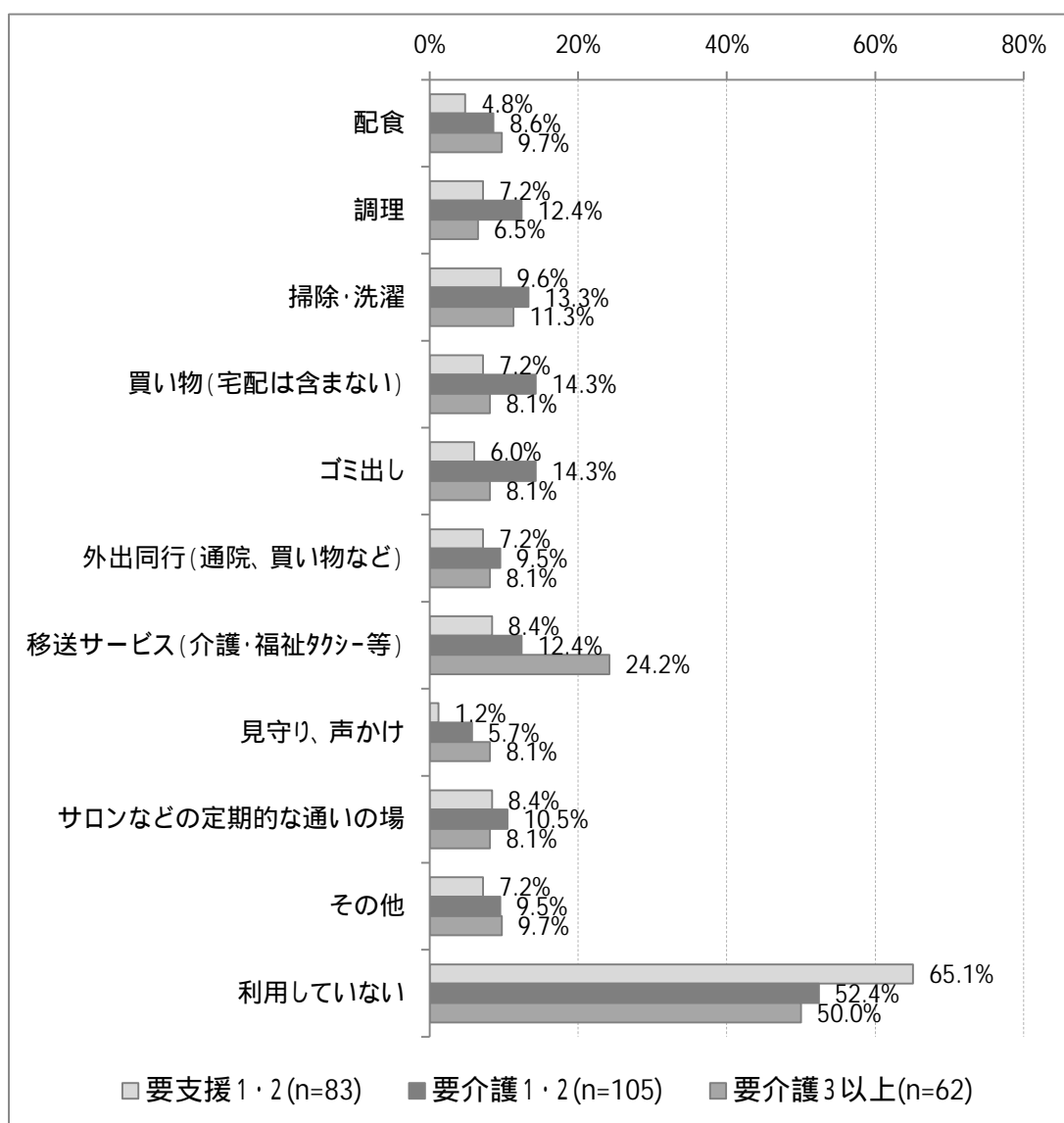
図表 3-6 要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



【要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が65.1%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が9.6%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「サロンなどの定期的な通いの場」が8.4%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が52.4%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」が14.3%、「掃除・洗濯」が13.3%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が24.2%、「掃除・洗濯」が11.3%となっている。

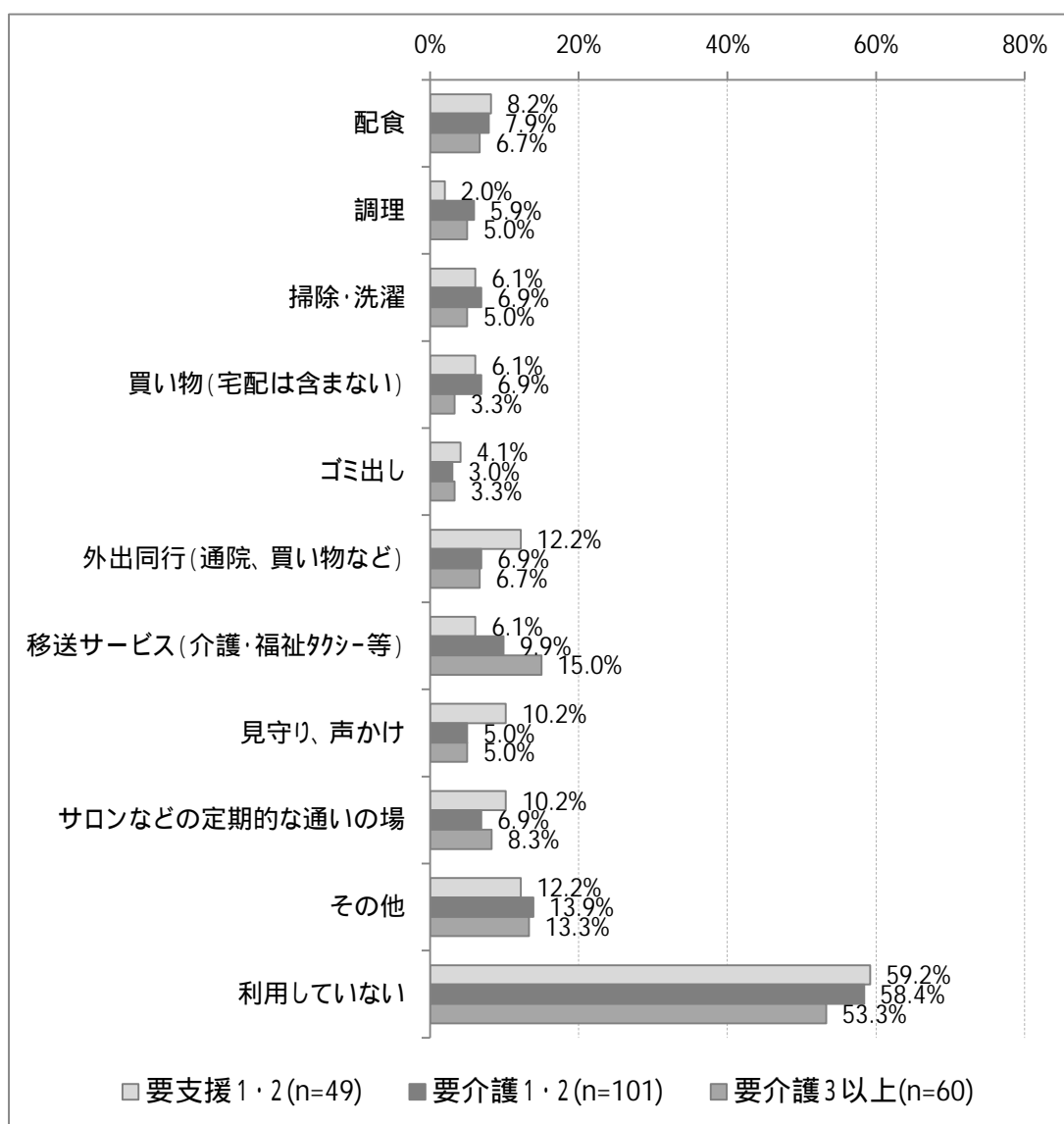
図表 3-7 要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が59.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」、「その他」が12.2%, 「見守り, 声かけ」, 「サロンなどの定期的な通いの場」が10.2%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が58.4%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が13.9%, 「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が9.9%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が15.0%, 「その他」が13.3%となっている。

図表 3-8 要介護度別・ 保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

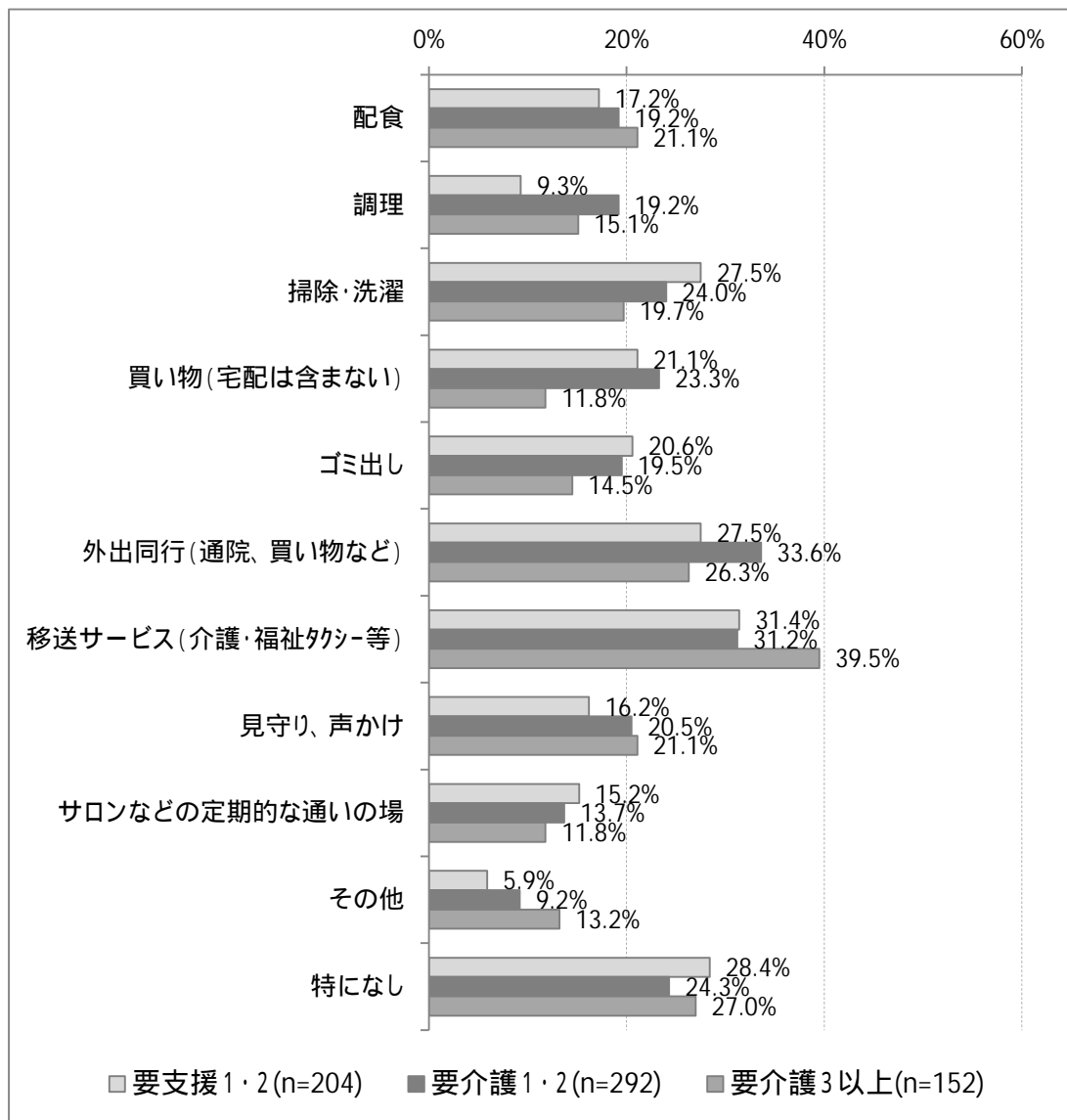
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していくことが必要です。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.4%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が28.4%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院，買い物など）」が27.5%となっている。「要介護1・2」では「外出同行（通院，買い物など）」が33.6%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.2%、「特になし」が24.3%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が39.5%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が27.0%、「外出同行（通院，買い物など）」が26.3%となっている。

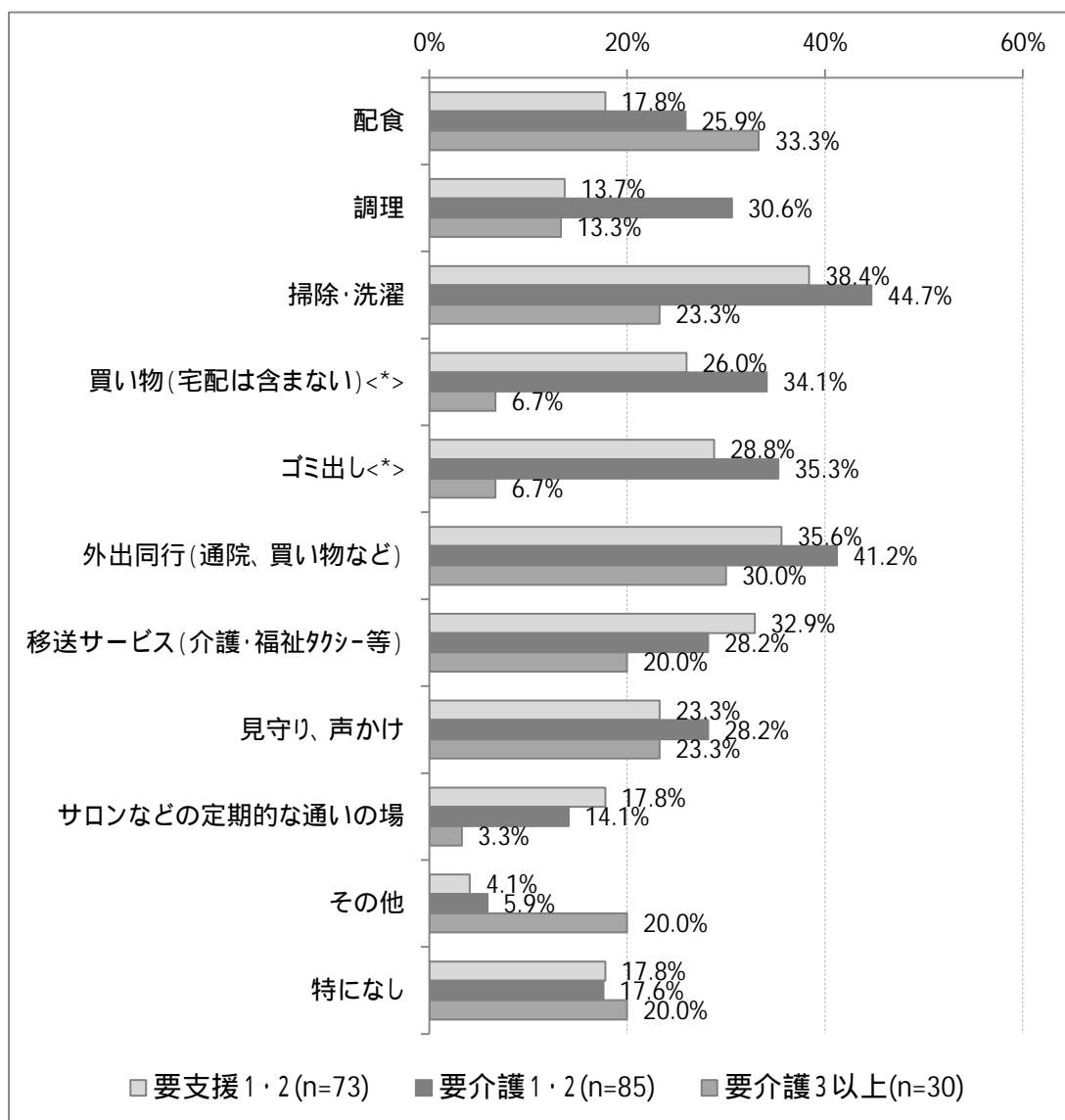
図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」が38.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が35.6%, 「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.9%となっている。「要介護1・2」では「掃除・洗濯」が44.7%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が41.2%, 「ゴミ出し」が35.3%となっている。「要介護3以上」では「配食」が33.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が30.0%, 「掃除・洗濯」, 「見守り, 声かけ」が23.3%となっている。

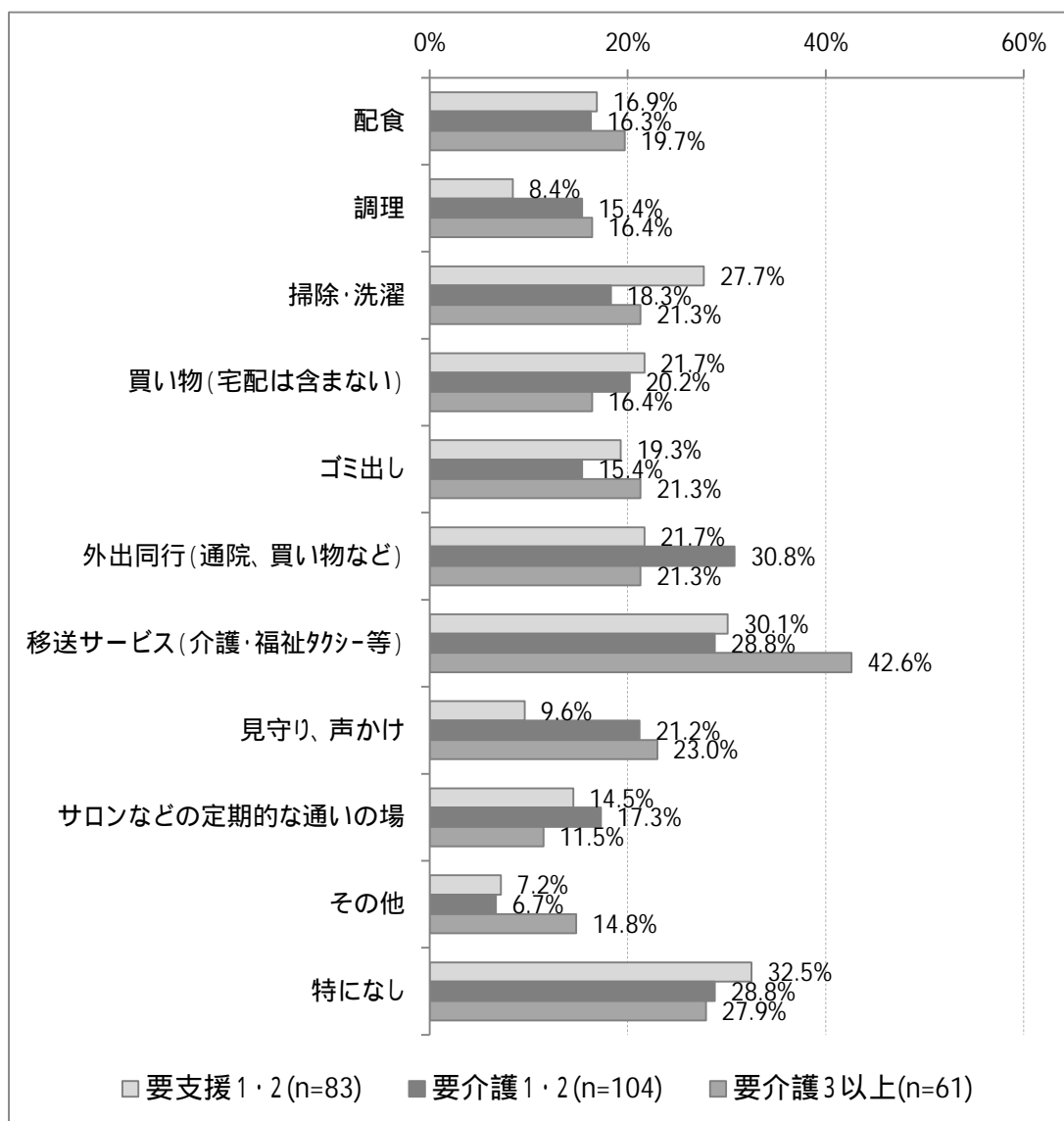
図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【要介護度別・ 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が32.5%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.1%、「掃除・洗濯」が27.7%となっている。「要介護1・2」では「外出同行(通院, 買い物など)」が30.8%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」, 「特になし」が28.8%、「見守り, 声かけ」が21.2%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が27.9%、「見守り, 声かけ」が23.0%となっている。

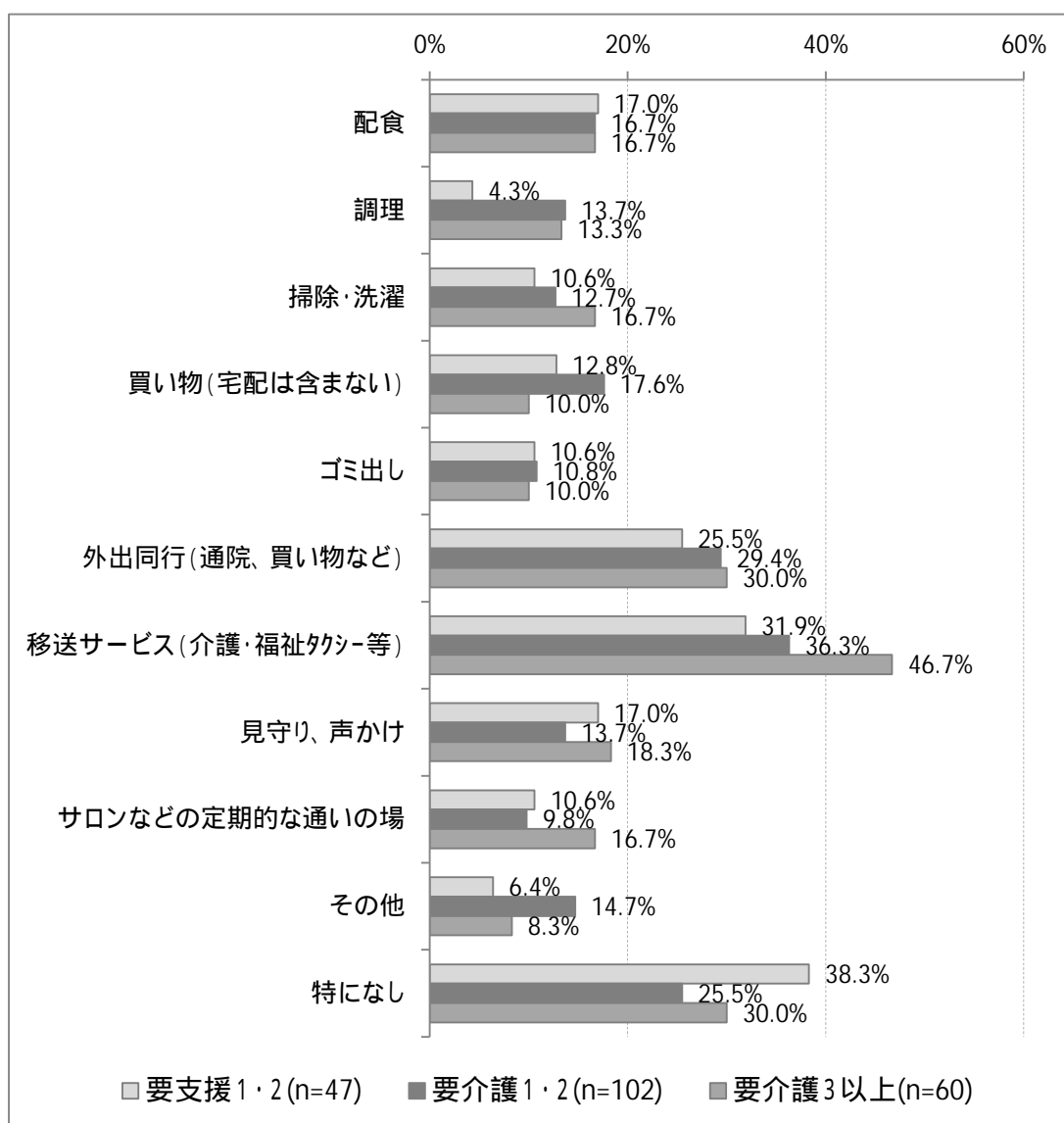
図表 3-11 要介護度別・ 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が38.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.9%、「外出同行(通院, 買い物など)」が25.5%となっている。「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が36.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が29.4%、「特になし」が25.5%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」, 「特になし」が30.0%、「見守り, 声かけ」が18.3%となっている。

図表 3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

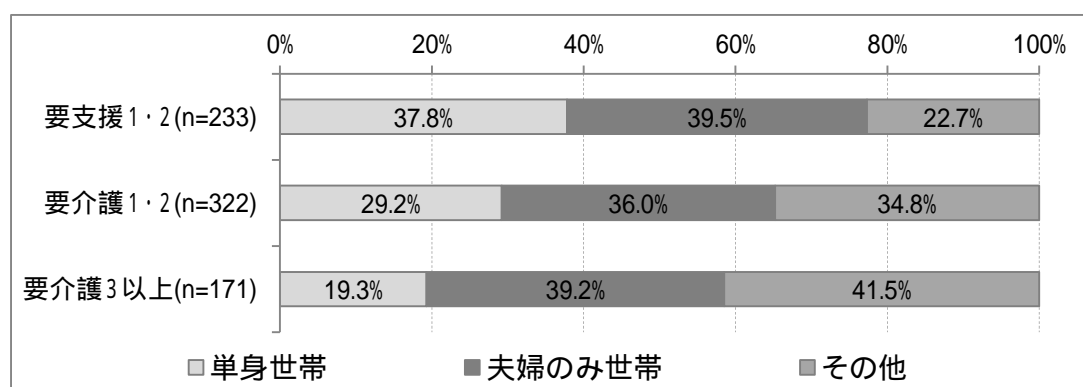
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1，図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「夫婦のみ世帯」が 39.5%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が 37.8%、「その他」が 22.7%となっている。「要介護 1・2」では「夫婦のみ世帯」が 36.0%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 34.8%、「単身世帯」が 29.2%となっている。「要介護 3 以上」では「その他」が 41.5%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 39.2%、「単身世帯」が 19.3%となっている。

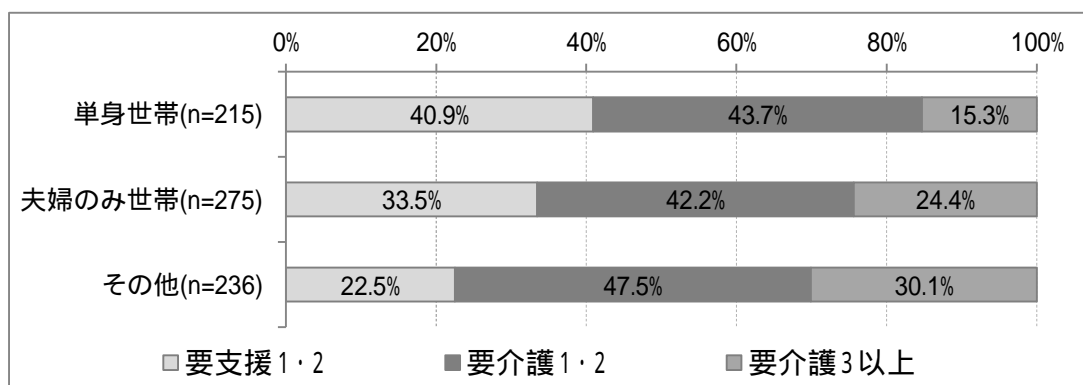
図表 4-1 要介護度別・世帯類型<***>



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が43.7%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が40.9%、「要介護3以上」が15.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が42.2%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が33.5%、「要介護3以上」が24.4%となっている。「その他」では「要介護1・2」が47.5%と最も割合が高く、次いで「要介護3以上」が30.1%、「要支援1・2」が22.5%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度<***>



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

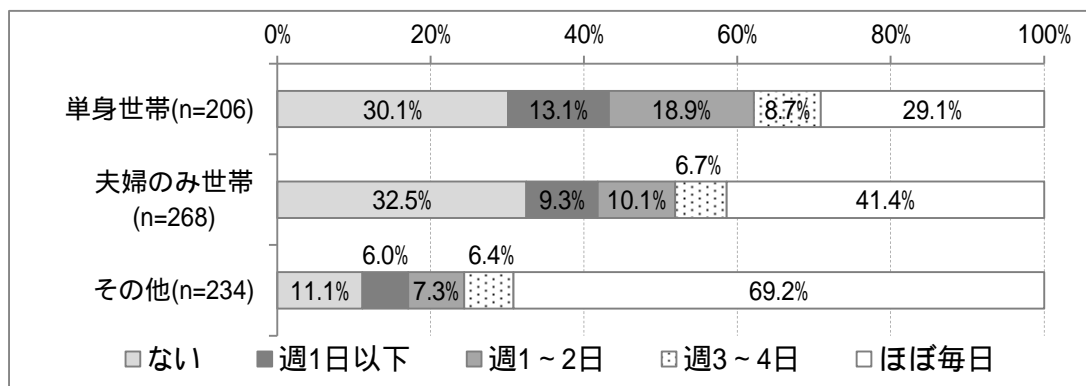
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が 30.1%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が 29.1%、「週 1～2 日」が 18.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 41.4%と最も割合が高く、次いで「ない」が 32.5%、「週 1～2 日」が 10.1%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 69.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が 11.1%、「週 1～2 日」が 7.3%となっている。

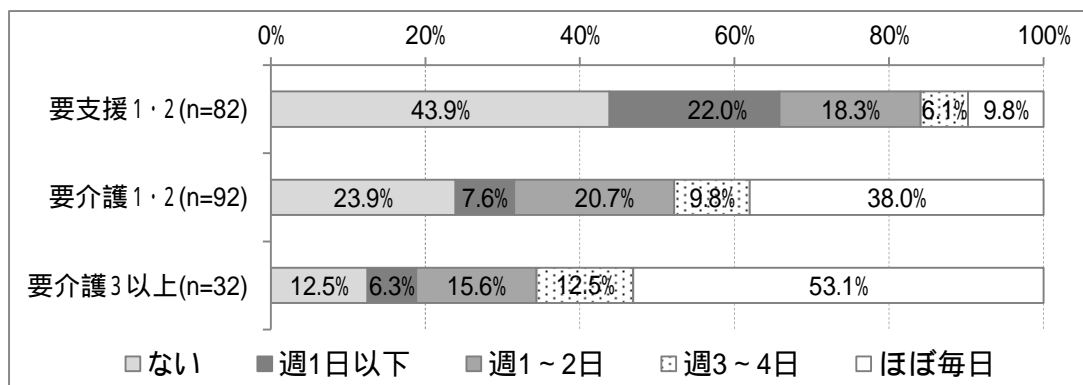
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が43.9%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が22.0%、「週1～2日」が18.3%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が38.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が23.9%、「週1～2日」が20.7%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が53.1%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が15.6%、「ない」、「週3～4日」が12.5%となっている。

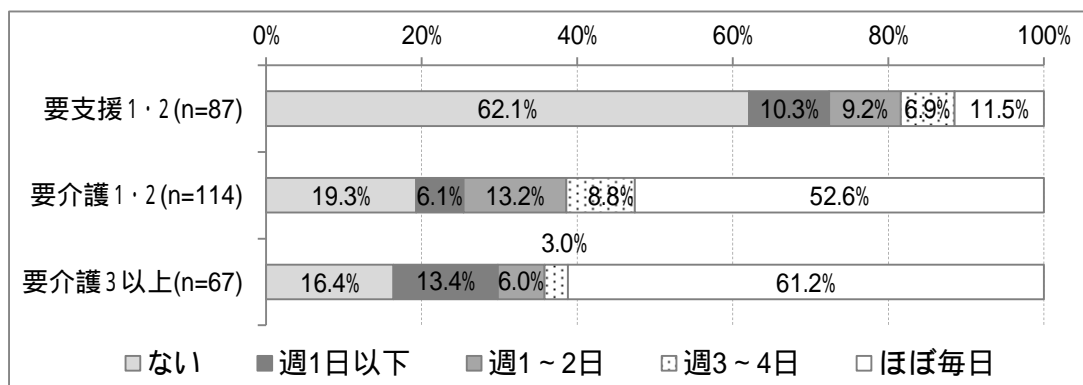
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯) <***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が62.1%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が11.5%、「週1日以下」が10.3%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が52.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が19.3%、「週1～2日」が13.2%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が61.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が16.4%、「週1日以下」が13.4%となっている。

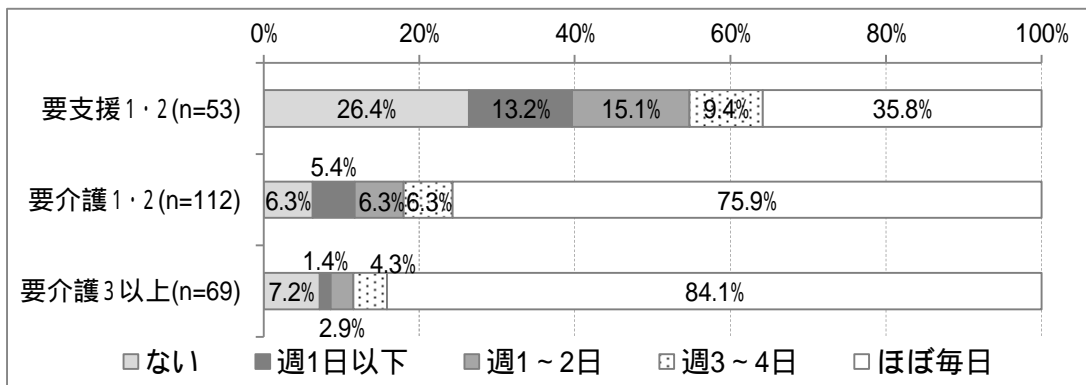
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯) <***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が35.8%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が26.4%、「週1~2日」が15.1%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が75.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1~2日」、「週3~4日」が6.3%、「週1日以下」が5.4%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が84.1%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が7.2%、「週3~4日」が4.3%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯) <***>



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

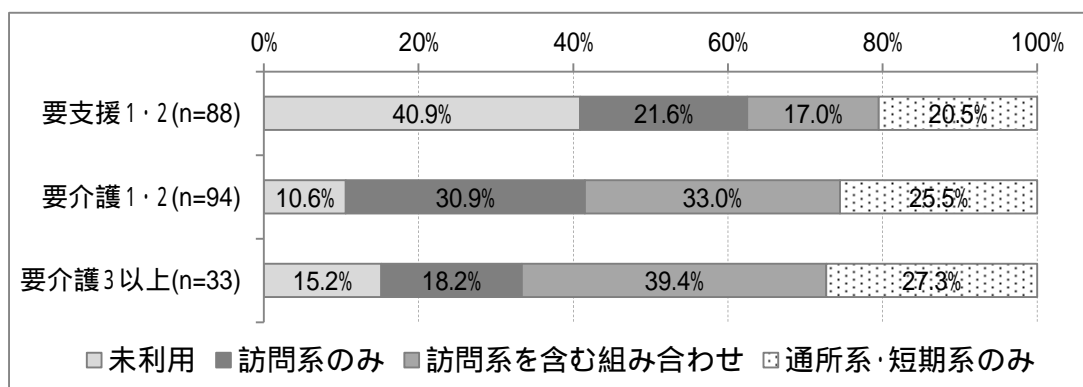
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.6%、「通所系・短期系のみ」が20.5%となっている。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.9%、「通所系・短期系のみ」が25.5%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系のみ」が18.2%となっている。

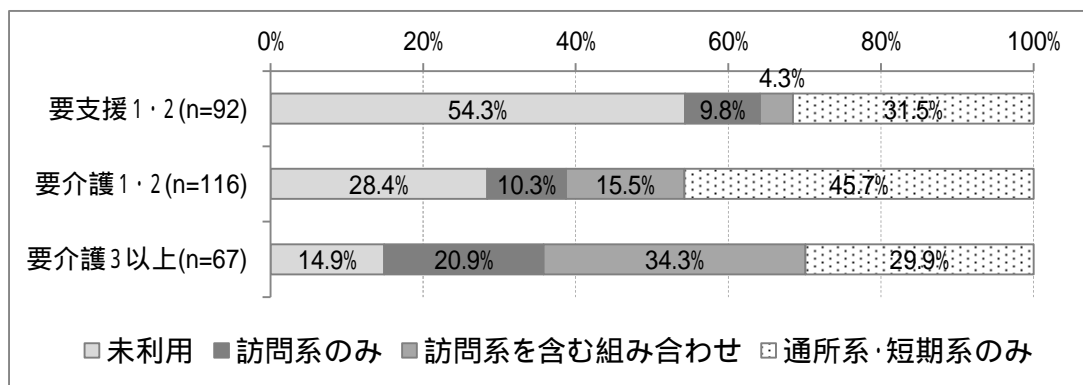
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <***>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が54.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.5%、「訪問系のみ」が9.8%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が45.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が28.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.5%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が34.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が29.9%、「訪問系のみ」が20.9%となっている。

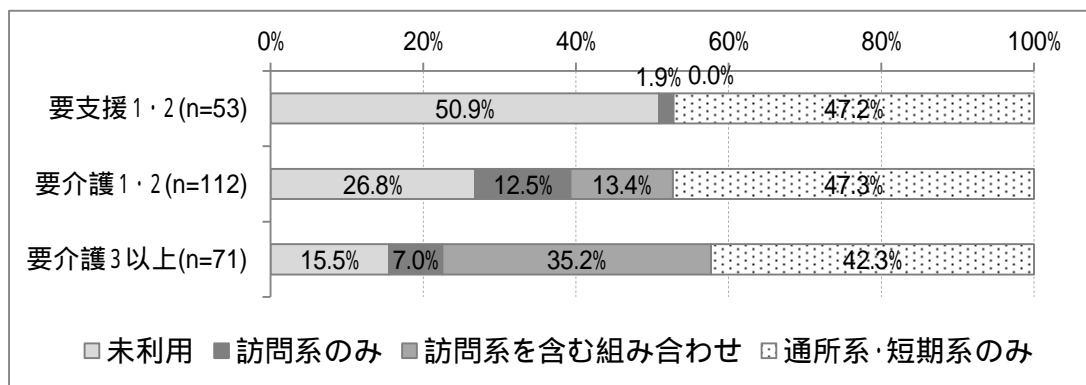
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯) <***>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が50.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が47.2%、「訪問系のみ」が1.9%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が47.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が26.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.4%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が35.2%、「未利用」が15.5%となっている。

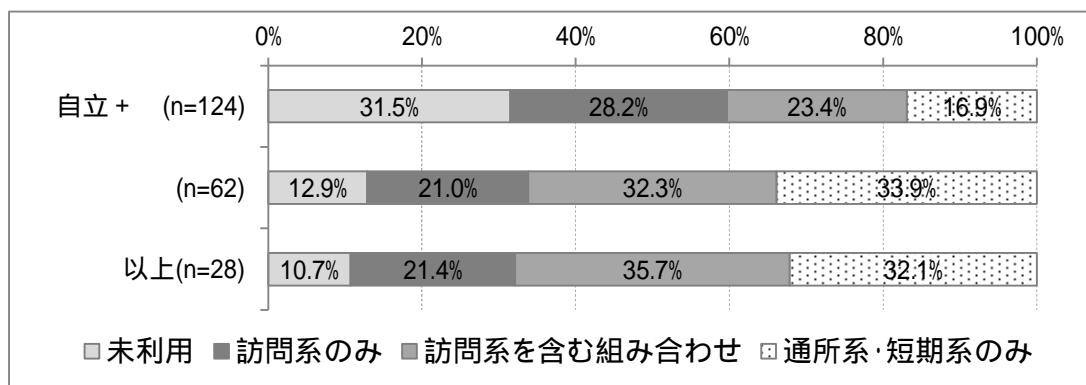
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「未利用」が31.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が23.4%となっている。「」では「通所系・短期系のみ」が33.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が32.3%、「訪問系のみ」が21.0%となっている。「以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.1%、「訪問系のみ」が21.4%となっている。

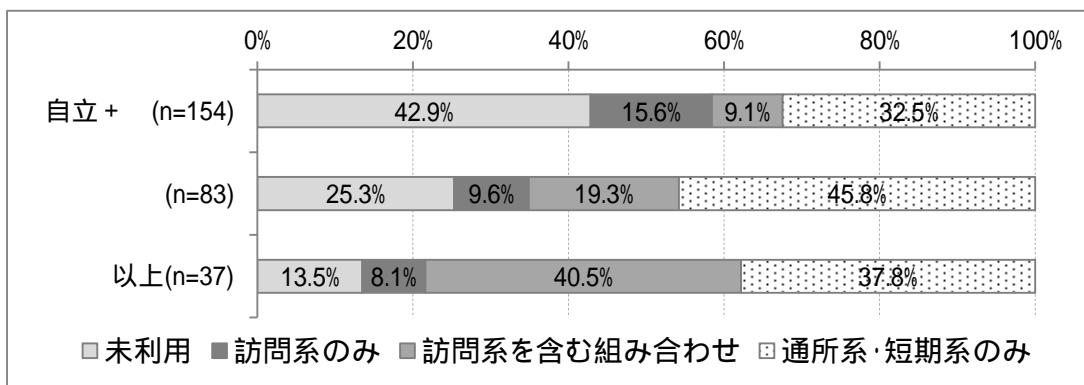
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「未利用」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.5%、「訪問系のみ」が15.6%となっている。「」では「通所系・短期系のみ」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.3%となっている。「以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が37.8%、「未利用」が13.5%となっている。

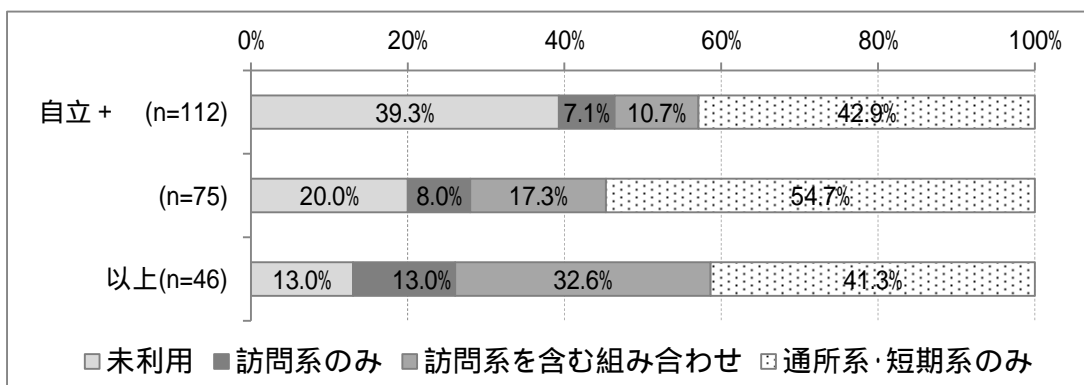
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯) <***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「通所系・短期系のみ」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が39.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が10.7%となっている。「」では「通所系・短期系のみ」が54.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が20.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.3%となっている。「以上」では「通所系・短期系のみ」が41.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が32.6%、「未利用」,「訪問系のみ」が13.0%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <***>



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

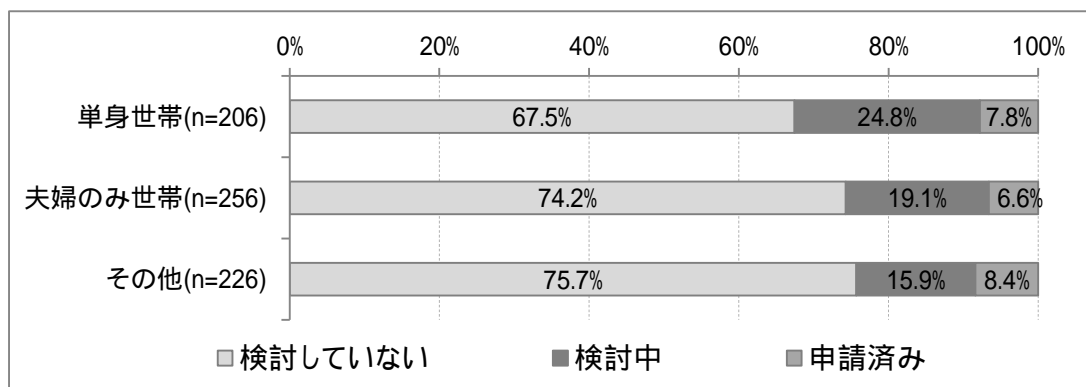
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が67.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.8%、「申請済み」が7.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が74.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.1%、「申請済み」が6.6%となっている。「その他」では「検討していない」が75.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.9%、「申請済み」が8.4%となっている。

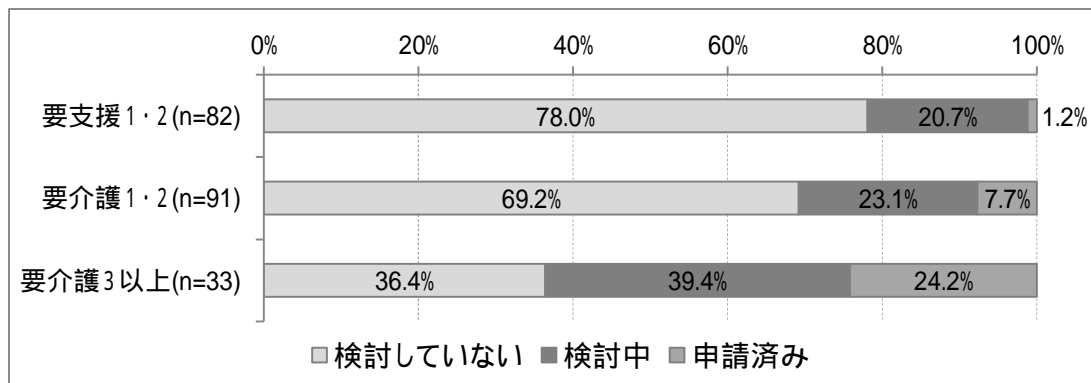
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が78.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.7%、「申請済み」が1.2%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が69.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.1%、「申請済み」が7.7%となっている。「要介護3以上」では「検討中」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が36.4%、「申請済み」が24.2%となっている。

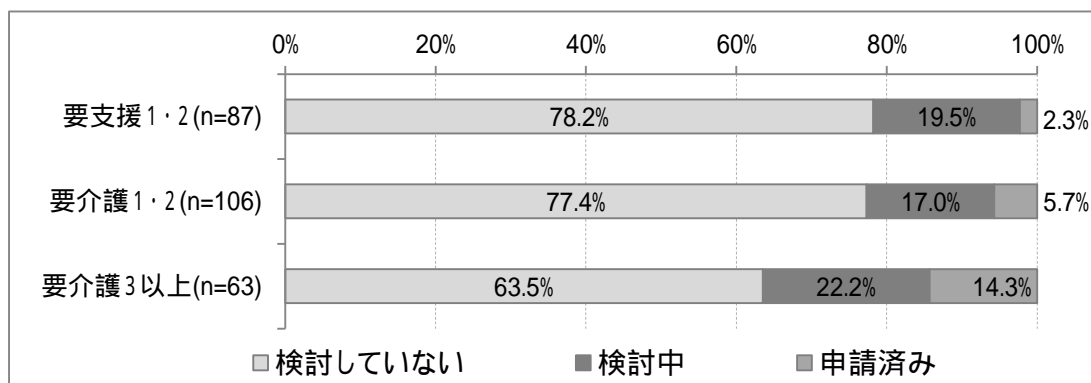
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯) <***>



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が78.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.5%、「申請済み」が2.3%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が77.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.0%、「申請済み」が5.7%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が63.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が14.3%となっている。

図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯) <*>

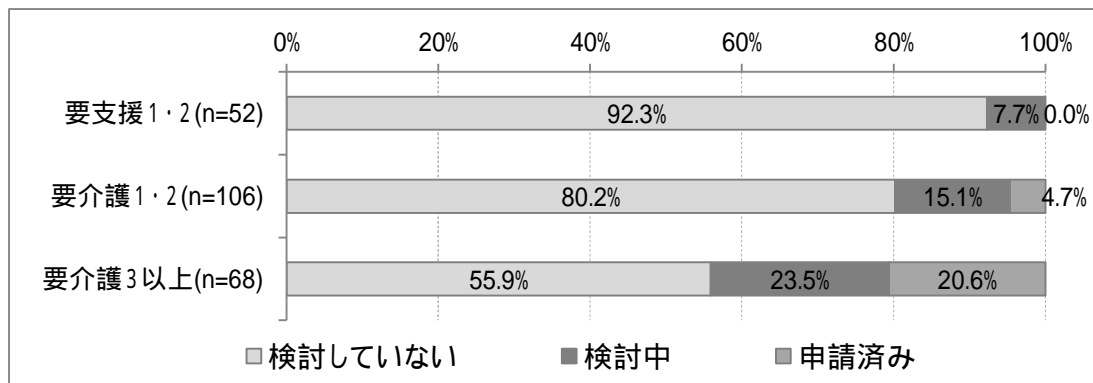


【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が92.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が7.7%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護1・2」では「検討していない」が80.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.1%、「申請済み」が4.7%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が55.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が20.6%となっている。

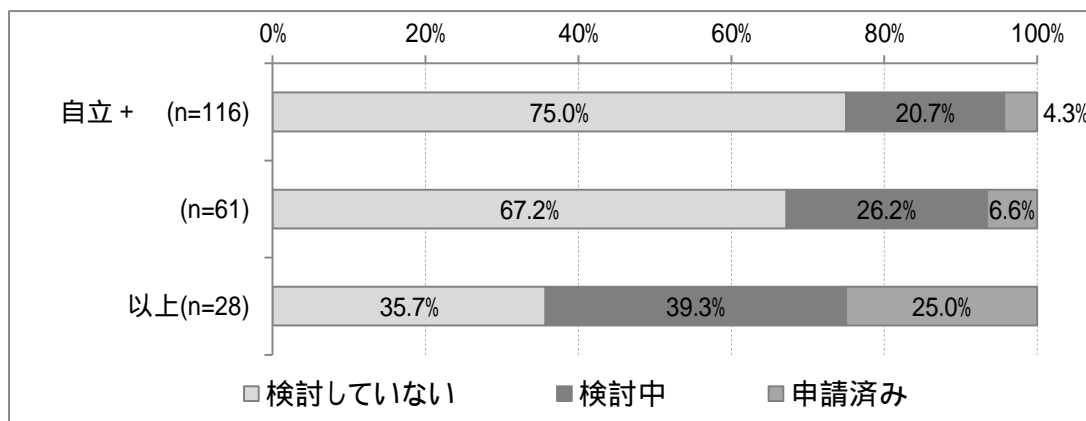
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯) <***>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.7%、「申請済み」が4.3%となっている。「」では「検討していない」が67.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.2%、「申請済み」が6.6%となっている。「以上」では「検討中」が39.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が35.7%、「申請済み」が25.0%となっている。

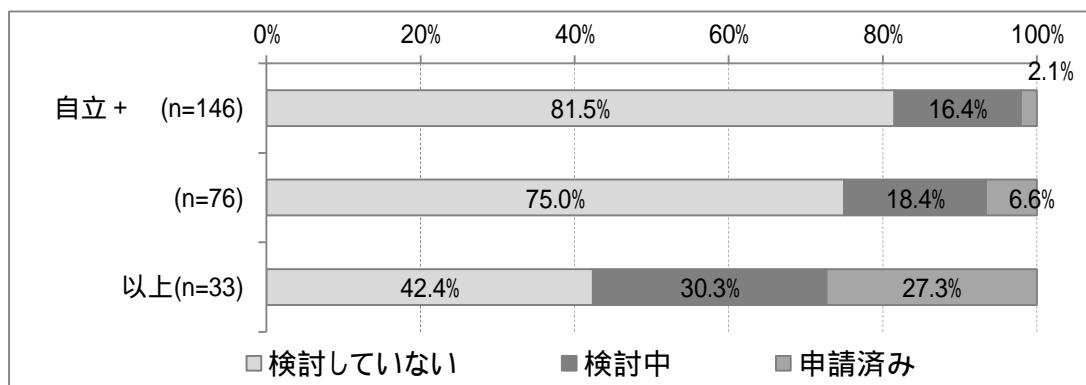
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯) <***>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「検討していない」が81.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.4%、「申請済み」が2.1%となっている。「」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.4%、「申請済み」が6.6%となっている。「以上」では「検討中」が30.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が42.4%、「申請済み」が27.3%となっている。

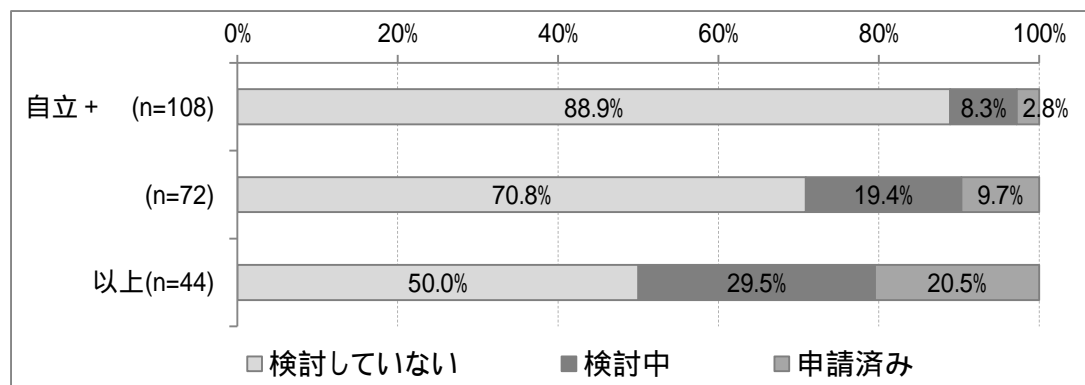
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯) <***>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「検討していない」が88.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が8.3%、「申請済み」が2.8%となっている。「」では「検討していない」が70.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.4%、「申請済み」が9.7%となっている。「以上」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が29.5%、「申請済み」が20.5%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯) <***>



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

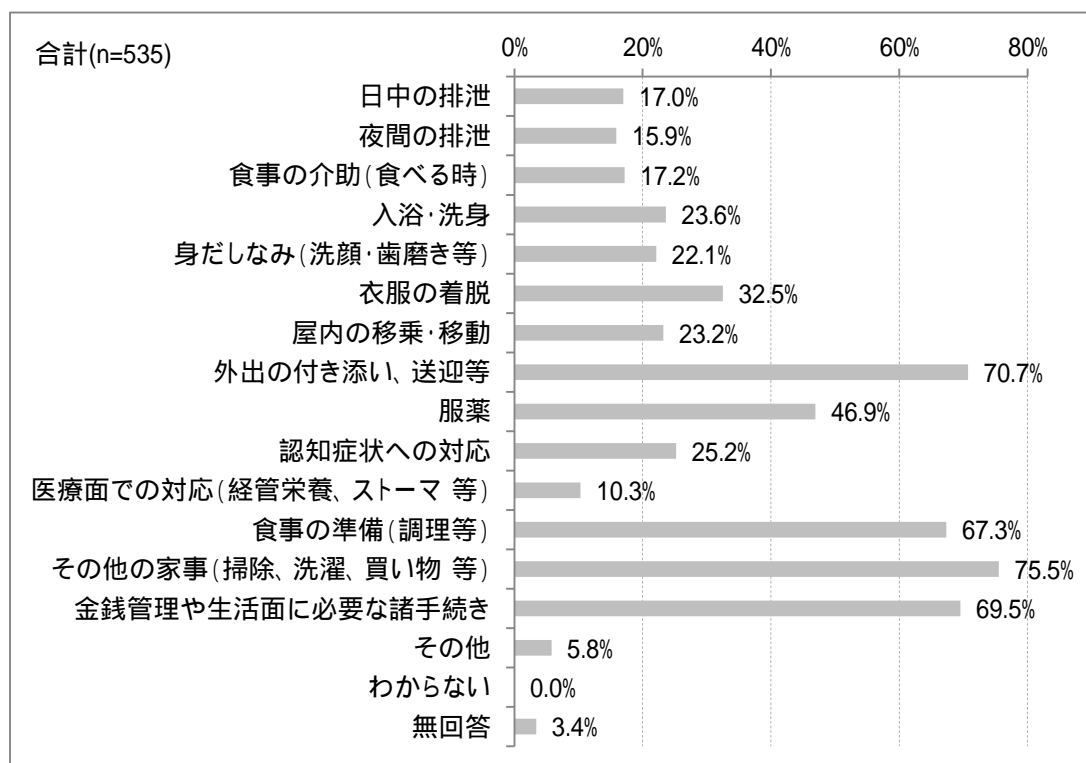
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」の割合が最も高く 75.5%となっている。次いで、「外出の付き添い，送迎等（70.7%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（69.5%）」となっている。

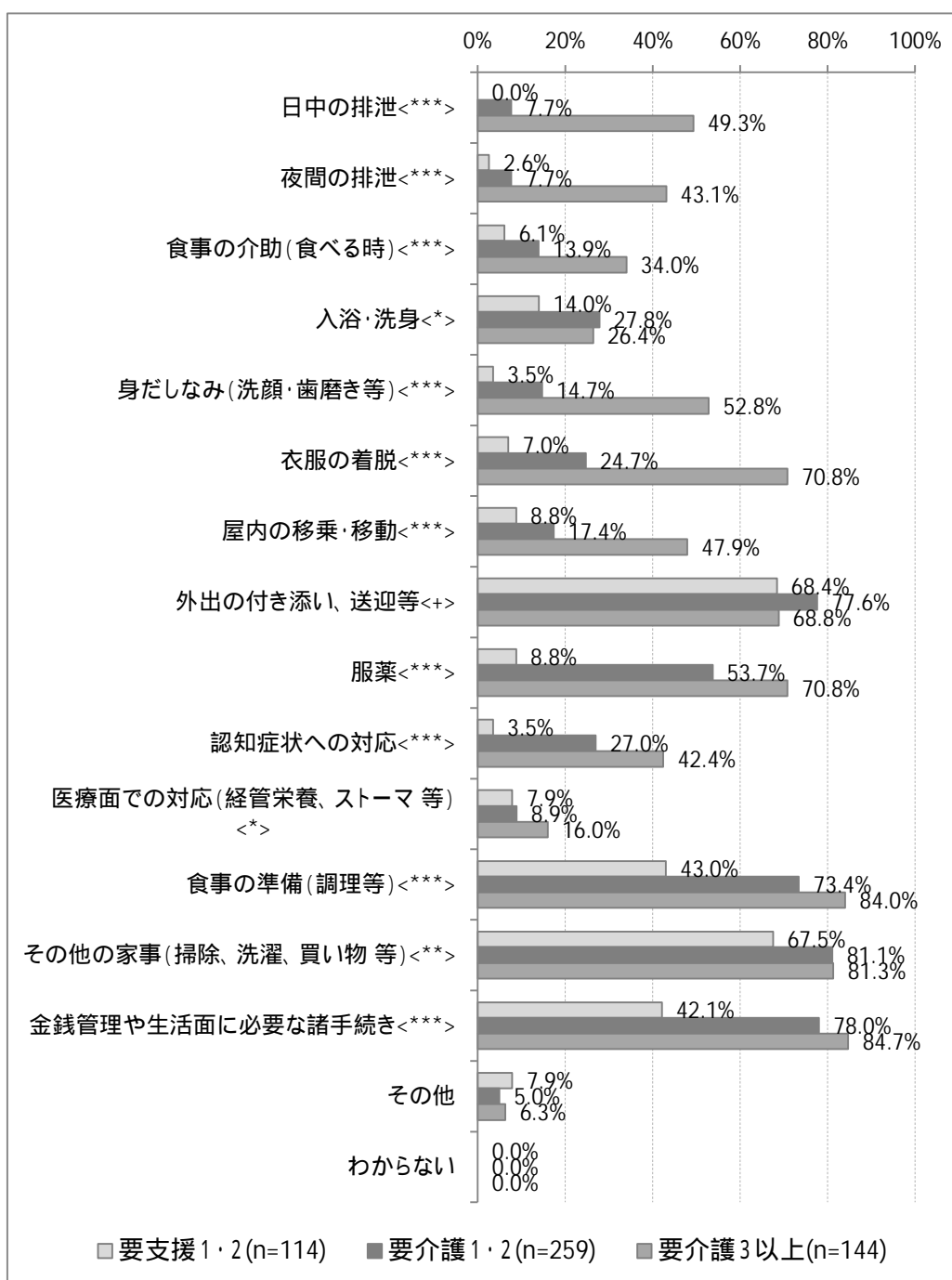
図表 5-1 主な介護者が行っている介護



【要介護度別・ 主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が68.4%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が67.5%、「食事の準備（調理等）」が43.0%となっている。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.1%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.0%、「外出の付き添い、送迎等」が77.6%となっている。「要介護3以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.7%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が84.0%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.3%となっている。

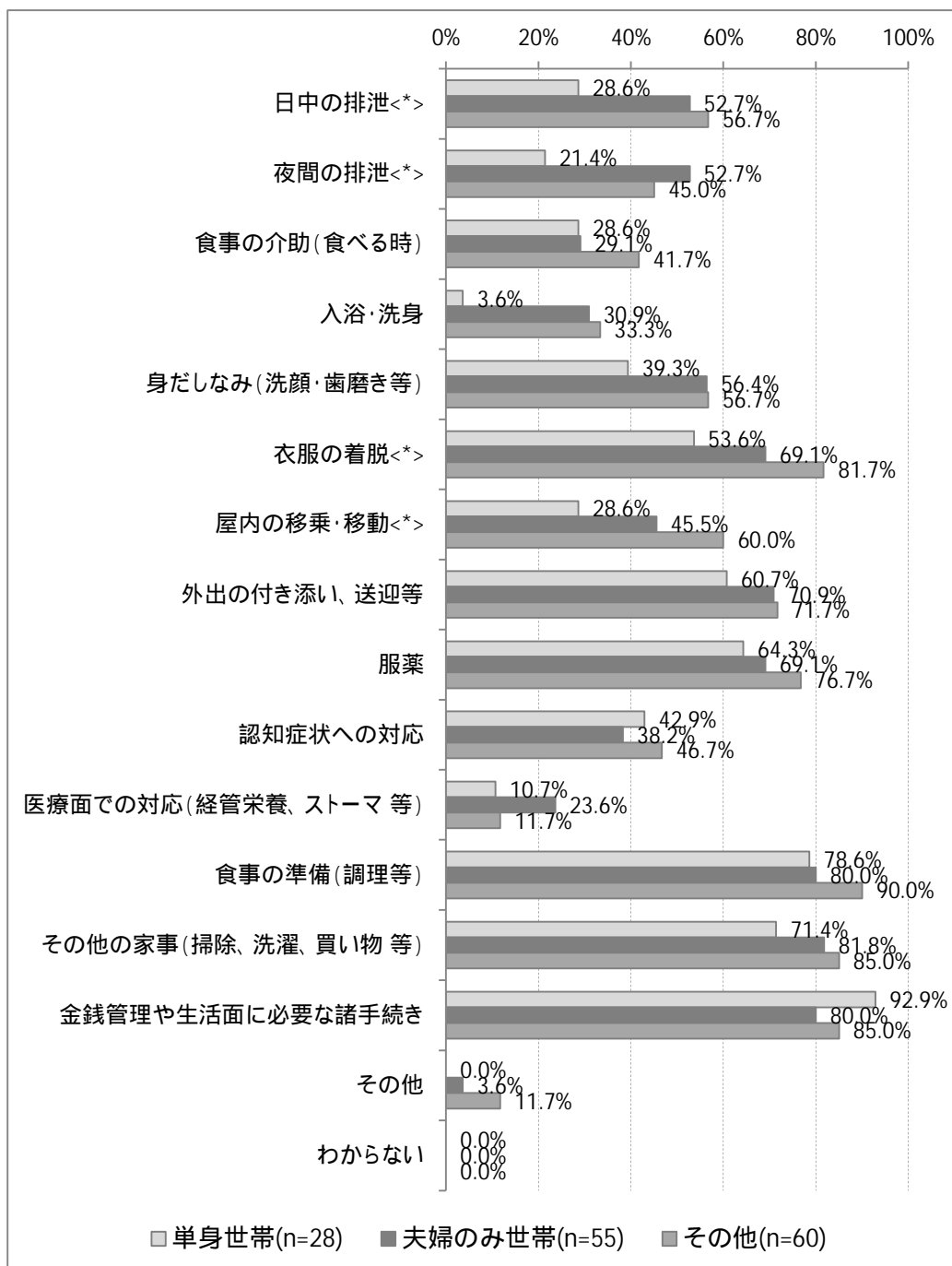
図表 5-2 要介護度別・ 主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・ 主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が92.9%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」が78.6%、「その他の家事(掃除,洗濯,買い物等)」が71.4%となっている。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事(掃除,洗濯,買い物等)」が81.8%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」,「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が80.0%、「外出の付き添い,送迎等」が70.9%となっている。「その他」では「食事の準備(調理等)」が90.0%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事(掃除,洗濯,買い物等)」,「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が85.0%、「衣服の着脱」が81.7%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・ 主な介護者が行っている介護(要介護3以上)



(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

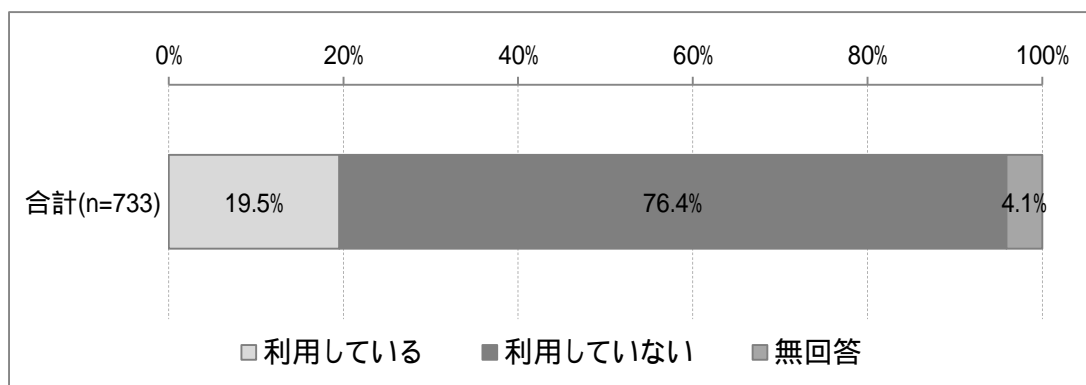
【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025年の在宅医療等に対応が必要な医療需要」の需要量予測の結果等もご覧ください。

【訪問診療の利用の有無】

「利用していない」が 6.4%、「利用している」が 19.5%となっている。

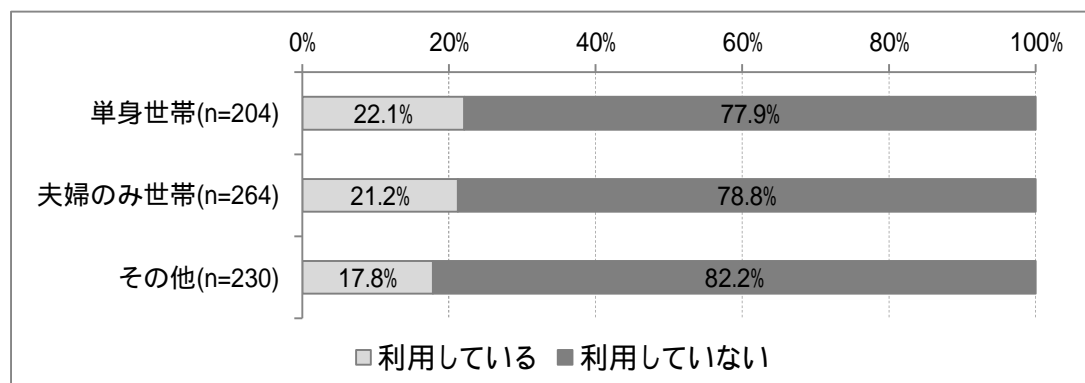
図表 5-4 訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・ 訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が77.9%、「利用している」が22.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が78.8%、「利用している」が21.2%となっている。「その他」では「利用していない」が82.2%、「利用している」が17.8%となっている。

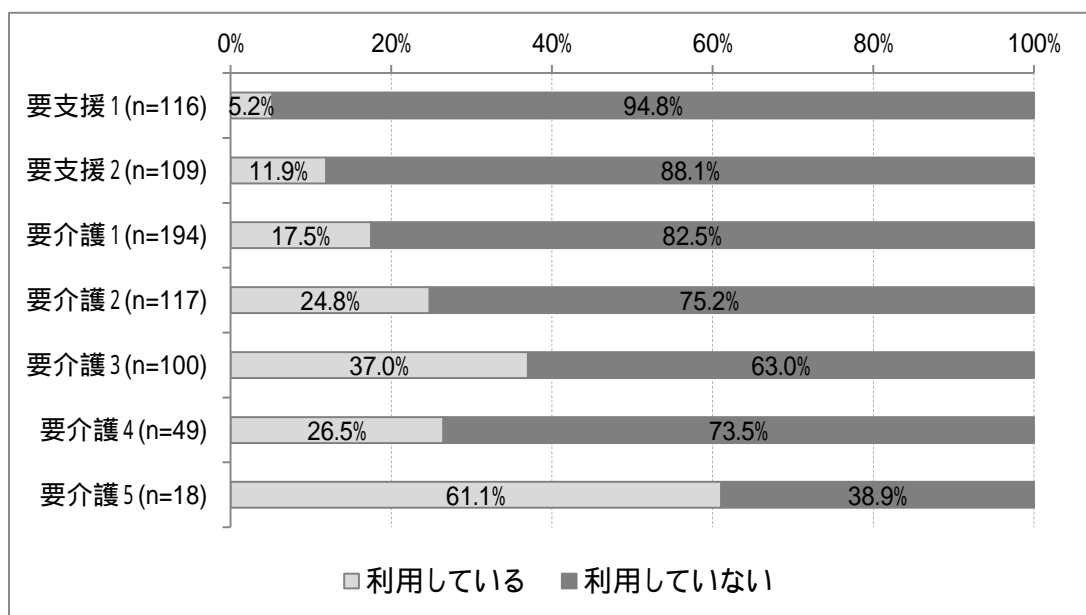
図表 5-5 世帯類型別・ 訪問診療の利用割合



【要介護度別・ 訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が94.8%、「利用している」が5.2%となっている。「要支援2」では「利用していない」が88.1%、「利用している」が11.9%となっている。「要介護1」では「利用していない」が82.5%、「利用している」が17.5%となっている。「要介護2」では「利用していない」が75.2%、「利用している」が24.8%となっている。「要介護3」では「利用していない」が63.0%、「利用している」が37.0%となっている。「要介護4」では「利用していない」が73.5%、「利用している」が26.5%となっている。「要介護5」では「利用している」が61.1%、「利用していない」が38.9%となっている。

図表 5-6 要介護度別・ 訪問診療の利用割合<***>



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

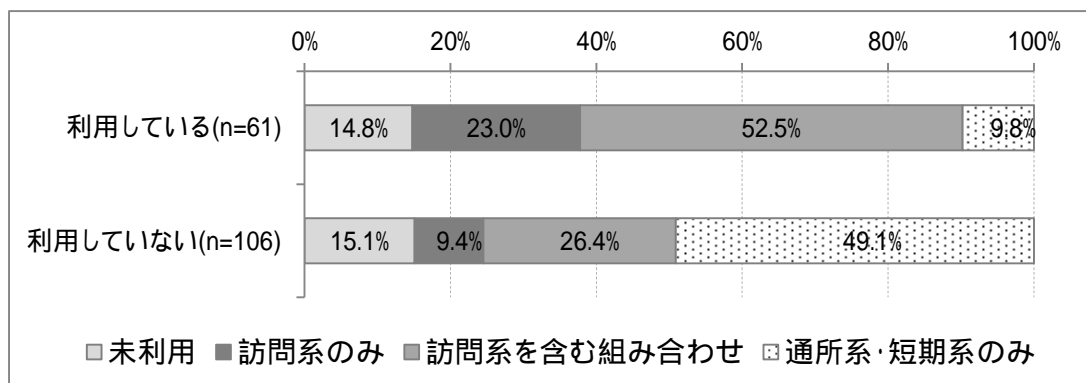
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.0%、「未利用」が14.8%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が49.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.4%、「未利用」が15.1%となっている。

図表 5-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）<***>



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表 5-8～図表 5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

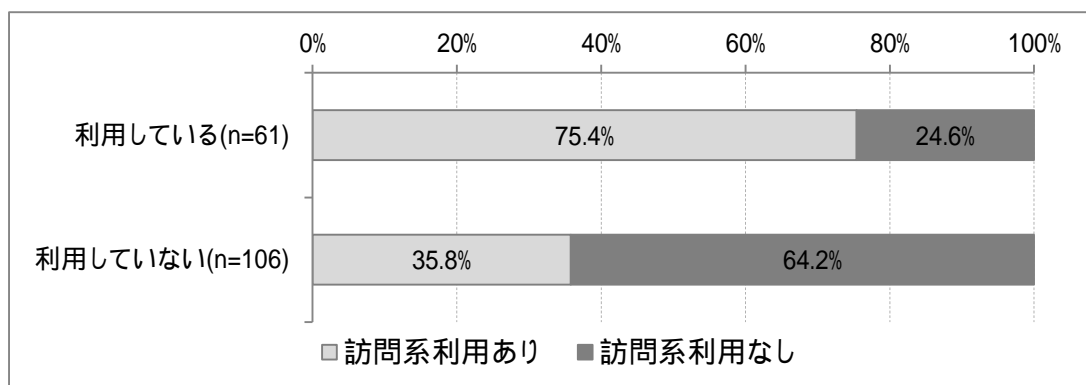
【留意事項】

- 上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない」ことに原因があるとは限りません。
- 集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行う必要があります。

【 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系，要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が75.4%、「訪問系利用なし」が24.6%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が64.2%、「訪問系利用あり」が35.8%となっている。

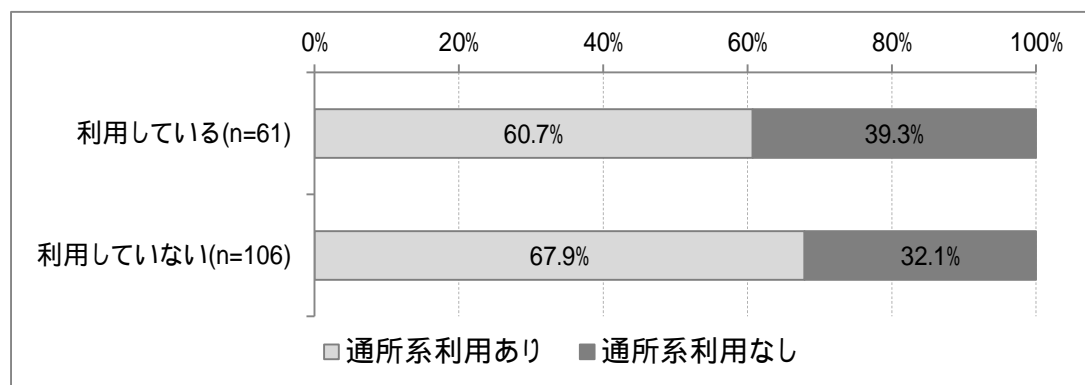
図表 5-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系，要介護3以上）<***>



【 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系，要介護3以上）】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用あり」が60.7%、「通所系利用なし」が39.3%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が67.9%、「通所系利用なし」が32.1%となっている。

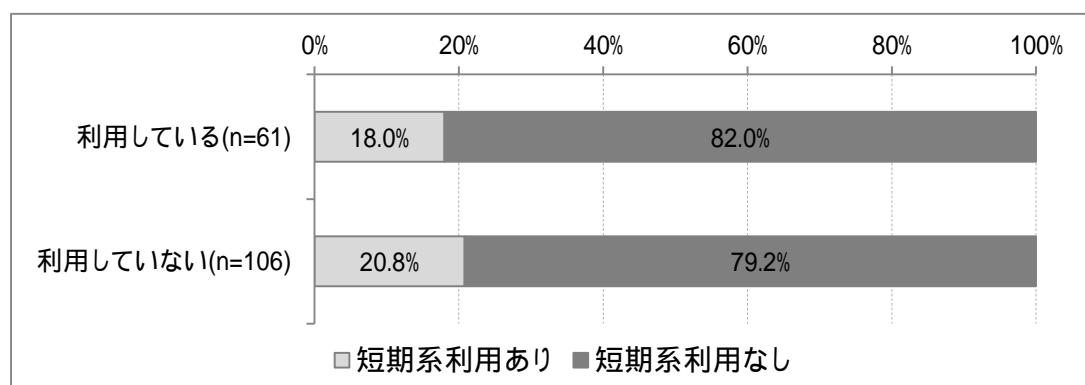
図表 5-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系，要介護3以上）



【 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系，要介護3以上）】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が82.0%、「短期系利用あり」が18.0%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が79.2%、「短期系利用あり」が20.8%となっている。

図表 5-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系，要介護3以上）



6 サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

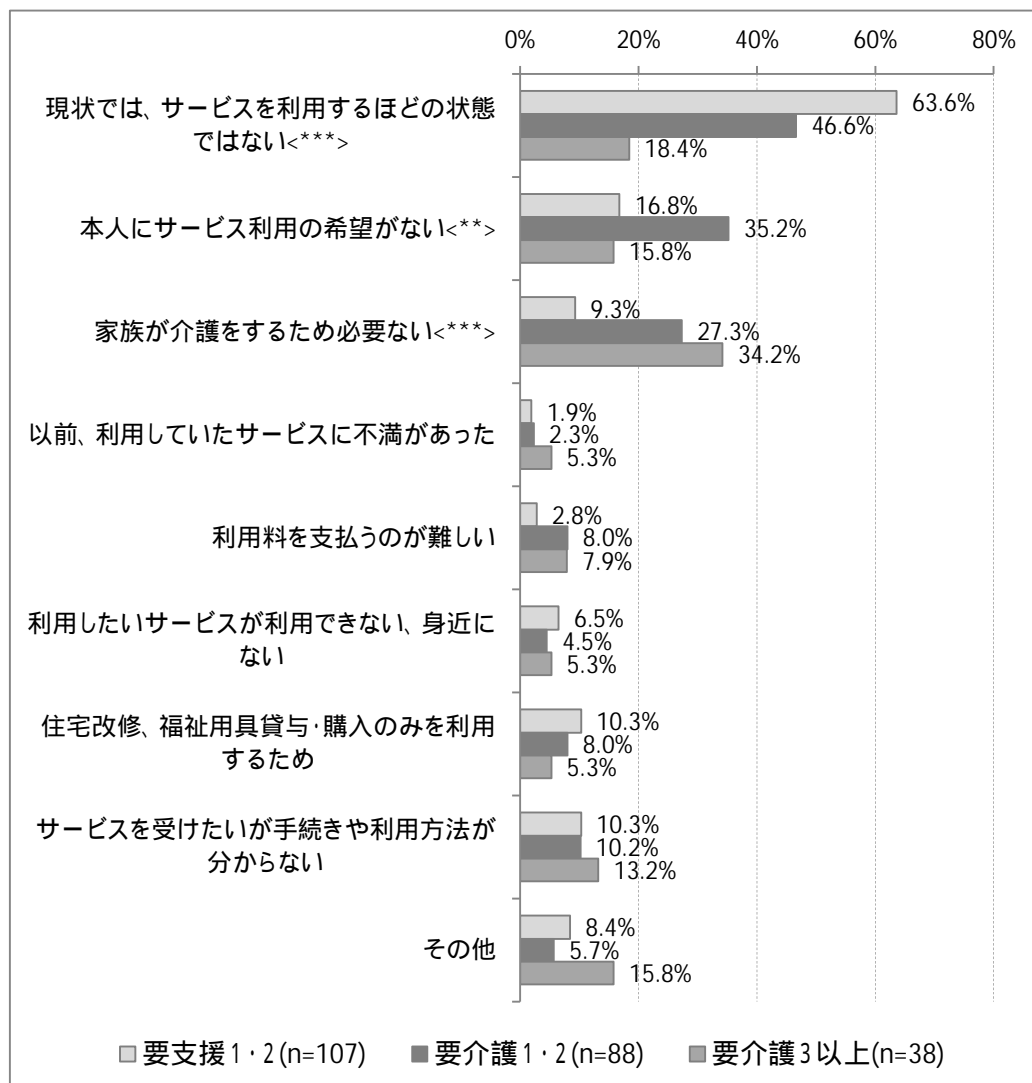
6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が16.8%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が10.3%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が35.2%、「家族が介護をするため必要ない」が27.3%となっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が34.2%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が18.4%、「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が15.8%となっている。

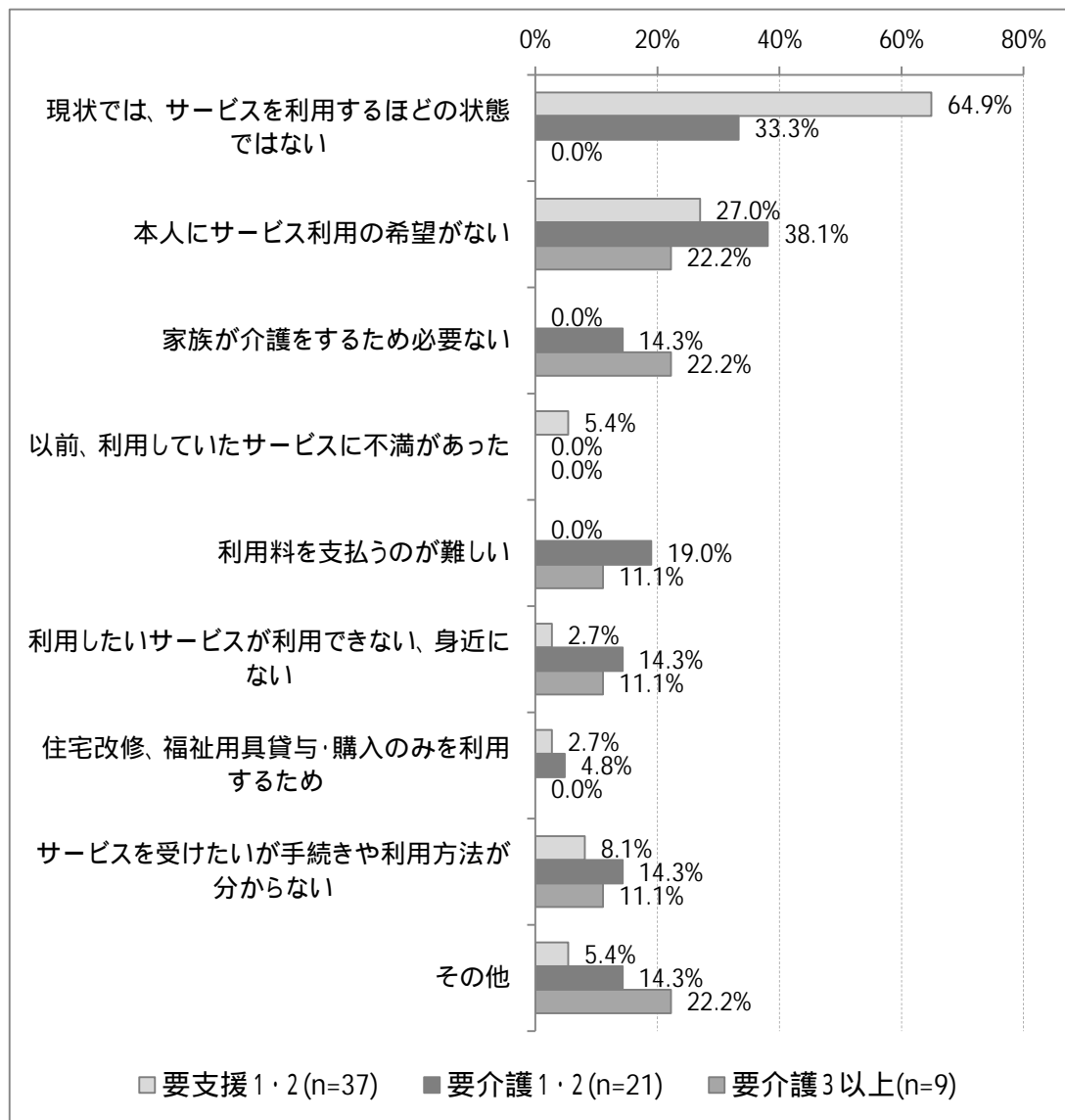
図表 6-1 要介護度別の サービス未利用の理由



【要介護度別の サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.0%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が8.1%となっている。「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が38.1%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が33.3%、「利用料を支払うのが難しい」が19.0%となっている。「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が22.2%と最も割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が11.1%となっている。

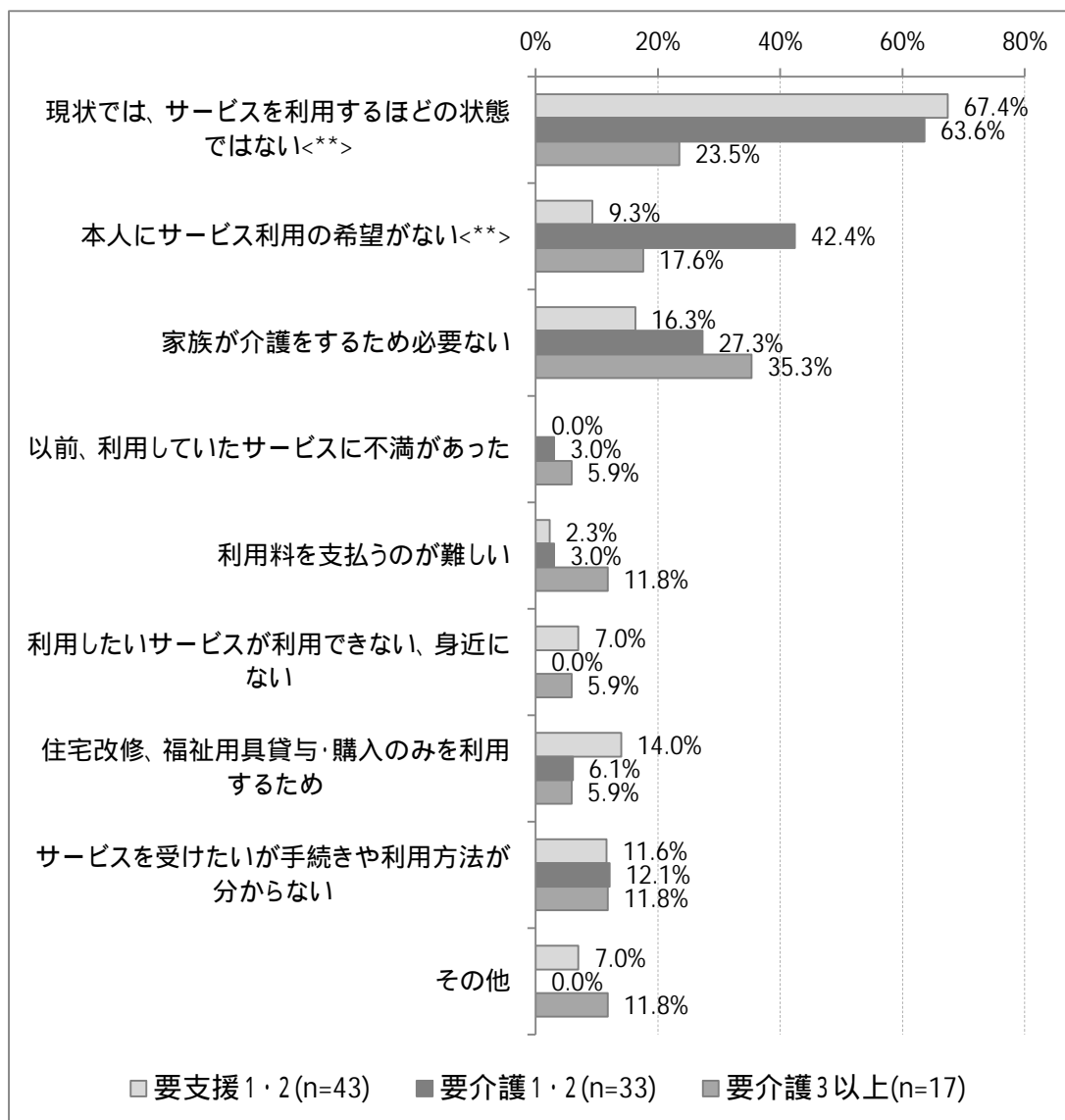
図表 6-2 要介護度別の サービス未利用の理由 (単身世帯)



【要介護度別の サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が67.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が16.3%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が14.0%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が42.4%、「家族が介護をするため必要ない」が27.3%となっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が35.3%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が23.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が17.6%となっている。

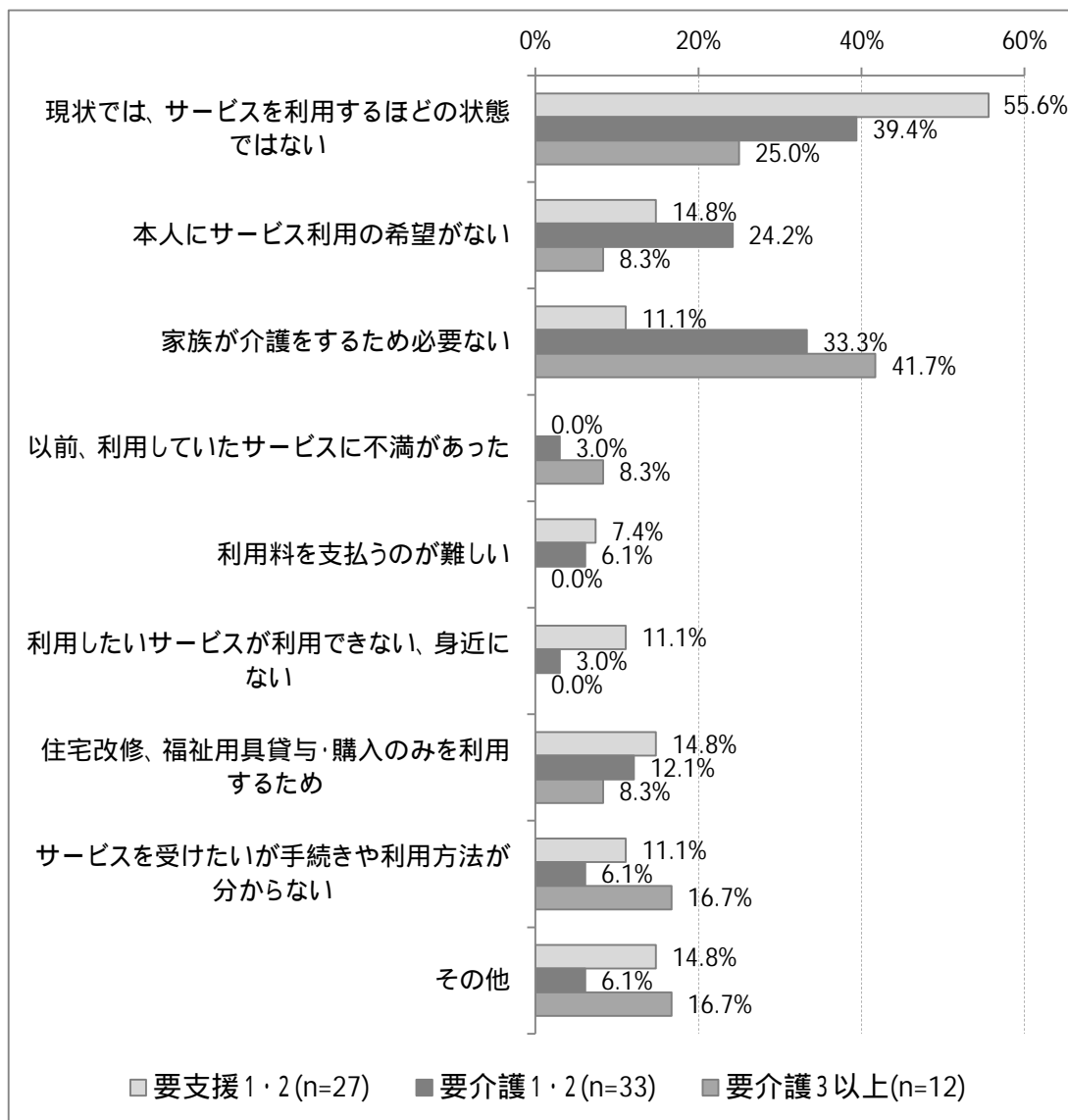
図表 6-3 要介護度別の サービス未利用の理由 (夫婦のみ世帯)



【要介護度別の サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が14.8%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が11.1%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」が24.2%となっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が41.7%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が25.0%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が16.7%となっている。

図表 6-4 要介護度別の サービス未利用の理由 (その他世帯)

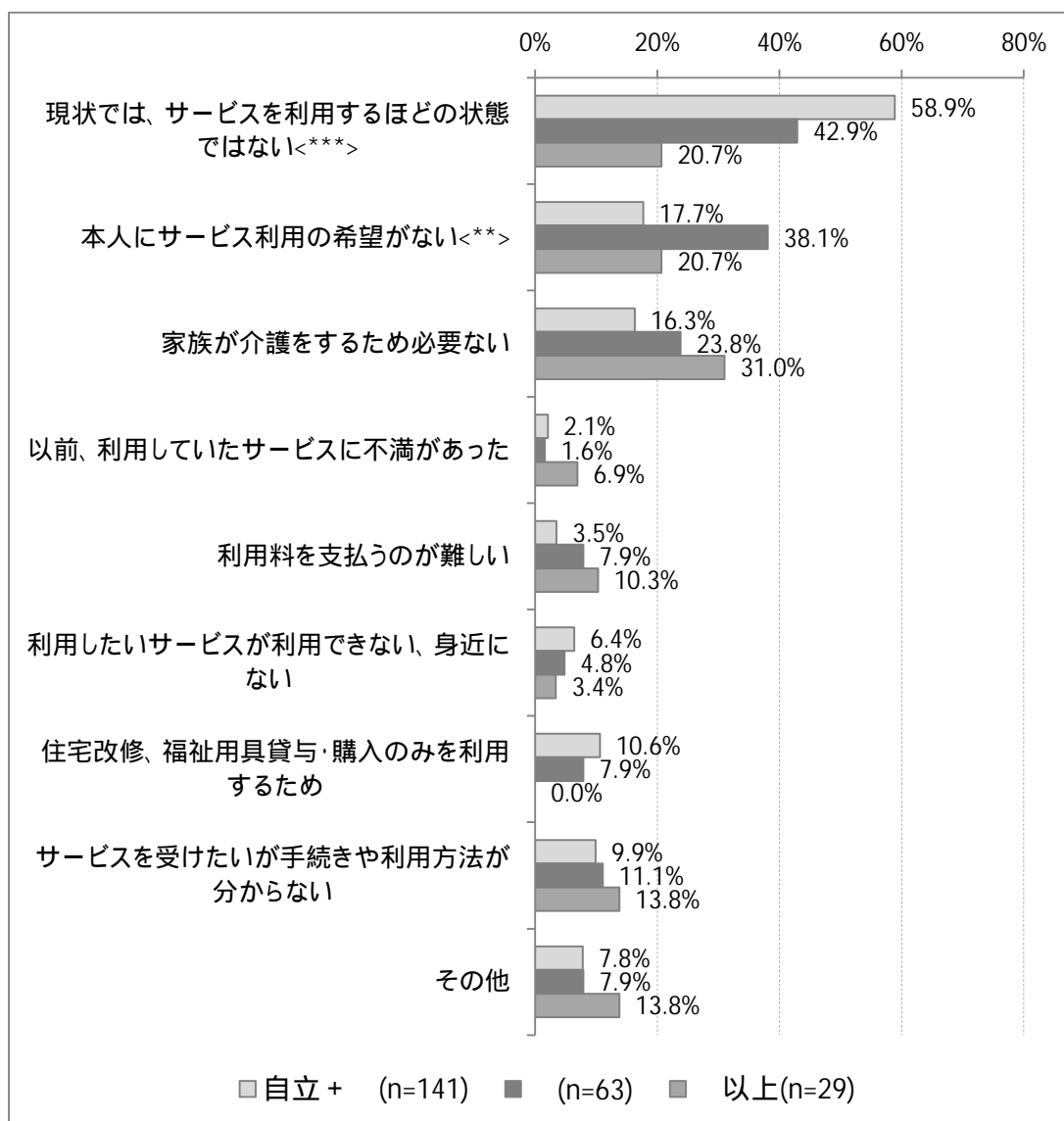


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が58.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が17.7%、「家族が介護をするため必要ない」が16.3%となっている。「」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が38.1%、「家族が介護をするため必要ない」が23.8%となっている。「以上」では「家族が介護をするため必要ない」が31.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が13.8%となっている。

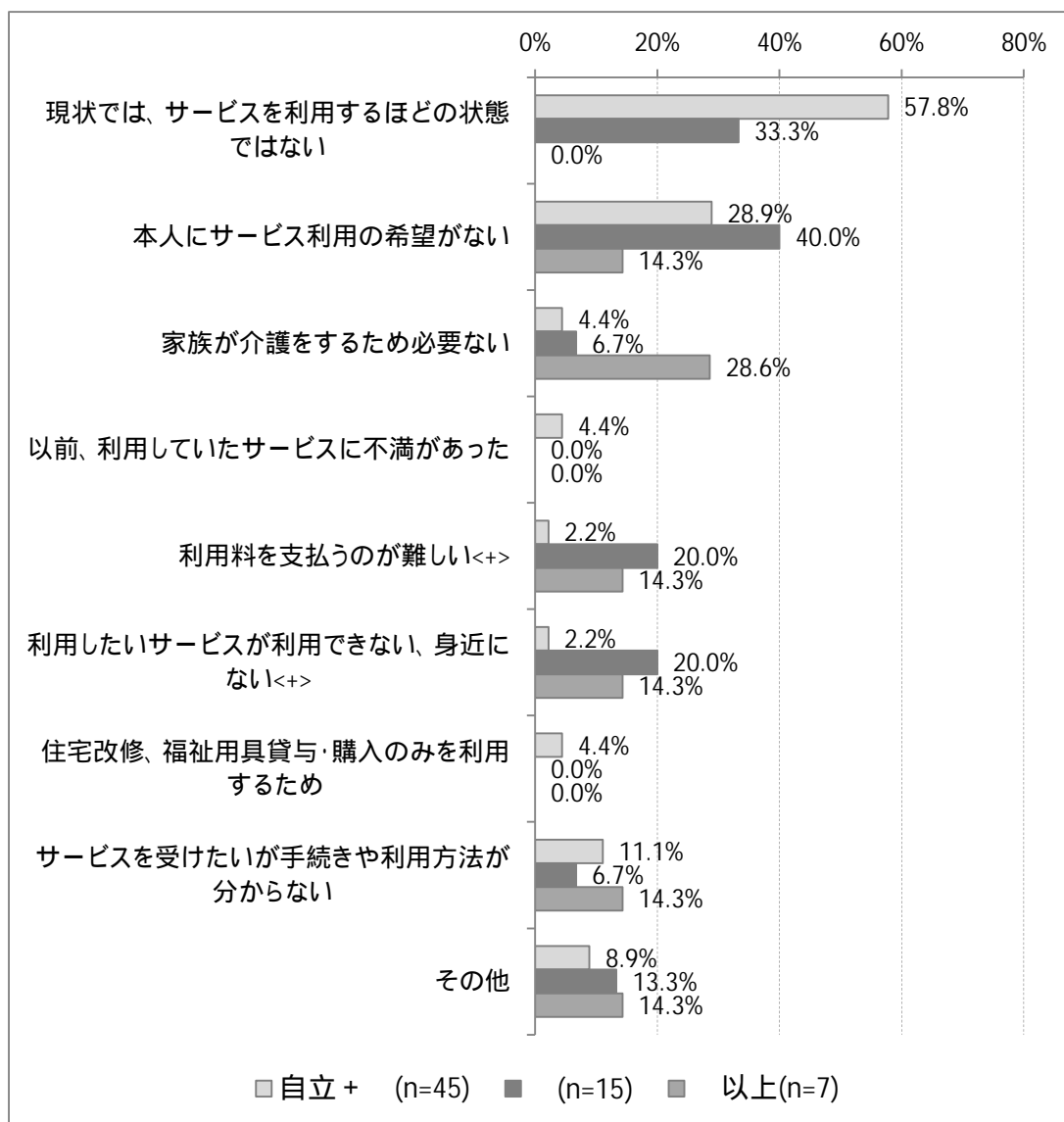
図表 6-5 認知症自立度別の サービス未利用の理由



【認知症自立度別の サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.8%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が28.9%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が11.1%となっている。「」では「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が33.3%、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が20.0%となっている。「以上」では「家族が介護をするため必要ない」が28.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が14.3%となっている。

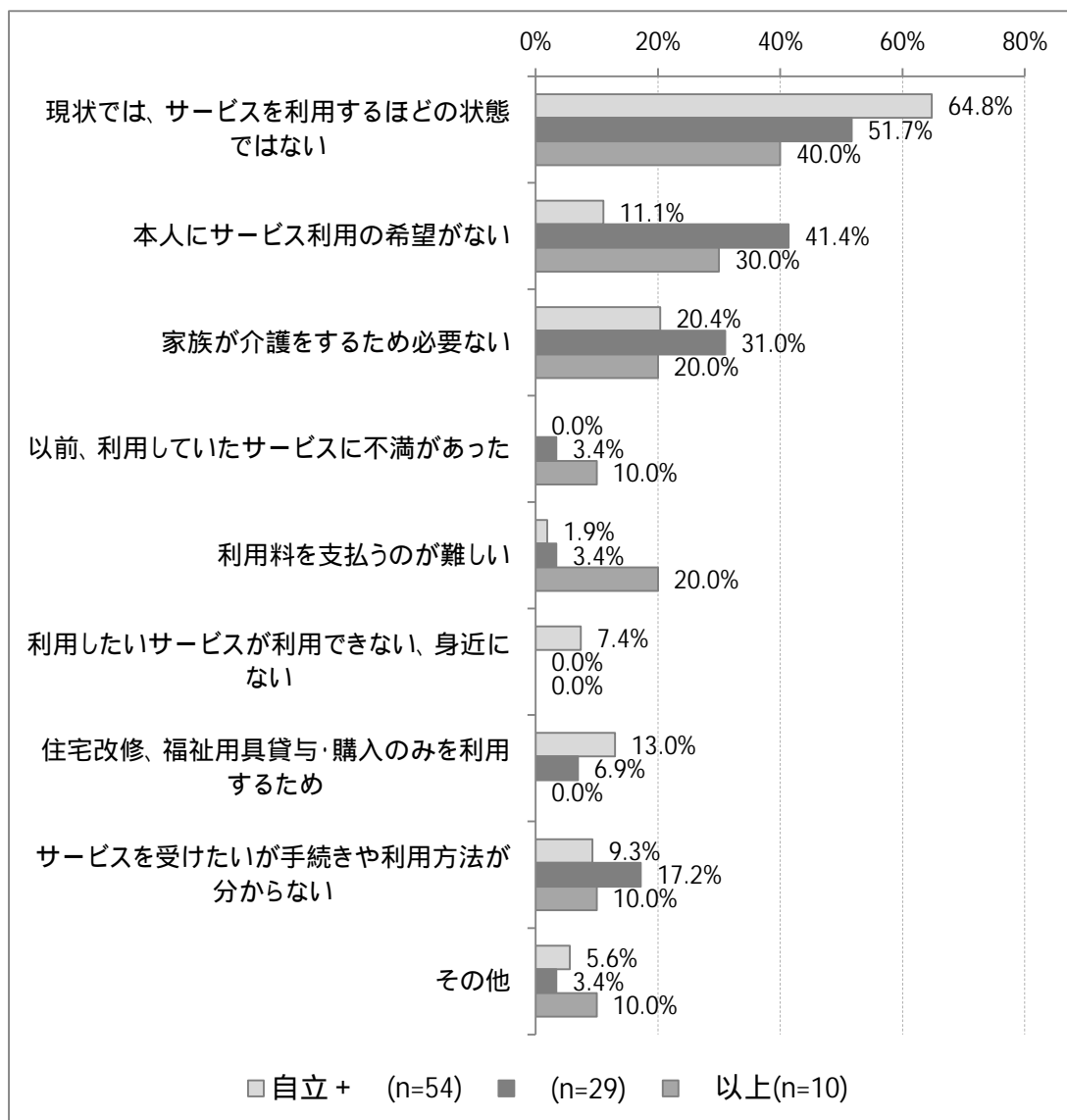
図表 6-6 認知症自立度別の サービス未利用の理由 (単身世帯)



【認知症自立度別の サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.8%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が20.4%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が13.0%となっている。「」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が41.4%、「家族が介護をするため必要ない」が31.0%となっている。「以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が30.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が20.0%となっている。

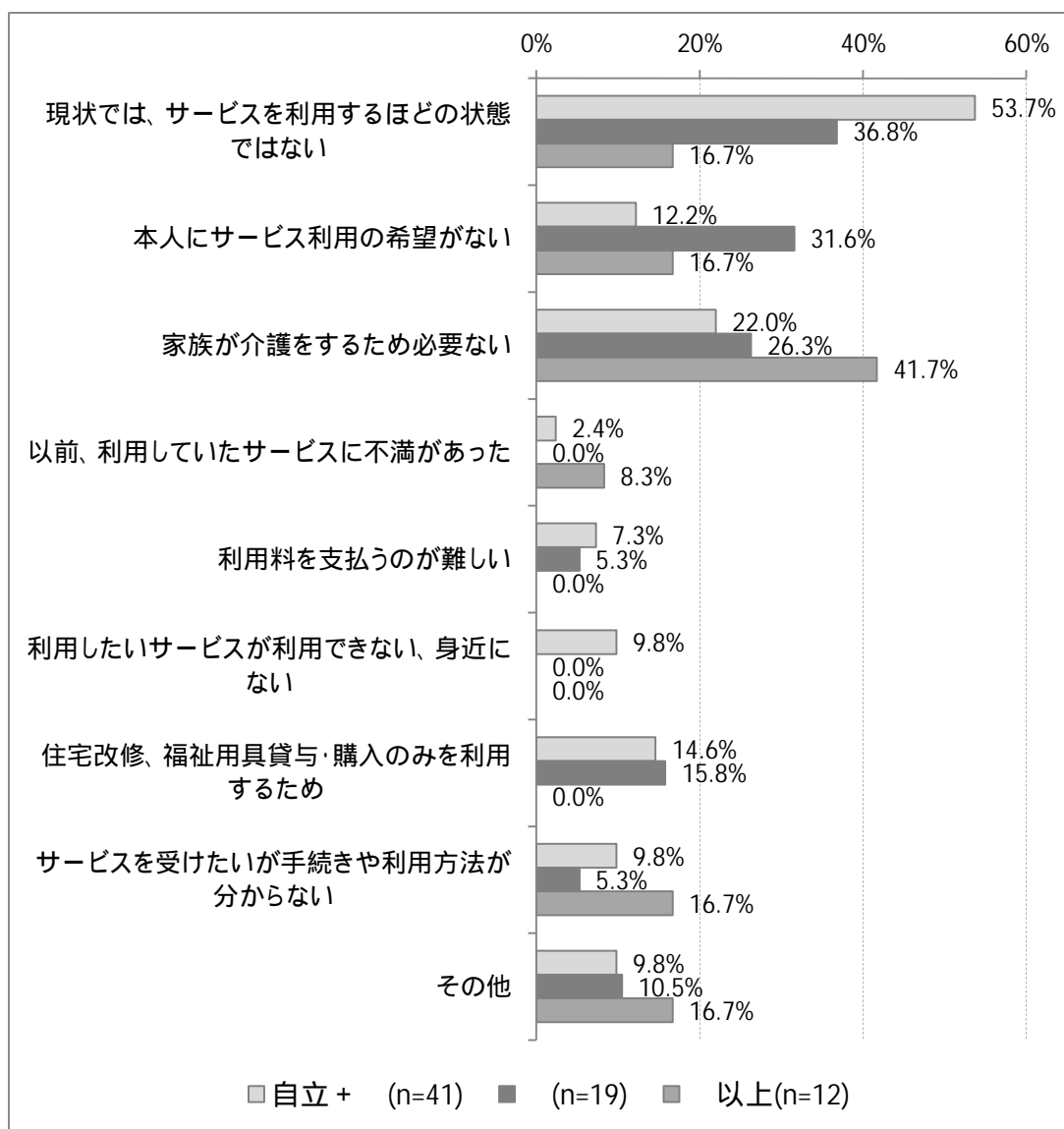
図表 6-7 認知症自立度別の サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が53.7%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が22.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が14.6%となっている。「」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が36.8%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が31.6%、「家族が介護をするため必要ない」が26.3%となっている。「以上」では「家族が介護をするため必要ない」が41.7%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が16.7%、「以前、利用していたサービスに不満があった」が8.3%となっている。

図表 6-8 認知症自立度別の サービス未利用の理由（その他世帯）

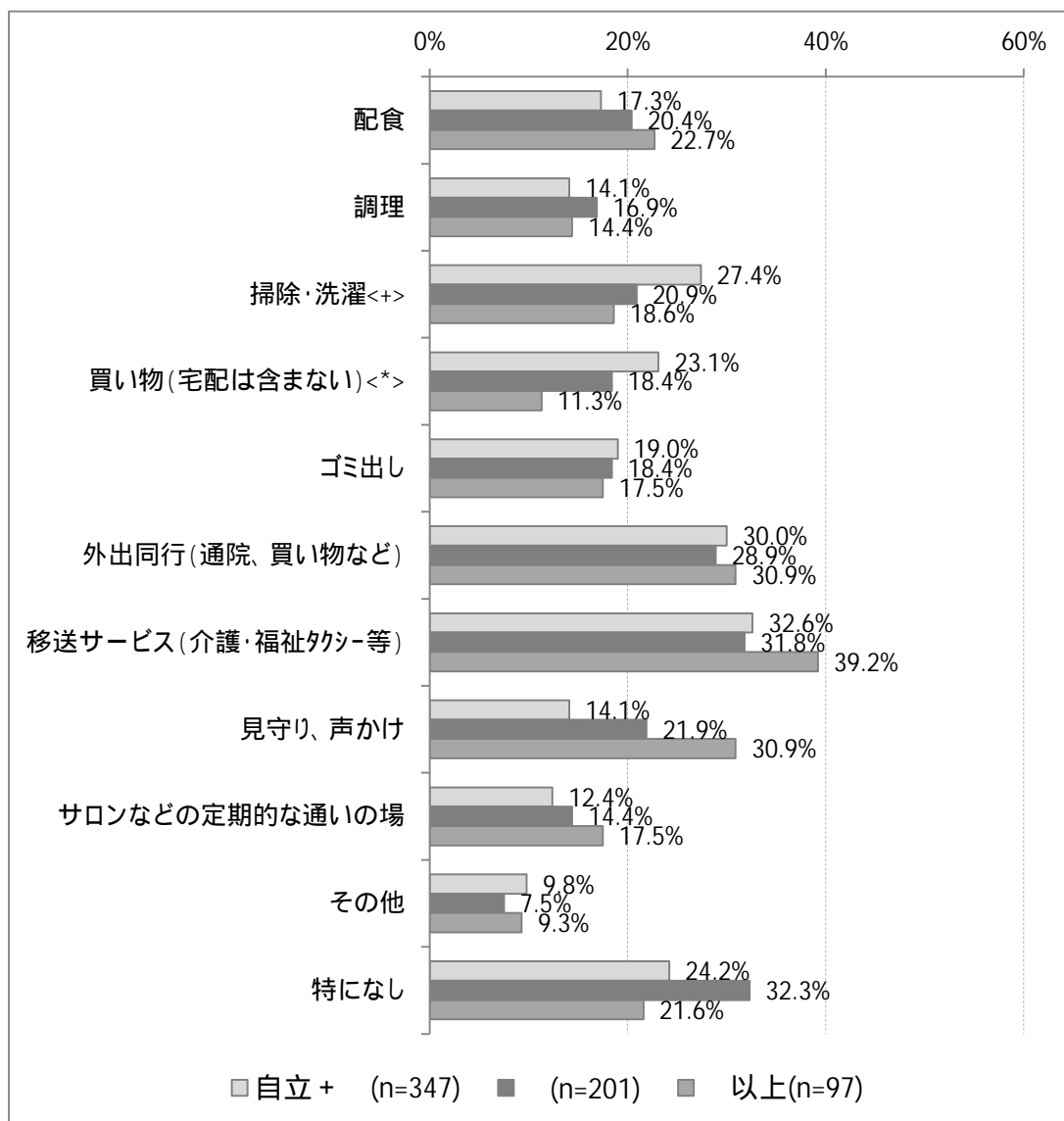


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

【認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院，買い物など）」が30.0%，「掃除・洗濯」が27.4%となっている。「」では「特になし」が32.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.8%，「外出同行（通院，買い物など）」が28.9%となっている。「以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が39.2%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院，買い物など）」，「見守り，声かけ」が30.9%，「配食」が22.7%となっている。

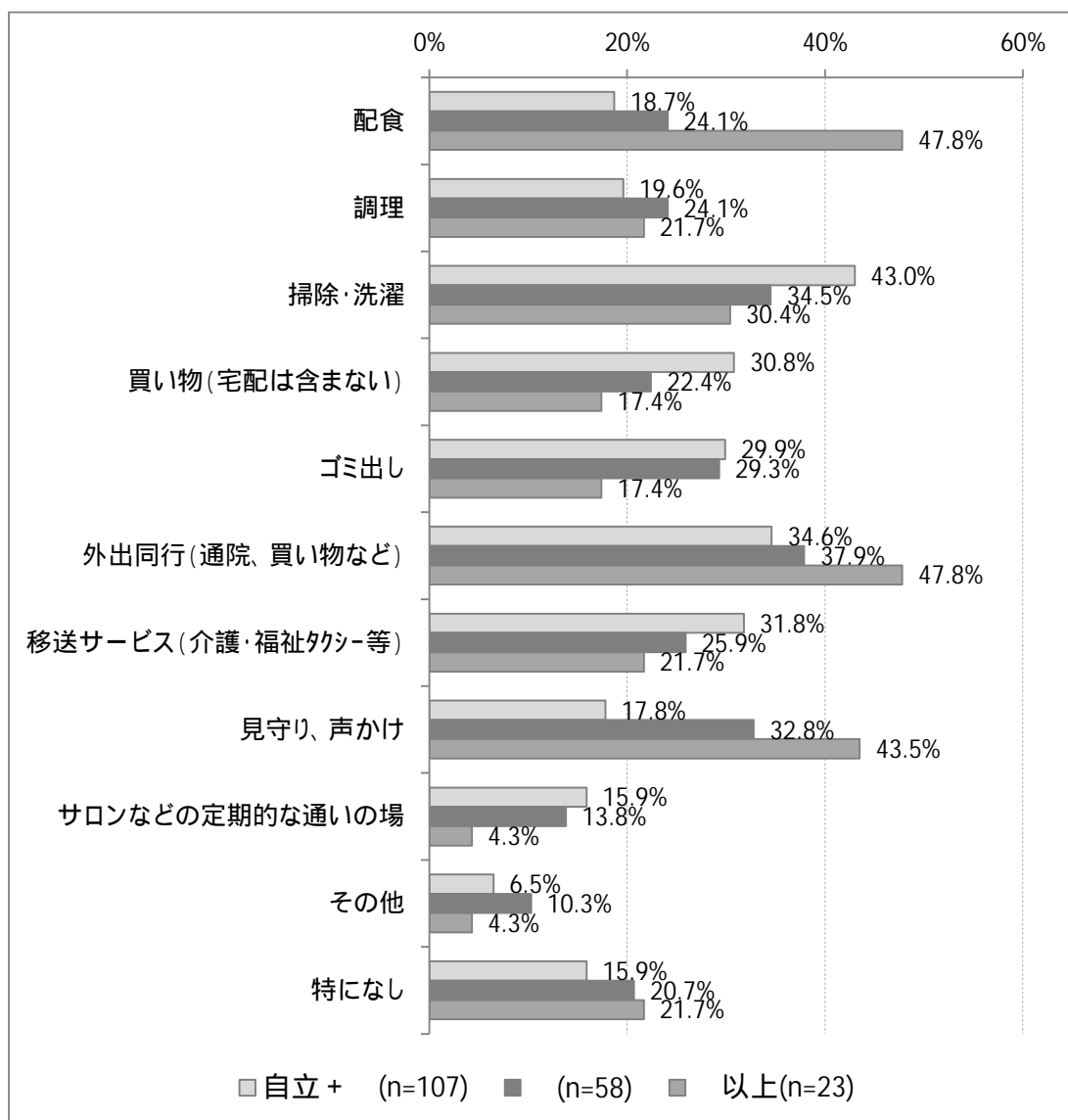
図表 6-9 認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



【認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「掃除・洗濯」が43.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が34.6%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.8%となっている。「」では「外出同行(通院, 買い物など)」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が34.5%、「見守り, 声かけ」が32.8%となっている。「以上」では「配食」, 「外出同行(通院, 買い物など)」が47.8%ともっとも割合が高く、次いで「見守り, 声かけ」が43.5%、「掃除・洗濯」が30.4%となっている。

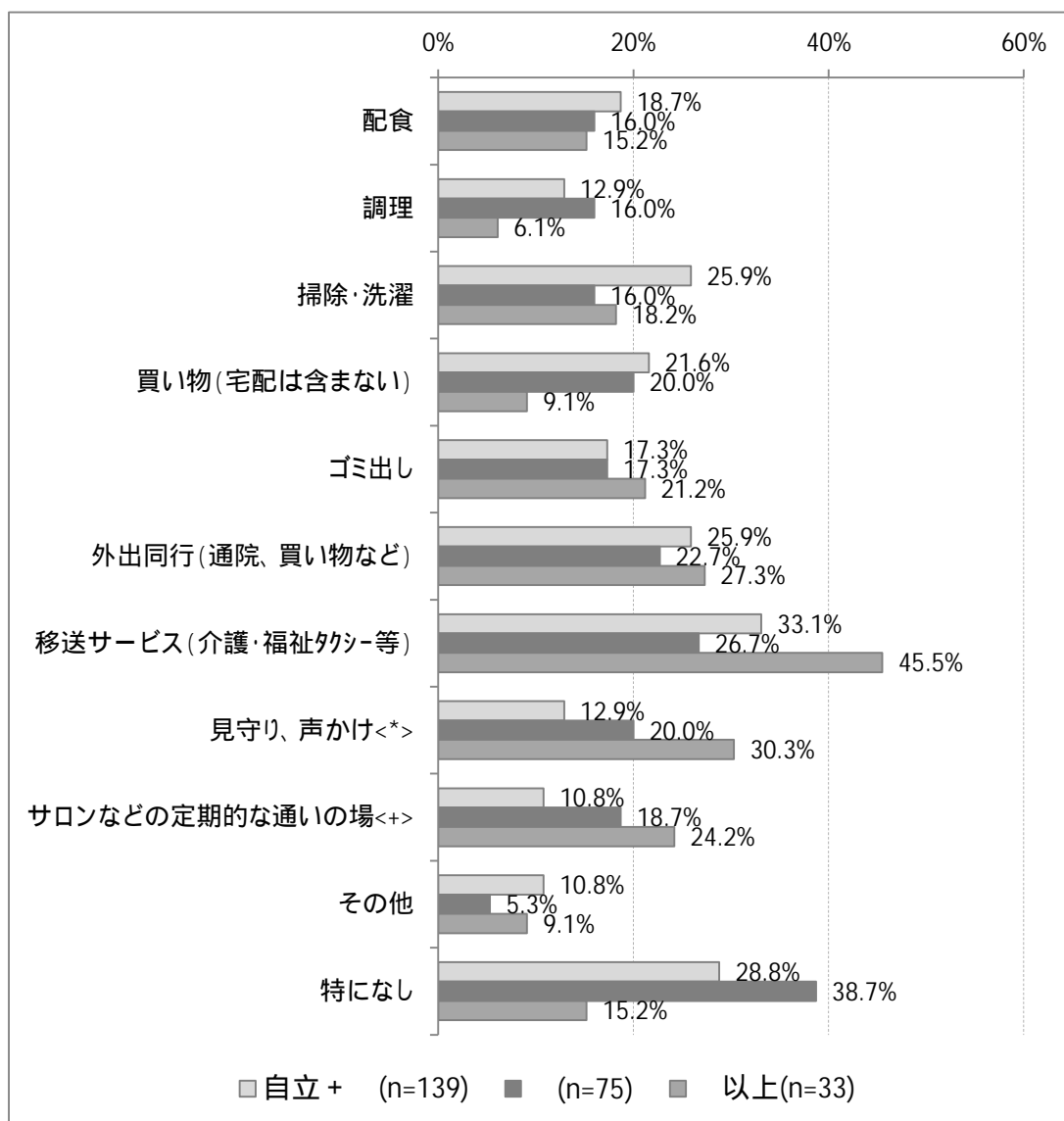
図表 6-10 認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が33.1%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が28.8%、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院, 買い物など)」が25.9%となっている。「」では「特になし」が38.7%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.7%、「外出同行(通院, 買い物など)」が22.7%となっている。「以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「見守り, 声かけ」が30.3%、「外出同行(通院, 買い物など)」が27.3%となっている。

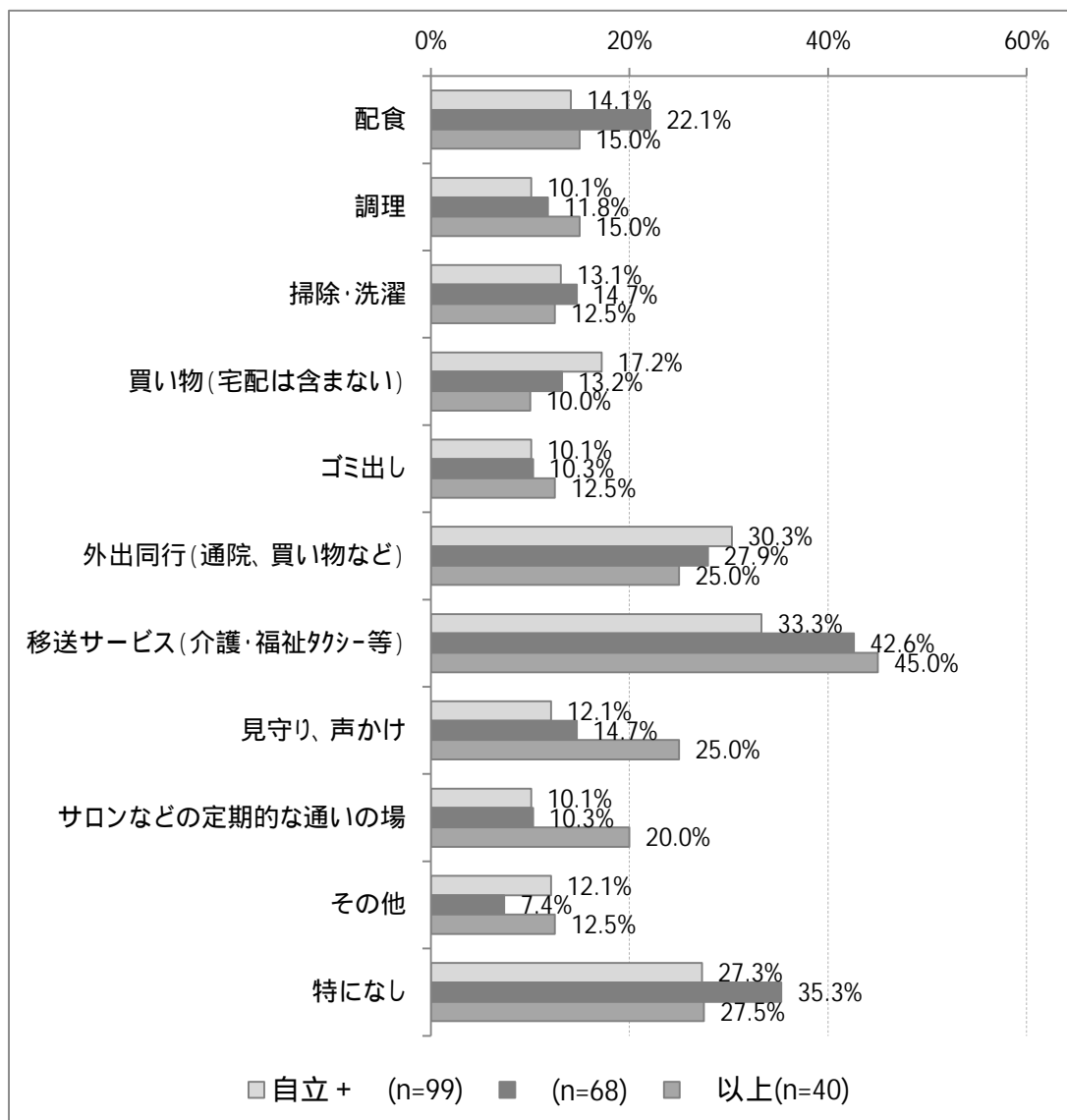
図表 6-11 認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院, 買い物など)」が30.3%, 「特になし」が27.3%となっている。「」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が35.3%, 「外出同行(通院, 買い物など)」が27.9%となっている。「以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が45.0%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が27.5%, 「外出同行(通院, 買い物など)」, 「見守り, 声かけ」が25.0%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)

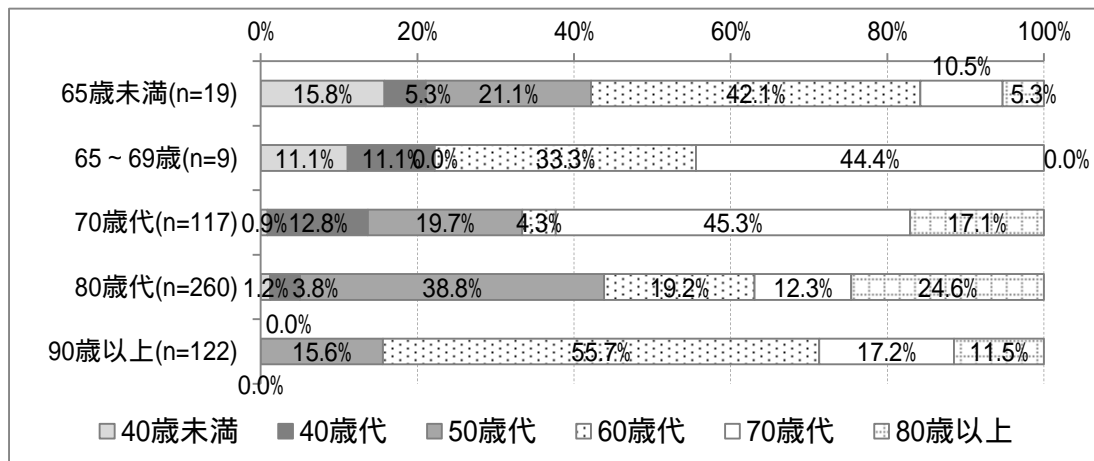


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が42.1%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が21.1%、「40歳未満」が15.8%となっている。「65～69歳」では「70歳代」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が33.3%、「40歳未満」,「40歳代」が11.1%となっている。「70歳代」では「70歳代」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が19.7%、「80歳以上」が17.1%となっている。「80歳代」では「50歳代」が38.8%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が24.6%、「60歳代」が19.2%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が55.7%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が17.2%、「50歳代」が15.6%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

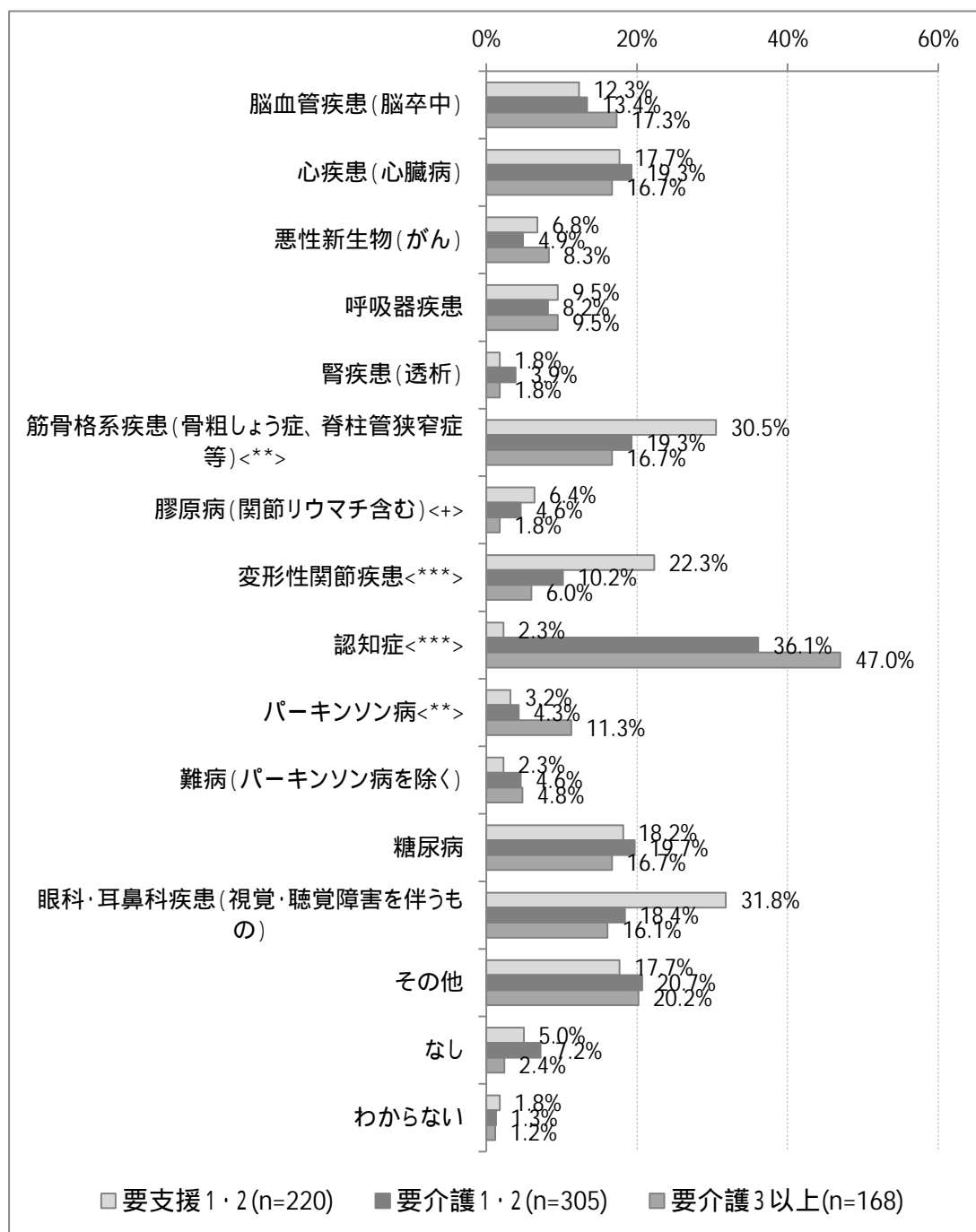


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が31.8%ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）」が30.5%、「変形性関節疾患」が22.3%となっている。「要介護1・2」では「認知症」が36.1%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が20.7%、「糖尿病」が19.7%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が47.0%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が20.2%、「脳血管疾患（脳卒中）」が17.3%となっている。

図表 6-14 要介護度別・抱えている傷病

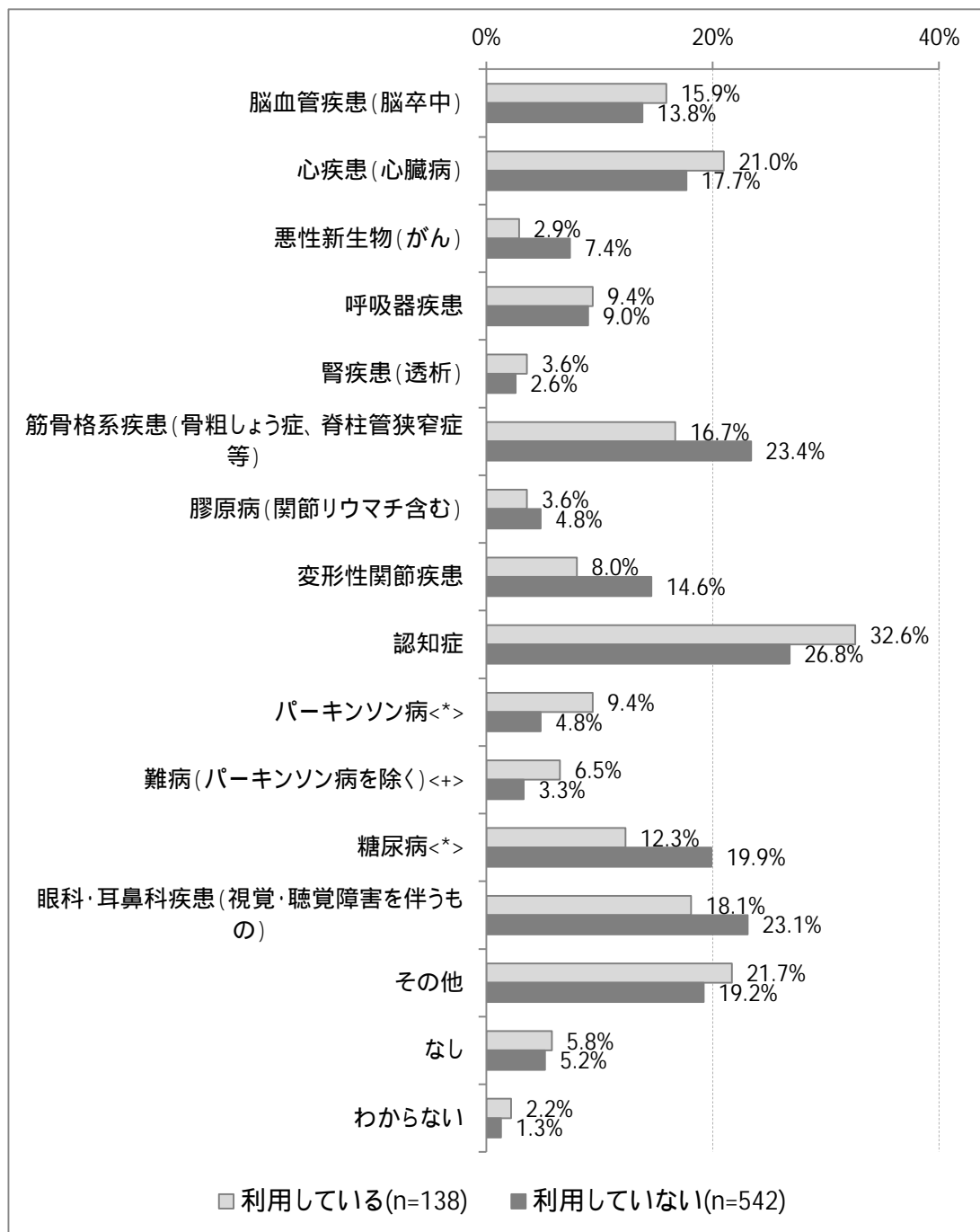


(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

[訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病]

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「認知症」が32.6%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が21.7%、「心疾患（心臓病）」が21.0%となっている。「利用していない」では「認知症」が26.8%ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）」が23.4%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が23.1%となっている。

図表 6-15 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



調査結果の概要

1 検討テーマと集計・分析の狙い

要介護者の在宅生活の継続 / 介護者の就労継続

基本的な視点	検討テーマ	集計・分析の狙い
要介護者の在宅生活の継続	1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問10_施設等の検討状況」の「入所・入居は検討していない」の割合と、「B票-問5_介護者が不安になる介護」を指標としながら、サービス利用のパターンとの関係性を分析し、在宅限界点の向上を図るために必要となる取組について検討するための基礎集計です。
介護者の就労継続	2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「B票-問1_介護者の就労状況」と「B票-問4_介護者の就労継続の可否に係る意識」を指標としながら、介護状況やサービス利用のパターンとの関係性を分析し、介護者の就労継続のために必要となる取組について検討するための基礎集計です。

支援・サービスの提供体制の検討

検討テーマ	集計・分析の狙い
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	○ 主に「A票-問9_今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、世帯類型別・要介護度別のニーズを集計・分析し、整備が必要となる地域資源を検討するための基礎集計です。
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問1_世帯類型」について、世帯類型別のサービス利用のパターンを集計・分析し、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制について検討するための基礎集計です。
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問12_訪問診療の利用の有無」について、訪問診療の利用の有無別のサービス利用のパターンを集計・分析し、医療ニーズのある在宅療養者を支えるための支援・サービスの提供体制について検討するための基礎集計です。
6 サービス未利用の理由など	○ 上記以外の、地域での検討に有用と考えられる事項について検討するための基礎集計です。

2 まとめ

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

<施設等に「申請済み」の割合は、要介護3以上で2割弱、「検討中」をあわせると約4割>

施設等への入所・入居の検討状況について、要介護3以上では「検討していない」が54.8%、「検討中」が25.9%、「申請済み」が19.3%となっており、現時点では約5割のかたが在宅生活の継続を希望していると推察されます。また、要介護3以上の「申請済み」の割合は前回調査時（令和元年12月）の7.4%から大幅に増加しています。

<主な介護者が不安を感じる介護は、要介護3以上では「排泄」と「認知症状への対応」>

主な介護者の方が不安を感じる介護について、要介護3以上では特に「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」が多く、いずれも3割以上の方が不安を感じています。これらに係る介護不安をいかに軽減していくかが、在宅生活継続のポイントになると考えられます。

サービス利用回数と介護者が不安を感じる介護の関係をみると、要介護3以上では訪問系サービス15回以上の利用で「日中の排泄」、短期系サービス10回以上の利用で「日中の排泄」「認知症状への対応」の不安が軽減する傾向がみられました。また、認知症自立度 以上では、訪問系と短期系サービスの利用回数増加が介護者の「認知症状への対応」に係る不安を軽減する傾向がみられました。

(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

介護保険サービスの利用状況をみると、「利用している」はフルタイム勤務が64.8%、パートタイム勤務が81.7%、働いていない介護者は70.7%となっています。

<就労している介護者は、「訪問系を含む組み合わせ」の利用がやや高い>

利用している介護保険サービスの組み合わせをみると、「訪問系を含む組み合わせ」はフルタイム勤務が23.8%、パートタイム勤務が26.9%と、働いていない介護者に比べて多くなっています。

<就業継続可能と考える介護者は、職場において働き方の調整を「特に行っていない」割合が高い>

介護のための働き方の調整について、就労継続見込み別にみると、「問題なく、続けていける」と回答した人では、調整を「特に行っていない」が約6割と多くなっています。「続けていくのは難しい」と回答した人は、「労働時間の調整」「休暇の取得」などを行っている人が多いですが、「特に行っていない」という人も約2割みられます。

勤め先からの効果的な支援について、「問題はあるが、何とか続けていける」という人では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が多くなっています。「続けていくのは難しい」と回答した人からは「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」などが求められています。

< 仕事と介護の両立に向けて >

これらのことから、訪問系サービスを含む組み合わせサービスの利用と、職場での労働時間の調整・柔軟な選択、経済的な支援や介護休業・介護休暇等の制度の充実、またそれらの制度等を気兼ねなく行うことのできる職場づくりにより、介護をしながらフルタイムで就労できる可能性が高まると考えられます。

(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

< 世帯類型によらず外出同行のニーズが高い傾向 >

保険外サービスの利用状況を見ると、単身世帯では「掃除・洗濯」「配食」「買い物」の利用割合が多くなっています。夫婦のみ世帯、その他世帯では利用していない割合が最も多く5割を超えていますが、「移送サービス」などを利用している人もみられます。

在宅生活の継続に必要なサービスをみると、「移送サービス」「外出同行」「掃除・洗濯」のニーズが高くなっています。世帯類型ごとの特徴としては、いずれの世帯類型でも外出同行が多いのに加えて、単身世帯では掃除・洗濯、夫婦のみ世帯とその他世帯では移送サービスを必要とする人が多くなっています。地域資源の整備を検討するにあたっては、世帯類型に応じた支援・サービスの拡充が必要と考えられます。

(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

< 要介護度の重度化に伴いすべての世帯類型で「訪問系を含む組み合わせ」が増加 >

要介護度の重度化に伴い、すべての世帯類型で「訪問系を含む組み合わせ」が増加する傾向がみられます。また、単身世帯では他の世帯類型に比べて訪問系サービスの利用割合が多く、夫婦のみ世帯、その他世帯では、通所系・短期系サービスの利用者が多くなっています。

< 要介護3以上において、「入所・入居の可能性がある」割合は「単身世帯」で63.6%、「夫婦のみ世帯」36.5%、「その他世帯」44.1% >

施設等検討の状況について、「検討中」「申請済み」を合わせた入所・入居の可能性がある人は、要介護3以上の単身世帯で63.6%、夫婦のみ世帯で36.5%、その他世帯で44.1%となっています。いずれの世帯でも要介護度の重度化に伴い、入所・入居の可能性がある人の割合が増加しています。

(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

< 「訪問診療」の利用割合は要介護5で61.1%と高い >

要介護度別の訪問診療の利用割合を見ると、要介護度の重度化に伴い訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられます。具体的には、要支援1では5.2%である訪問診療の利用割合が、要介護1では17.5%、要介護3では37.0%、要介護5では61.1%となっています。重度な要介護者における在宅医療の重要性が示唆されます。

< 「訪問診療を利用している」ケースでは、短期系の利用割合が低い >

「訪問診療あり」では、訪問系の利用割合が 75.4%と多く、一方で、短期系の利用割合は 18.0%と少なくなっています。

(6) サービス未利用の理由など

要介護度別のサービス未利用の理由をみると、要支援 1・2 と要介護 1・2 では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多く、それぞれ 63.6%、46.6%でした。要介護 3 以上では、「家族が介護をするため必要ない」が 34.2%と最も多くなっています。前回調査では「本人にサービス利用の希望がない」が 33.3%で最も多かったのに対し、今回は 15.8%と大幅に少なくなっているという特徴がみられます。

本人の年齢で最も人数が多かった 80 歳代(260 人)をみると、主な介護者の年齢は 50 歳代が 38.8%と最も多く、次いで 80 歳以上が 24.6%となっています。また、70 歳代 12.3%と 80 歳以上を合わせると 4 割弱を占めており、本市においても老老介護の状況がみられます。必要に応じてサービス利用を促し、介護者の負担を減らしていくことが重要と考えられます。

柏市在宅介護実態調査へのご協力をお願い

日頃から、市政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

柏市では、『柏市高齢者いきいきプラン21』の策定に向けて、柏市にお住まいの要介護認定を受けている方々を対象にアンケート調査を実施することとなりました。

本調査は、柏市において「高齢者が安心して自宅での生活を続けること」と「家族など介護者の方が仕事を続けること」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的として実施させていただきます。

つきましては、お忙しい中大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年11月

柏市長 太田 和美

本調査票記入後は、調査票を三つ折りにして同封の返送用封筒に入れ、
令和4年12月23日(金)までに投函してください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

柏市役所 保健福祉部 高齢者支援課 計画調整担当：三浦，増田

電話 04-7168-1996

記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、表紙の宛名ラベルに記載されている方です。
2. ご回答にあたっては調査の対象者についてお答えいただきますが、ご家族の方などがご本人の意向を確認しながら回答されても結構です。

記入例

ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を
で囲んでください。

① はい 2. いいえ

本調査に係る要介護認定データ等個人情報の取扱いについて

本調査票のご返送をもちまして、下記「個人情報の保護及び活用目的」にご同意いただいた
ものと見なさせていただきます。

同意されない方は、ご返送いただかなくて結構です。

その場合に、ご本人に不利益が生じることはございません。

個人情報の保護及び活用目的

この調査は記名式で実施し、ご本人の性別や年齢、お住まいの地域などを明確にした上で、
地域における課題や効果的な介護予防施策等の立案と効果評価のために行うものです。本
調査で得られた情報につきましては、柏市が保有する要介護認定データ（認定調査、介護
認定審査会のデータ）と突合し、『柏市高齢者いきいきプラン21』策定の検討の際の基
礎資料としてのみ活用させていただきます。また、当該情報については、柏市個人情報保
護条例に基づき、市で適切に管理いたします。



数字に○をしてください

A票：ご本人について

現在、この調査票にご回答をいただいているのは、どなたですか。(いくつでも)

1. 調査の対象者
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. その他

問1 世帯類型について、ご回答ください。(1つだけ)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(1つだけ○)

1. ない 問8へ
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問3 問2で「2」～「5」のいずれかを選択したかたにお伺いします。
主な介護者の方は、どなたですか。(1つだけ)

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

問4 問2で「2」～「5」のいずれかを選択したかたにお伺いします。
主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つだけ)

1. 男性
2. 女性
3. 回答しない

問5 問2で「2」～「5」のいずれかを選択したかたにお伺いします。
主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つだけ)

1. 20歳未満
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代
6. 60歳代
7. 70歳代
8. 80歳以上
9. わからない

問6

問2で「2」～「5」のいずれかを選択したかたにお伺いします。
現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも)

【身体介護】

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い, 送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養, ストーマ 等) | |

【生活援助】

- 12. 食事の準備(調理等)
- 13. その他の家事(掃除, 洗濯, 買い物等)
- 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

【その他】

- 15. その他
- 16. わからない

問7

問2で「2」～「5」のいずれかを選択したかたにお伺いします。
ご家族やご親族の中で、ご本人(調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。また、自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます)。(いくつでも)

- 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
- 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
- 3. 主な介護者が転職した
- 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
- 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
- 6. わからない

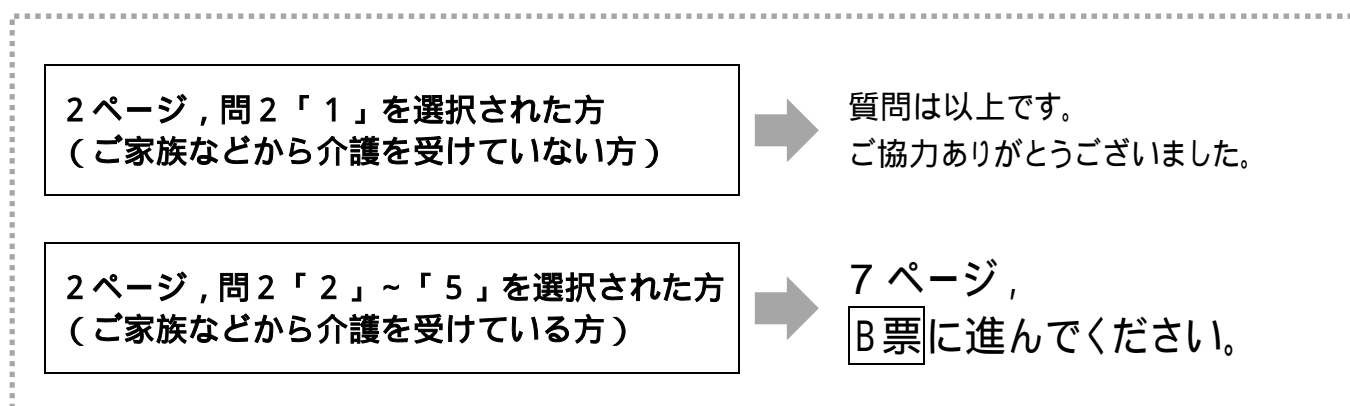
問8からは再び、全員が回答してください。

問8	<p>現在、利用している、「介護保険サービス（総合事業含む）以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。（いくつでも）</p>
	<p>1. 配食 2. 調理 3. 掃除・洗濯 4. 買い物（宅配は含まない） 5. ゴミ出し 6. 外出同行（通院・買い物など） 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） 8. 見守り，声かけ 9. サロンなどの定期的な通いの場 10. その他 11. 利用していない</p>
問9	<p>今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（いくつでも） 介護保険サービス，介護保険以外の支援・サービスともに含みます。</p>
	<p>1. 配食 2. 調理 3. 掃除・洗濯 4. 買い物（宅配は含まない） 5. ゴミ出し 6. 外出同行（通院・買い物など） 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） 8. 見守り，声かけ 9. サロンなどの定期的な通いの場 10. その他 11. 特になし</p>
問10	<p>現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つだけ） 「施設等」とは、特別養護老人ホーム，老人保健施設，介護療養型医療施設，介護医療院，特定施設（有料老人ホーム等），グループホーム，地域密着型特定施設，地域密着型特別養護老人ホームを指します。</p>
	<p>1. 入所・入居は検討していない 2. 入所・入居を検討している 3. すでに入所・入居申し込みをしている</p>

問 11	<p>ご本人（調査対象者）が，現在抱えている傷病について，ご回答ください。 （いくつでも）</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>1. <small>のうけっかんしっかん</small> <small>のうそちゅう</small> 脳血管疾患（脳卒中）</td> <td>2. <small>しんしっかん</small> <small>しんぞうびょう</small> 心疾患（心臓病）</td> </tr> <tr> <td>3. <small>あくせいしんせいぶつ</small> 悪性新生物（がん）</td> <td>4. <small>こきゅうきしっかん</small> 呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>5. <small>じんしっかん</small> <small>とうせき</small> 腎疾患（透析）</td> <td>6. <small>きんこっかくけいしっかん</small> 筋骨格系疾患 (<small>こつそ</small> <small>しょう</small> <small>せきちゅうかんきょうさくしょう</small>など 骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等)</td> </tr> <tr> <td>7. <small>こうげんびょう</small> <small>かんせつ</small> <small>ふく</small> 膠原病（関節リウマチ含む）</td> <td>8. <small>へんけいせいかんせつしっかん</small> 変形性関節疾患</td> </tr> <tr> <td>9. <small>にんちしょう</small> 認知症</td> <td>10. <small>ぱーきんそん</small> <small>びょう</small> パーキンソン病</td> </tr> <tr> <td>11. <small>なんびょう</small> <small>びょう</small> <small>のぞ</small> 難病（パーキンソン病を除く）</td> <td>12. <small>とうようびょう</small> 糖尿病</td> </tr> <tr> <td>13. <small>がんか</small> <small>じび</small> <small>か</small> <small>しっかん</small> 眼科・耳鼻科疾患 (<small>しかく</small> <small>ちようかくしょうがい</small> <small>ともな</small> 視覚・聴覚障害を伴うもの)</td> <td>14. <small>た</small> その他</td> </tr> <tr> <td>15. なし</td> <td>16. わからない</td> </tr> </table>	1. <small>のうけっかんしっかん</small> <small>のうそちゅう</small> 脳血管疾患（脳卒中）	2. <small>しんしっかん</small> <small>しんぞうびょう</small> 心疾患（心臓病）	3. <small>あくせいしんせいぶつ</small> 悪性新生物（がん）	4. <small>こきゅうきしっかん</small> 呼吸器疾患	5. <small>じんしっかん</small> <small>とうせき</small> 腎疾患（透析）	6. <small>きんこっかくけいしっかん</small> 筋骨格系疾患 (<small>こつそ</small> <small>しょう</small> <small>せきちゅうかんきょうさくしょう</small> など 骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等)	7. <small>こうげんびょう</small> <small>かんせつ</small> <small>ふく</small> 膠原病（関節リウマチ含む）	8. <small>へんけいせいかんせつしっかん</small> 変形性関節疾患	9. <small>にんちしょう</small> 認知症	10. <small>ぱーきんそん</small> <small>びょう</small> パーキンソン病	11. <small>なんびょう</small> <small>びょう</small> <small>のぞ</small> 難病（パーキンソン病を除く）	12. <small>とうようびょう</small> 糖尿病	13. <small>がんか</small> <small>じび</small> <small>か</small> <small>しっかん</small> 眼科・耳鼻科疾患 (<small>しかく</small> <small>ちようかくしょうがい</small> <small>ともな</small> 視覚・聴覚障害を伴うもの)	14. <small>た</small> その他	15. なし	16. わからない
1. <small>のうけっかんしっかん</small> <small>のうそちゅう</small> 脳血管疾患（脳卒中）	2. <small>しんしっかん</small> <small>しんぞうびょう</small> 心疾患（心臓病）																
3. <small>あくせいしんせいぶつ</small> 悪性新生物（がん）	4. <small>こきゅうきしっかん</small> 呼吸器疾患																
5. <small>じんしっかん</small> <small>とうせき</small> 腎疾患（透析）	6. <small>きんこっかくけいしっかん</small> 筋骨格系疾患 (<small>こつそ</small> <small>しょう</small> <small>せきちゅうかんきょうさくしょう</small> など 骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等)																
7. <small>こうげんびょう</small> <small>かんせつ</small> <small>ふく</small> 膠原病（関節リウマチ含む）	8. <small>へんけいせいかんせつしっかん</small> 変形性関節疾患																
9. <small>にんちしょう</small> 認知症	10. <small>ぱーきんそん</small> <small>びょう</small> パーキンソン病																
11. <small>なんびょう</small> <small>びょう</small> <small>のぞ</small> 難病（パーキンソン病を除く）	12. <small>とうようびょう</small> 糖尿病																
13. <small>がんか</small> <small>じび</small> <small>か</small> <small>しっかん</small> 眼科・耳鼻科疾患 (<small>しかく</small> <small>ちようかくしょうがい</small> <small>ともな</small> 視覚・聴覚障害を伴うもの)	14. <small>た</small> その他																
15. なし	16. わからない																
問 12	<p>ご本人（調査対象者）は，現在，訪問診療を利用していますか。（1つだけ） 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>1. 利用している</td> <td>2. 利用していない</td> </tr> </table>	1. 利用している	2. 利用していない														
1. 利用している	2. 利用していない																
問 13	<p>現在，（住宅改修，福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。 （1つだけ）</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>1. 利用している</td> <td>2. 利用していない</td> </tr> </table>	1. 利用している	2. 利用していない														
1. 利用している	2. 利用していない																

問 14	問 13 で「 2 」を選択したかたにお伺いします。 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(いくつでも)																																						
	<p>1 . 現状では , サービスを利用するほどの状態ではない</p> <p>2 . 本人にサービス利用の希望がない</p> <p>3 . 家族が介護をするため必要ない</p> <p>4 . 以前 , 利用していたサービスに不満があった</p> <p>5 . 利用料を支払うのが難しい</p> <p>6 . 利用したいサービスが利用できない , 身近にない</p> <p>7 . 住宅改修 , 福祉用具貸与・購入のみを利用するため</p> <p>8 . サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない</p> <p>9 . その他</p>																																						
問 15	ご本人 (調査対象者) は , 現在どの程度幸せですか。 (「とても幸せ」を 10 点 , 「とても不幸」を 0 点としてご回答ください)																																						
	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="10">とても幸せ</td> <td colspan="2">とても不幸</td> </tr> <tr> <td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td> <td>点</td><td>点</td> </tr> </table>	とても幸せ										とても不幸		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0			点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
とても幸せ										とても不幸																													
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0																													
点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点																											
問 16	ご本人 (調査対象者) は , 全体として現在の生活にどの程度満足していますか。 (「非常に満足している」を 10 点 , 「全く満足していない」を 0 点としてご回答ください)																																						
	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="10">非常に満足している</td> <td colspan="2">全く満足していない</td> </tr> <tr> <td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td><td>点</td> <td>点</td><td>点</td> </tr> </table>	非常に満足している										全く満足していない		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0			点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
非常に満足している										全く満足していない																													
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0																													
点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点																											

ここからは , 以下の指示に従って進んでください。



B 票：主な介護者の方について



数字に○をしてください

問 1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1 つだけ)

- 1 . フルタイムで働いている
- 2 . パートタイムで働いている
- 3 . 働いていない
- 4 . 主な介護者に確認しないと、わからない

9 ページ,
問 5 に進んでください。

「パートタイム」とは、「1 週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問 2 問 1 で「1」「2」と回答したかたにお伺いします。
主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
(いくつでも)

- 1 . 特に行っていない
- 2 . 介護のために、「労働時間を調整(残業免除, 短時間勤務, 遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
- 3 . 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
- 4 . 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 5 . 介護のために、2 ~ 4 以外の調整をしながら、働いている
- 6 . 主な介護者に確認しないと、わからない

問3	<p>問1で「1」「2」と回答したかたにお伺いします。 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで)</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 3. 制度を利用しやすい職場づくり 4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など) 5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど) 6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 8. 介護をしている従業員への経済的な支援 9. その他 10. 特にない 11. 主な介護者に確認しないと、わからない
問4	<p>問1で「1」「2」と回答したかたにお伺いします。 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つだけ)</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題なく、続けていける 2. 問題はあるが、何とか続けていける 3. 続けていくのは、やや難しい 4. 続けていくのは、かなり難しい 5. 主な介護者に確認しないと、わからない

問5は、再び全員が回答してください。

問5

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（3つまで）

【身体介護】

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助（食べる時） | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等） | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い，送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応（経管栄養，ストーマ 等） | |

【生活援助】

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備（調理等） | 13. その他の家事（掃除，洗濯，買い物等） |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

【その他】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは，特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと，わからない | |

第9期柏市高齢者いきいきプラン21策定のための
在宅介護実態調査集計結果報告書

令和5年3月発行

柏市 保健福祉部 高齢者支援課

住 所：〒277-8505 千葉県柏市柏五丁目10番1号

電 話：04 - 7168 - 1996

ファックス：04 - 7167 - 1282